

第6章

舗 装 工

第6章 舗 装 工

第1節 一般舗装工

6-1-1 一般事項 (仕 P3-103 3-8-1)

- 1 適用工種
- 2 下層路盤の築造工法
- 3 上層路盤の築造工法
- 4 有害物の除去
- 5 異常時の処置
- 6 路肩舗装
- 7 マウントアップ歩道
- 8 アスファルト混合物
- 9 消火栓及び各弁室の鉄蓋、人孔、縁石等の舗装と接触する部分は、あらかじめ入念に清掃する。
- 10 既設舗装の切断面を整正し、清掃する。
- 11 弁栓類の鉄蓋には、乳剤等で汚さないような措置を講ずる。
- 12 弁栓類の鉄蓋の高さは路面より数ミリ程度高めに調整を行い、鉄蓋上に砂、水が溜らないようにする。

※1～8 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-2 アスファルト舗装の材料 (仕 P3-104 3-8-2)

- 1 使用材料の種類及び品質
- 2 試験結果の提出
- 3 試験成績書の提出
- 4 品質証明資料の提出
- 5 小規模工事の試験成績書
- 6 小規模工事の骨材試験
- 7 セメント安定処理・石灰安定処理に使用する骨材の最大粒径
- 8 セメント安定処理・石灰安定処理に使用する骨材の規格
- 9 加熱アスファルト安定処理に使用する骨材
- 10 安定処理に使用する骨材の規格
- 11 下層路盤の材料規格
- 12 上層路盤の材料規格
- 13 上層路盤の石油アスファルトの規格
- 14 アスファルト安定処理の材料規格
- 15 使用する水
- 16 再生アスファルトの規格
- 17 適用規定（再生アスファルト（1））
- 18 適用規格（再生アスファルト（2））
- 19 剥離防止対策
- 20 基層及び表層に使用する骨材
- 21 基層及び表層に使用する細骨材
- 22 基層及び表層に使用するフィラー
- 23 適用規定（加熱アスファルト）
- 24 マーシャル安定度試験
- 25 混合物の種類とアスファルト量

26 プライムコート用石油アスファルト乳剤

27 タックコート用石油アスファルト乳剤

※1～27 愛知県標準仕様書準拠

6-1-3 コンクリート舗装の材料（仕 P3-112 3-8-3）

1 一般事項

2 適用規定

3 コンクリートの強度

4 転圧コンクリート舗装

※1～4 愛知県標準仕様書準拠

6-1-4 舗装準備工（仕 P3-113 3-8-4）

1 一般事項

2 異常時の処置

3 防水層施工の禁止期間

※1～3 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-5 アスファルト舗装工（仕 P3-113 3-8-5）

1 粒状路盤の施工

2 路盤の仕上り厚が2層以上になる場合の施工

3 粒状路盤におけるタンパ・振動ローラ等による締固め

4 下層路盤の規定

5 上層路盤の規定

6 セメント及び石灰安定処理の規定

7 加熱アスファルト安定処理の規定

8 基層及び表層の規定

9 交通解放時の舗装表面温度

※1～9 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-6 コンクリート舗装工（仕 P3-119 3-8-6）

1 下層路盤の規定

2 上層路盤の規定

3 セメント及び石灰安定処理の規定

4 加熱アスファルト安定処理の規定

5 アスファルト中間層の規定

6 コンクリートの配合基準

7 材料の質量計量誤差

8 コンクリート舗装の規定

9 コンクリート舗装の敷均し、締固め規定

10 コンクリート舗装の金網設置の規定

11 コンクリート舗装の表面仕上げ規定

12 コンクリート舗装のコンクリート養生の規定

13 転圧コンクリート舗装の規定

14 コンクリート舗装目地の規定

15 転圧コンクリート舗装の目地

※1～15 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-7 半たわみ性舗装工（仕 P7-19 2-3-6）

- 1 改質アスファルト
- 2 半たわみ性舗装の施工
- 3 浸透性ミルクの使用量
- 4 適用規定

※1～4 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-8 排水性舗装工（仕 P7-19 2-3-7）

- 1 適用規定（1）
- 2 適用規定（2）
- 3 バインダ（アスファルト）の標準的性能
- 4 タックコートに用いる瀝青材
- 5 ポーラスアスファルト混合物の配合
- 6 混合時間
- 7 施工方法
- 8 施工工程

※1～8 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-9 透水性舗装工（仕 P7-22 2-3-8）

- 1 透水性舗装工の施工
- 2 ポーラスアスファルト混合物の配合
- 3 歩道用透水性アスファルト混合物の配合

※1～3 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-10 薄層カラー舗装工（仕 P3-128 3-8-7）

- 1 施工前準備
- 2 異常時の処置
- 3 薄層カラー舗装の規定
- 4 使用機械汚れの除去

※1～4 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-11 ブロック舗装工（仕 P3-129 3-8-8）

- 1 適用規定
- 2 ブロック舗装の施工
- 3 端末部及び曲線部の処置
- 4 ブロック舗装工の規定
- 5 目地材、サンドクッション材
- 6 路盤の転圧
- 7 インターロッキングブロックの規格
- 8 ブロックの色彩・パターン

※1～8 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-12 路面切削工（仕 P7-132 13-4-3）

- 1 現地の計測
- 2 現地測量による方法

※1～2 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-13 切削オーバーレイ工（仕 P7-133 13-4-5）

- 1 適用規定
- 2 切削面の整備
- 3 舗設

※ 1 ～ 3 愛知県標準仕様書に準拠

6-1-14 舗装途中の段差（仕 P7-167 第 15 章 第 4 節 舗装工 15-4-1 一般事項）

- 1 適用工種
- 2 段差の処理
 - （1）縦断段差
 - （2）横断段差
 - （3）支道摺付・路肩摺付
- 3 摺付
- 4 施工計画書において、現場の条件を反映した具体的な施工方法を記載すること。
- 5 請負業者は、施工計画書の記載内容を遵守するとともに、現場に即した端部摺付施工を行うこと。

※ 1 ～ 3 愛知県標準仕様書に準拠

第 2 節 歩道舗装工

6-2-1 車両の出入口部分の舗装

- 1 舗装は、第 1 節に準じて施工する。
- 2 車道との摺付部分は、周囲の状況に合わせて勾配を付ける。また、歩車道境界ブロック及び摺付の隅角部は段差を付けず適当な勾配により調整する。

6-2-2 歩道の巻込み部に接する歩道舗装

- 1 歩道幅員が狭い場合は、現況に応じ、巻込み部の歩道止石全部を切り下げる。
- 2 切下げは、その平坦部が植樹柵等の路上施設帯に入らない限り車道寄りに設置する。
- 3 切下げ平坦部の歩道止石等の天端高は、車道面から滑らかに摺付ける。また、平坦部の長さは 1.5m 程度を標準とする。
- 4 マウントアップ歩道の摺付舗装は、摺付勾配を 5 % 以下とし、滑らかに仕上げなければならない。なお、沿道の状況によりやむを得ない場合は 8 % 以下とする。（仕 P3-103）

6-2-3 横断歩道部及び中央分離帯等に接する歩道舗装

- 1 横断歩道部及び中央分離帯等は、周囲の状況に応じて横断歩道全幅にわたり切り下げる。
- 2 切下げ平坦部の歩車道、境界石天端高は、車道面と滑らかにすり付ける。
- 3 歩道内の摺付舗装は、本節 6-2-1 の 2 に準じて施工する。
- 4 中央分離帯等の横断歩道部は全部を一様に切下げ、摺付は行わない。

第3節 区画線工（仕 P3-59 3-3-10）

6-3-1 区画線工

- 1 一般事項
- 2 仮区画線
- 3 修繕工事等における路面切削または基層・中間層の舗設等に設置する仮区画線
- 4 区画線施工前の打合せ
- 5 路面への作図
- 6 区画線施工の接着
- 7 区画線施工と気温
- 8 塗料溶解槽の温度
- 9 ガラスビーズの散布
- 10 区画線の消去
- 11 既設区画線の消去

※1～11 愛知県標準仕様書に準拠

6-3-2 区画線の規格（仕 P2-32 2-12-2）

- 1 区画線の品質規格
- 2 区画線の品質規格及び材料使用量
- 3 区画線設置の巾及び色彩

※1～3 愛知県標準仕様書に準拠

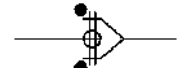
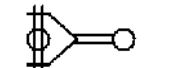
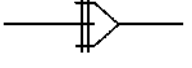
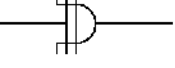
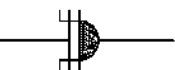
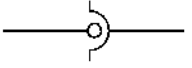
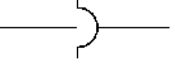
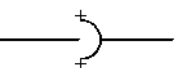
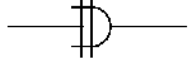
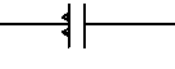
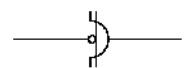
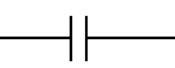
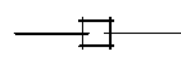
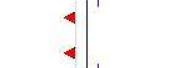
第7章

図 面 記 号

第7章 図面記号

第1節 図面記号

7-1-1 鋳鉄管継手

名 称	記 号	名 称	記 号
G X 形 継 手		G X 形 ラ イ ナ	
G X 形 G-Link		G X 形 P-Link	
N S 形 継 手		S II 形 押 輪	
N S 形 ラ イ ナ		S II 形 ラ イ ナ	
N S 形 特殊割押輪		S II 形 継 輪 (特 殊 工 法)	
K 形 普 通 押 輪		A 形 普 通 押 輪	
K 形 特 殊 押 輪		A 形 特 殊 押 輪	
S 形 押 輪		G F 形 フ ラ ン ジ	
K F 形 押 輪		R F 形 フ ラ ン ジ	
異 種 管 継 手 (ドレッサー)		フランジ補強金具	

7-1-2 ダクタイル鋳鉄管 (D I G)

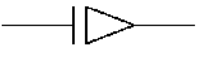
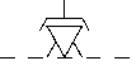
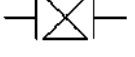
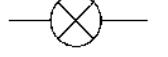
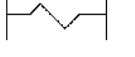
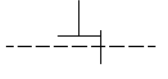
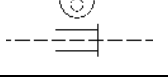
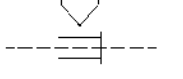
名 称	記 号	名 称	記 号
二 受 T 字 管		挿 し 受 片 落 管	
受 挿 し 片 落 管		継 輪	
曲 管 (片 受 け)		乙 字 管 (片 受 け)	
曲 管 (両 受 け)			
フ ラ ン ジ 付 T 字 管 (G F 形)		フ ラ ン ジ 短 管 G F × R F	
短 管 1 号 (G F 形)		短 管 2 号 (G F 形)	
管 帽		両 受 短 管	
栓		排 水 T 字 管	

注. 短管1号、短管2号及び栓はJWWA、JDP A規格には含まれない。

7-1-3 ダクタイル鋳鉄管 (D I N)

名 称	記 号	名 称	記 号
三 受 + 字 管		二 受 T 字 管	
受 挿 し 片 落 管		挿 し 受 片 落 管	
曲 管 (片 受 け)		乙 字 管 (片 受 け)	
フ ラ ン ジ 付 T 字 管 (G F 形)		継 輪	
短 管 1 号 (G F 形)		短 管 2 号 (G F 形)	
管 帽		栓	
フ ラ ン ジ 短 管 G F × R F		排 水 T 字 管	

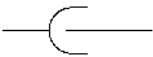
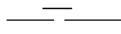
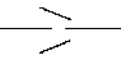
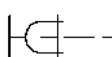
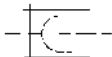
7-1-4 弁栓類

名 称	記 号	名 称	記 号
青銅製ソフトシール仕切弁 ($\phi 30 \sim 50$)		単 口 消 火 栓	
青 銅 製 仕 切 弁 (仮 設 用)		単 口 空 気 弁	
ソフトシール仕切弁 (GX形両受口型)		空 気 弁 付 消 火 栓 空 気 弁 内 臓 型 消 火 栓	
ソフトシール仕切弁 (NS形両受口型)		2 弁 式 消 火 栓	
ソフトシール仕切弁 (フランジ形)		双 口 空 気 弁	
仕 切 弁 (メタルタッチ)		水 道 用 補 修 弁 GF×RF	
ソフトシール仕切弁 (PE挿し口付 融着)		減 圧 弁	
ソフトシール仕切弁 (K-受挿し形)		逆 止 弁	
ソフトシール仕切弁 (SⅡ形)		サドル分水栓	
不 断 水 仕 切 弁		副 弁 付 止 水 栓	
バ タ フ ラ イ 弁		甲 止 水 栓	
耐震 NS 形両受口型 バタフライ弁		乙 止 水 栓	
伸縮可とう管 (W形)		オフセットマーカ	
フ レ キ シ ブ ル 管		耐震型割T字管 分岐部挿し口	
割 T 字 管		耐震型割T字管 分岐部K形受け口	
耐震型割T字管 分岐部NS形受け口			

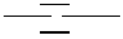
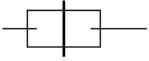
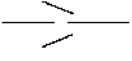
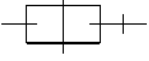
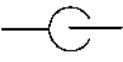
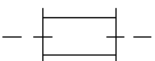
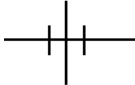
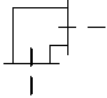
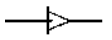
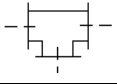
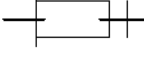
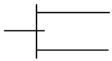
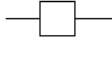
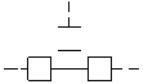
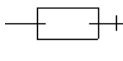
7-1-5 水道配水用ポリエチレン管（HPP）

名 称	記 号	名 称	記 号
受 口 無 し 直 管 (融着)		F 付き E F 両受チーズ (融着) G F 形	
E F 片 受 直 管 (融着)		キ ャ ッ プ (融着)	
レ デ ュ ー サ ー (融着)		E F キ ャ ッ プ (融着)	
E F 片受レデューサー (融着)		フ ラ ン ジ 短 管 1 号 (融着) G F 形	
チ ー ズ (融着)		フ ラ ン ジ 短 管 2 号 (融着) G F 形	
E F 両 受 チ ー ズ (融着)		P E 挿 し 口 付 鋳 鉄 製 T 字 管 (融着) G F 形	
ベ ン ド (融着)		回 転 型 オ ネ ジ 継 手 (融着)	
		変 換 ソ ケ ッ ト (金属継手)	
E F 片 受 ベ ン ド (融着)		異 種 管 継 手 (融着) G X 挿 口 × H P P 挿 口	
		異 種 管 継 手 (融着) N S 挿 口 × H P P 挿 口	
E F 両 受 ベ ン ド (融着)		異 種 管 継 手 (融着) K 挿 口 × H P P 挿 口	
		異 種 管 継 手 (融着) 塩 ビ 受 口 × H P P 挿 口	
S ベ ン ド (融着)		鋳 鉄 製 ジ ョ イ ン ト (H P P 用)	
		鋳 鉄 製 フ ラ ン ジ 短 管 1 号 (H P P 用)	
E F 片 受 S ベ ン ド (融着)		鋳 鉄 製 チ ー ズ (H P P 用)	
		鋳 鉄 製 F 付 チ ー ズ (H P P 用)	
E F 両 受 S ベ ン ド (融着)		鋳 鉄 製 管 帽 (H P P 用)	
		フ ク ロ ジ ョ イ ン ト (H P P 用)	
E F ソ ケ ッ ト (融着)			

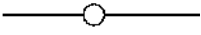
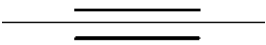
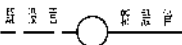
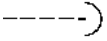
7-1-6 塩化ビニル管（H I R・H I V）

名 称	記 号	名 称	記 号
R R 継 手		H I ソ ケ ッ ト	
離 脱 防 止 内 蔵 型 ソ ケ ッ ト		H I 径 違 い ソ ケ ッ ト	
離 脱 防 止 内 蔵 型 片 落 管 受 挿 し		H I チ ー ズ	
離 脱 防 止 内 蔵 型 ベ ン		H I エ ル ボ	
離 脱 防 止 内 蔵 型 片 フ ラ ン ジ 鋳 鉄 短 管		H I ベ ン ド	
離 脱 防 止 内 蔵 型 鋳 鉄 製 チ ー ズ		H I キ ャ ッ プ	
離 脱 防 止 金 具 ド レ ッ サ ー 型		H I バ ル ブ ソ ケ ッ ト	
離 脱 防 止 内 蔵 型 キ ャ ッ プ		M C ユ ニ オ ン	

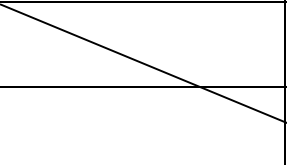
7-1-7 鋼管（SGP）・ポリエチレン管（PEP）

名 称	記 号	名 称	記 号
鋼管用ソケット		ユニオン	
鋼管用径違いソケット		自在PGユニオン	
鋼管用チーズ		立ち上がり	
鋼管用エルボ		小口径管継手ソケット（HILA式）	
鋼管用ニップル		小口径管継手エルボ（HILA式）	
鋼管用ブッシング		小口径管継手チーズ（HILA式）	
鋼管用プラグ		おすアダプター（HILA式）	
鋼管用キャップ		めすアダプター（HILA式）	
鋼管用クロス		ポリエチレン管用ソケット	
ポリエチレン管用チーズ		ポリエチレン管用ベンド	
ポリエチレン管用エルボ		ポリエチレン管用ワンタッチ継手P×オネジ	

7-1-8 平面図の一般記号

名 称	記 号	名 称	記 号
口 径 変 化 点		交 差 (ク ロ ス)	
上 越		下 越	
排 水 設 備		推 進	
減 圧 弁		施 工 起 終 点	
φ 3 0 ~ 5 0 仕切弁		メタルタッチ仕切弁 φ 75 以上	
ソフトシール仕切弁 φ 5 0 以上		管 末	

7-1-9 管類表示

名 称	記 号	名 称	記 号	名 称	記 号
ダクタイル鋳鉄管 GX形 DIP-GX	D I G	塩化ビニル管 VP	V P	硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VB・VLP	S G P
ダクタイル鋳鉄管 NS形 DIP-NS	D I N	耐衝撃性硬質塩化ビニル管 HI-VP	H I V	ステンレス鋼管 SUS	S U S
ダクタイル鋳鉄管 S形 DIP-S DIP-KF	D I S	ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管 HI-RR	H I R	繊維補強ポリエチレン管 FPP	F P P
ダクタイル鋳鉄管 K形 DIP-K	D I K	ポリエチレン二層管 PEP	P E P	保温保冷材付繊維補強ポリエチレン管 KFP	K F P
ダクタイル鋳鉄管 SⅡ形 DIP-SⅡ	D I S	石 綿 管	A C P	水道配水用ポリエチレン管(融着) HPPE	H P P
ダクタイル鋳鉄管 A形(内面エポキシ)	D I E	鋳 鉄 管	C I P		
ダクタイル鋳鉄管 A形(内面モルタル)	D I P	ポリエチレン粉体ライニング鋼管 SGP-PB	S G P		

7-1-10 呼 び 径

呼 び 径	記 号	呼 び 径	記 号
2 5		2 5 0	— — — — —
3 0		3 0 0	— < - > —
4 0		3 5 0	— < - - > —
5 0	- - - - -	4 0 0	— < - - - > —
7 5	- - - - -	4 5 0	— < × > —
1 0 0	— — — — —	5 0 0	— < × × > —
1 2 5	- - - - -	6 0 0	— < × × × > —
1 5 0	— - — — -	7 0 0	— — — × —
2 0 0	— - - — —	8 0 0	— — — × × —

7-1-11 占用物件その他記号

名 称	記 号	名 称	記 号
電 気 電 柱	—  —	電 気 人 孔	
電 話 電 柱	—  —	電 話 人 孔	
信 号 機 電 柱	—  —	ガ ス ピ ッ ト	
電 気 ケ ー ブ ル	— <  > —	下 水 人 孔	
電 話 ケ ー ブ ル	— <  > —	水 準 点	
ガ ス 管	 — <  > —	仮 基 準 点	
下 水 道 管	 — <  > —	用 地 杭	
工 業 用 水	 — <  > —		

7-1-12 標識シート色区分

名 称	色 別	名 称	色 別
上 水 道	青	ガ ス	緑
工 業 用 水 道	白	N T T	オレンジ
下 水 道	茶	電 気	赤

第2節 接続標準図

7-2-1 既設管への接続（GX形管）

GX形直管や異形管、ライナなどの接合の組合せの種類をまとめた接合パターンを表16に示す。GX形で構築される管路はこれらの接合パターンを組み合わせで接合される。

既設管を切断することが可能な場合は、表17に示す方法で接続する。なお図中の継ぎ輪は両受短管でも同様に接合可能である（異形管との接続は両受短管のみ可能）。

既設管との接続において、既設管の挿し口および受口を切断せずに接続する場合の例を表30～33（表31はK型φ400mmとの接合方法のため省略）に示す。

表16 接合パターン

① 直管挿し口と直管受口の接合	② 直管挿し口と直管受口（ライナ）の接合
③ 切管挿し口と直管受口の接合¹⁾	④ 切管挿し口と直管受口（ライナ）の接合¹⁾
⑤ 異形管挿し口と直管受口（ライナ）の接合	⑥ 異形管挿し口と異形管受口の接合
⑦ 直管挿し口と異形管受口の接合	⑧ 切管挿し口と異形管受口の接合²⁾

注1) P-Linkを用いた接合は、呼び径75～300に適用可能。

呼び径400では、切管挿し口にGX形切管用挿し口リングを取り付けてGX形直管受口と接合する。

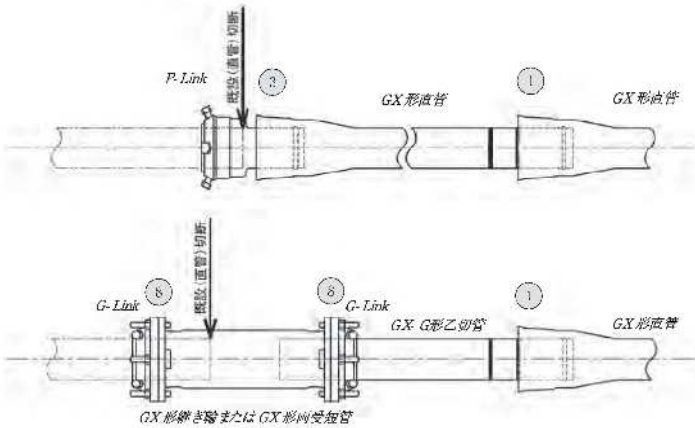
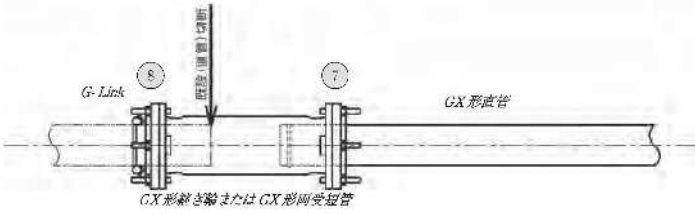
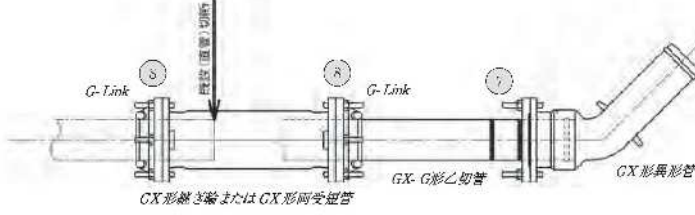
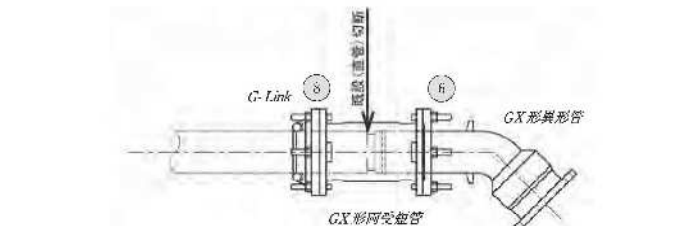
この場合、切管の管種は1種管であることが必要。

注2) G-Linkを用いた接合は、呼び径75～300に適用可能。

呼び径400では、切管挿し口にGX形切管用挿し口リングを取り付けてGX形异形管受口と接合する。

この場合、切管の管種は1種管であることが必要。

表17 既設管を切断する場合の接続方法

(1) 既設を切断し、GX 形直管受口を接合する場合 ¹⁾ 、2)	[既設] 直管を切断  [新設] GX 形直管 受口
(2) 既設を切断し、GX 形直管挿し口を接合する場合 ¹⁾ 、2)	[既設] 直管を切断  [新設] GX 形直管 挿し口
(3) 既設を切断し、GX 形異形管受口を接合する場合 ¹⁾ 、2)	[既設] 直管を切断  [新設] GX 形異形管 受口
(4) 既設を切断し、GX 形異形管挿し口を接合する場合 ¹⁾	[既設] 直管を切断  [新設] GX 形異形管 挿し口

備考) ○ 内の数値は、「表 16 GX 形接合パターン」の番号を示す。

注1) 切管ユニット (P-Link、G-Link) を使用しない場合には、既設管切断部に GX 形切管用挿し口リングを取り付け、GX 形直管受口あるいは GX 形異形管受口と接続する。この場合、既設管の管種は 1 種管である必要がある。呼び径 400 については、切管ユニット (P-Link、G-Link) が存在しないため、必ず切管用挿し口リングを用いた接続方法となる。

2) 呼び径 300、400 において既設管切断部に継ぎ輪が接続される場合には、GX 形切管用挿し口リング (継ぎ輪接合用) を用いる場合に限る、1 種管以外との接続が可能である。

表30 既設管との接続方法例（既設管が呼び径75～300 K形の場合）

(1)既設 K 形直管受口ーGX 形直管挿し口 〔既設〕 K 形直管 受口		〔新設〕 GX 形直管 挿し口
(2)既設 K 形直管受口ーGX 形異形管挿し口 〔既設〕 K 形直管 受口		〔新設〕 GX 形異形管 挿し口
(3)既設 K 形異形管受口ーGX 形直管挿し口 〔既設〕 K 形異形管 受口		〔新設〕 GX 形直管 挿し口
(4)既設 K 形異形管受口ーGX 形異形管挿し口 〔既設〕 K 形異形管 受口		〔新設〕 GX 形異形管 挿し口
(5)既設 K 形直管挿し口ーGX 形直管受口 〔既設〕 K 形直管 挿し口		〔新設〕 GX 形直管 受口
(6)既設 K 形直管挿し口ーGX 形異形管受口 〔既設〕 K 形直管 挿し口		〔新設〕 GX 形異形管 受口
(7)既設 K 形異形管挿し口ーGX 形直管受口¹⁾ 〔既設〕 K 形異形管 挿し口		〔新設〕 GX 形直管 受口
(8)既設 K 形異形管挿し口ーGX 形異形管受口¹⁾ 〔既設〕 K 形異形管 挿し口		〔新設〕 GX 形異形管 受口

備考) 〇内の数値は、「表16 GX形接合パターン」の番号を示す。

注 1) K 形異形管挿し口と GX 形異形管受口の接合については、K 形異形管の種類によって正常な接合が出来ない場合もあるため、事前に接合可否の検討が必要である。

表32 既設管との接続方法例（既設管が呼び径75～250NS形の場合）

(1)既設 NS 形直管受口－GX 形直管挿し口		〔新設〕 GX 形直管 挿し口
(2)既設 NS 形直管受口－GX 形異形管挿し口		〔新設〕 GX 形異形管 挿し口
(3)既設 NS 形異形管受口－GX 形直管挿し口		〔新設〕 GX 形直管 挿し口
(4)既設 NS 形異形管受口－GX 形異形管挿し口		〔新設〕 GX 形異形管 挿し口
(5)既設 NS 形直管挿し口－GX 形直管受口		〔新設〕 GX 形直管 受口
(6)既設 NS 形直管挿し口－GX 形異形管受口		〔新設〕 GX 形異形管 受口
(7)既設 NS 形異形管挿し口－GX 形直管受口		〔新設〕 GX 形直管 受口
(8)既設 NS 形異形管挿し口－GX 形異形管受口		〔新設〕 GX 形異形管 受口

備考) ○ 内の数値は、「表16 GX形接合パターン」の番号を示す。

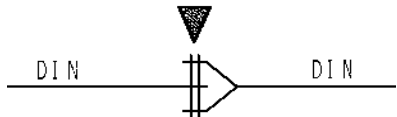
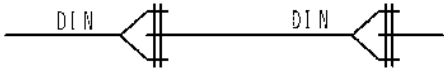
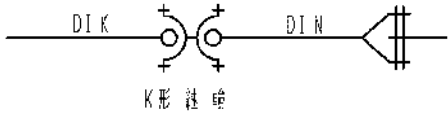
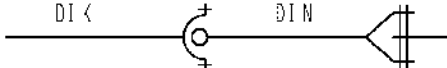
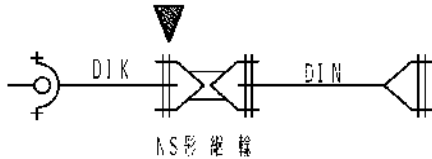
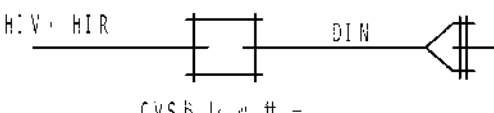
表33 既設管との接続方法例（既設管が呼び径300、400NS形の場合）

(1)既設 NS 形直管受口 - GX 形直管挿し口		
既設 NS 形直管受口		新設 GX 形直管挿し口
(2)既設 NS 形直管受口 - GX 形異形管挿し口		
既設 NS 形直管受口		新設 GX 形異形管挿し口
(3)既設 NS 形異形管受口 - GX 形直管挿し口		
既設 NS 形異形管受口		新設 GX 形直管挿し口
(4)既設 NS 形異形管受口 - GX 形異形管挿し口		
既設 NS 形異形管受口		新設 GX 形異形管挿し口
(5)既設 NS 形直管挿し口 - GX 形直管受口		
既設 NS 形直管挿し口		新設 GX 形直管受口
(6)既設 NS 形直管挿し口 - GX 形異形管受口		
既設 NS 形直管挿し口		新設 GX 形異形管受口
(7)既設 NS 形異形管挿し口 - GX 形直管受口		
既設 NS 形異形管挿し口		新設 GX 形直管受口
(8)既設 NS 形異形管挿し口 - GX 形異形管受口 ¹⁾		
既設 NS 形異形管挿し口		新設 GX 形異形管受口

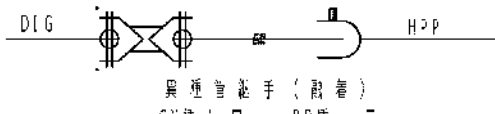
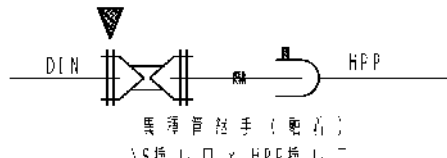
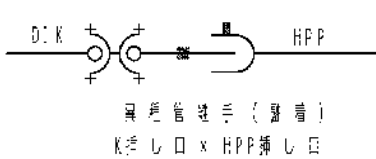
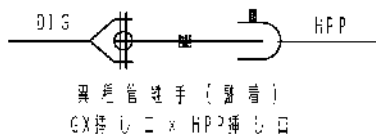
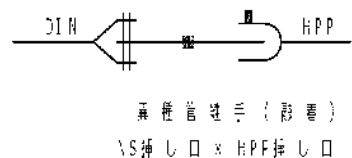
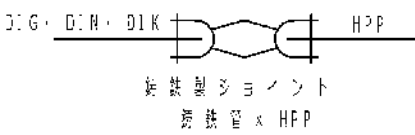
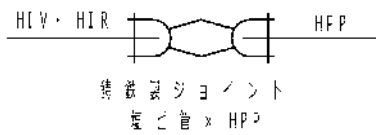
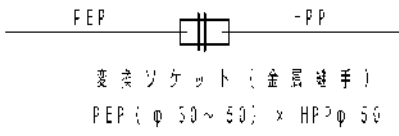
備考) ○ 内の数値は、表16「GX形接合パターン」の番号を示す。

注1) 呼び径300、400ではGX形とNS形の挿し口形状寸法は同じであるため、GX形とNS形の直接接合が可能である。ただし、NS形異形管挿し口とGX形異形管受口の接合は作業上の支障（ロックリングストップの引き抜き代の不足）が懸念されるため避けなければならない。

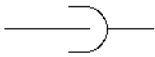
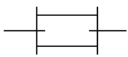
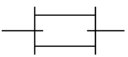
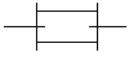
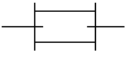
7-2-2 DINへの接続

鋳鉄管挿し口の場合 	鋳鉄管受け口の場合 
鋳鉄管挿し口の場合  K形継手	鋳鉄管受け口の場合 
鋳鉄管挿し口の場合  KS形継手	塩ビ管挿し口の場合  CVSドレッサー

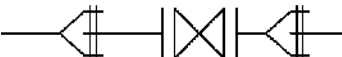
7-2-3 HPPへの接続

鋳鉄管挿し口の場合  異種管継手（融着） GX挿し口 × HPP挿し口  異種管継手（融着） VS挿し口 × HPP挿し口  異種管継手（融着） K挿し口 × HPP挿し口	鋳鉄管受け口の場合  異種管継手（融着） GX挿し口 × HPP挿し口  異種管継手（融着） VS挿し口 × HPP挿し口  異種管継手（融着） K挿し口 × HPP挿し口
塩ビ管挿し口の場合  異種管継手（融着） 塩ビ受け口 × HPP挿し口	鋳鉄管挿し口の場合（止水できない場合）  鋳鉄製ジョイント 鋳鉄管 × HPP
塩ビ管挿し口の場合（止水できない場合）  鋳鉄製ジョイント 塩ビ管 × HPP	ポリエチレン管の場合  変換ソケット（金属継手） PEP（φ 50～55） × HPPφ 50

7-2-4 塩ビ管、ポリ管の接続

塩ビ管と塩ビ管の場合 H I R、H I V H I R  RRゴム輪接続 H I R、H I V H I R  小口径管継手ソケット (HILA 式) V × V	ポリエチレン管とポリエチレン管 P E P P E P  ポリエチレン管用ソケット P E P P E P  小口径管継手ソケット (HILA 式) P × P
ポリエチレン管と塩ビ管 P E P H I R、H I V  小口径管継手ソケット (HILA 式) P × V	ポリエチレン管と鋼管 P E P S G P  小口径管継手ソケット (HILA 式) P × G

7-2-5 仕切弁の接続

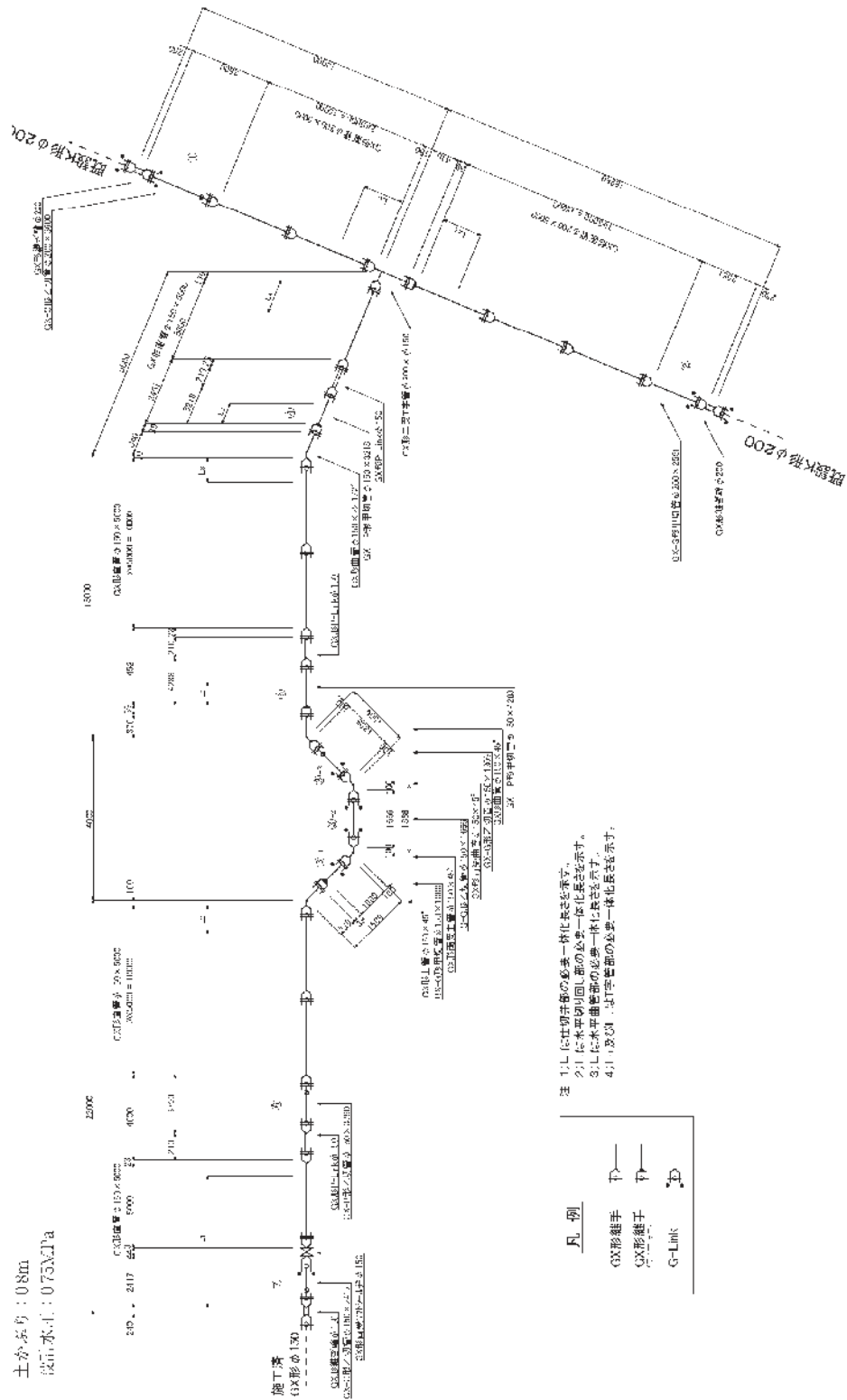
仕切弁（G X 形両受口型）の場合 D I G ϕ 75 ~ 400 mm 	仕切弁（N S 形両受口型）の場合 D I N ϕ 350 ~ 400 mm 
仕切弁（フランジ型）の場合 D I G ϕ 75 ~ 400 mm  D I N ϕ 75 ~ 400 mm 	仕切弁（P E 挿し口付）の場合 H P P ϕ 50 ~ 150 mm 
バタフライ弁（フランジ型）の場合 D I N ϕ 450 mm 以上 	仕切弁（青銅製）の場合 P E P ϕ 30 ~ 50 mm 
バタフライ弁（N S 形両受口型）の場合 D I N ϕ 500 ~ 800 mm 	

7-2-6 配管例

配管例① P-Link を使用した場合

(1)配管図

土かぶり：0.8m
設計水圧：0.75MPa



注 1. Lには切替部の必要一体化長を示す。
2. Lには水平切り直し部の必要一体化長を示す。
3. Lには水平曲管部の必要一体化長を示す。
4. L1及びL2は寸法部の必要一体化長を示す。

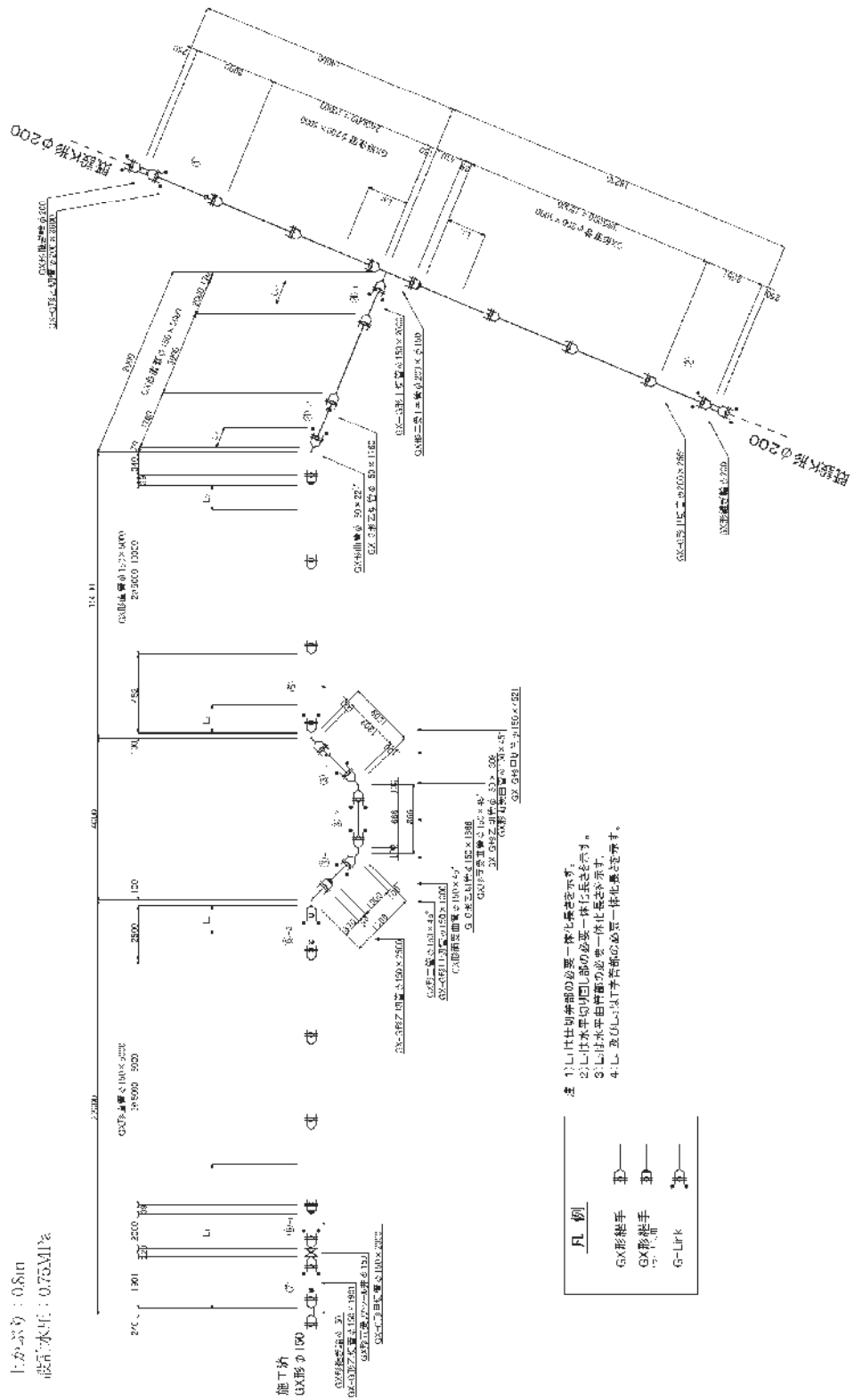
凡 例

- GX形継手
- GX形継手
- G-Link

配管例② P-Link を使用しない場合

(1)配管図

上かぶり : 0.8m
 設計水圧 : 0.75MPa



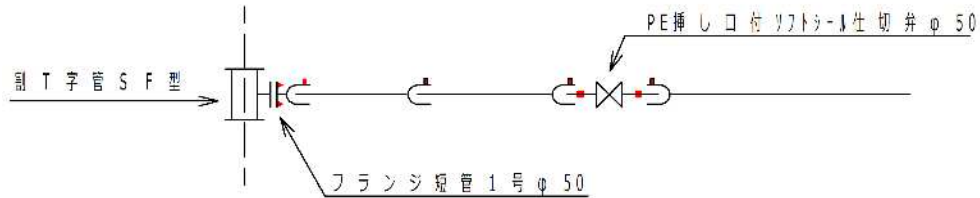
- 注 1) Lは仕切管部の必要一体化長さです。
 2) Lは水平切取部が必要一体化長さです。
 3) Lは水平切取部の必要一体化長さです。
 4) L及びL'は寸法部の必要一体化長さを示す。

凡 例	
	GK形継手
	GK形継手
	G-Link

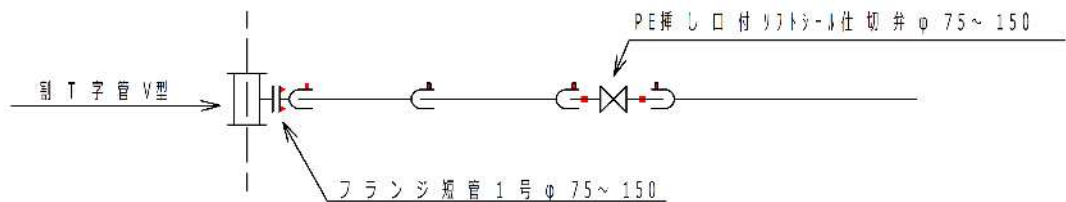
配管例③ H P P 管の布設

既設管 $\phi 75$ mm以上からの分岐

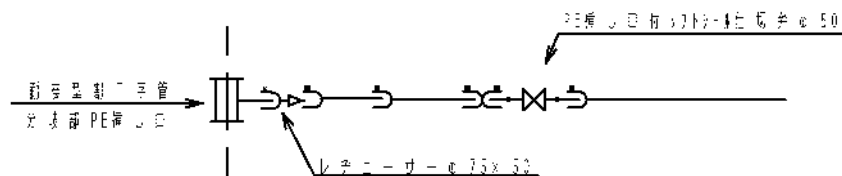
- ① 既設管が非耐震管（A・K 形）の場合
【分岐口径 $\phi 50$ mm】



- 【分岐口径 $\phi 75 \sim 150$ mm】

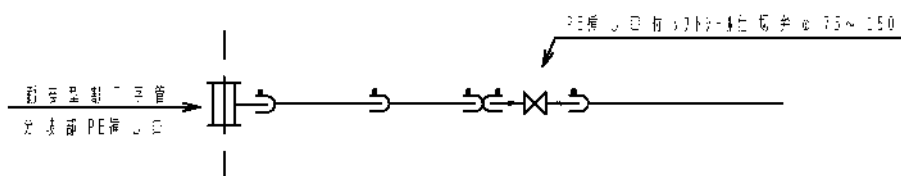


- ② 既設管が耐震管（S・SⅡ・NS・GX 形）の場合
【分岐口径 $\phi 50$ mm】



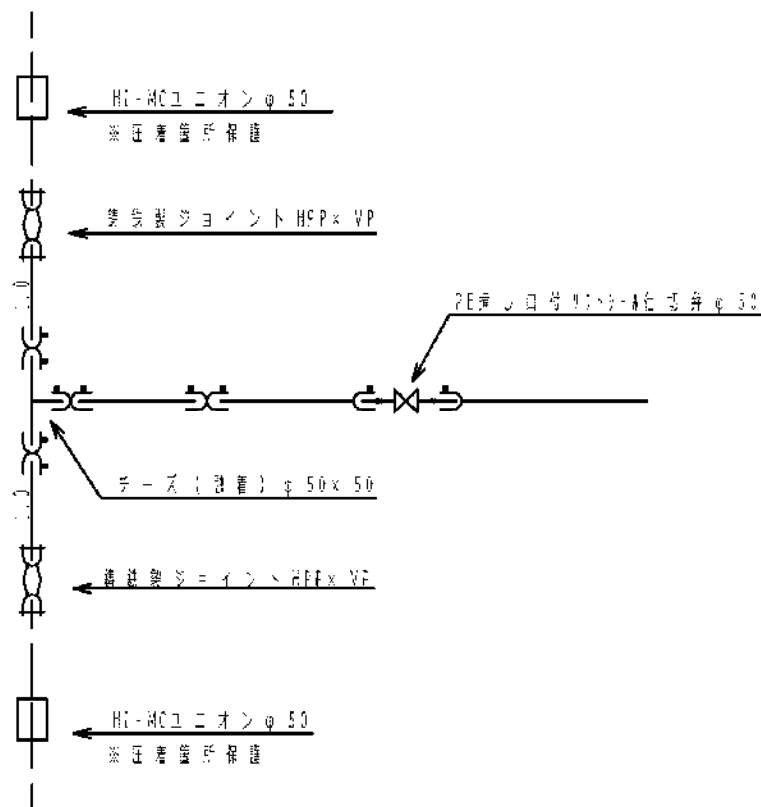
※ 大成機工の耐震型割 T 字管は分岐部で $\phi 75 \times 50$ の異径継手があり、レヂューサ不要

- 【分岐口径 $\phi 75 \sim 150$ mm】

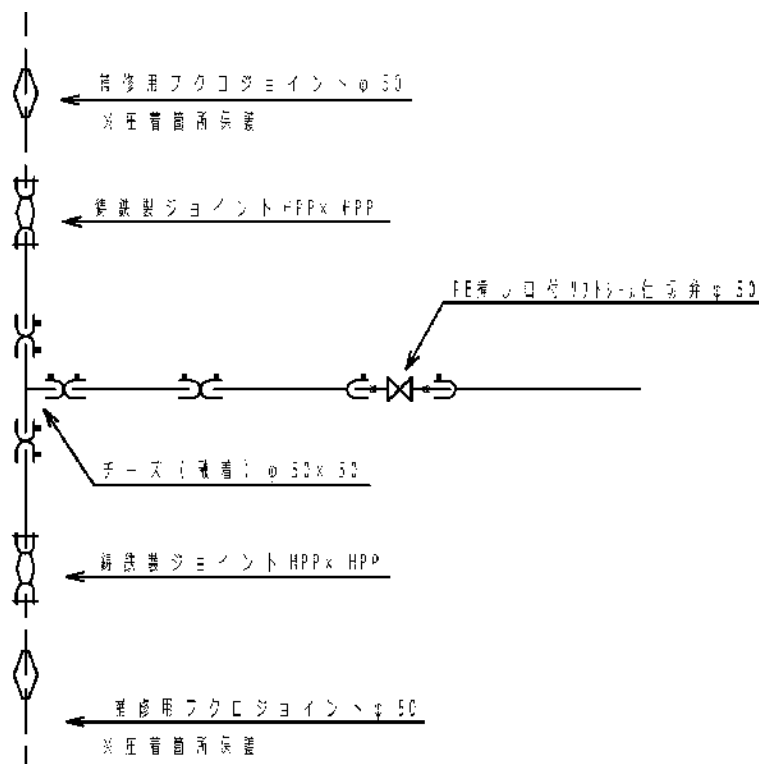


既設管φ50 mm (VP・HPP) からの分岐

① 既設管塩ビ管の場合



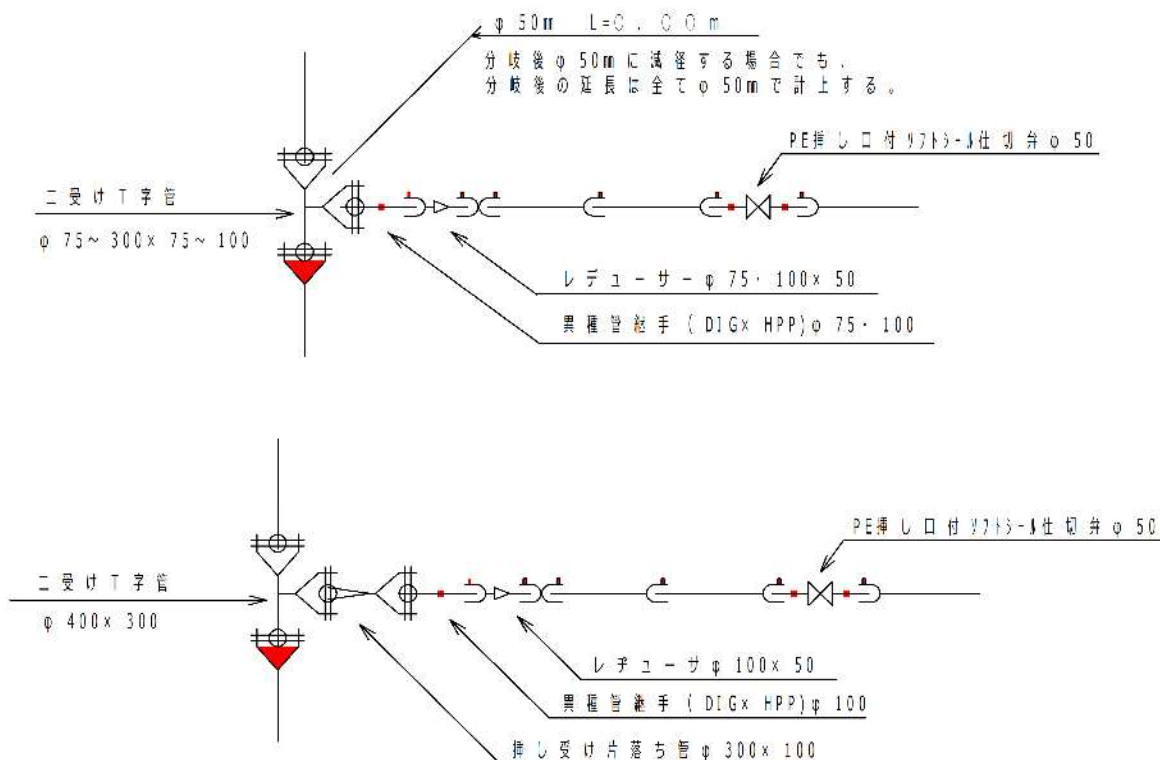
② 既設管 HPP 管の場合



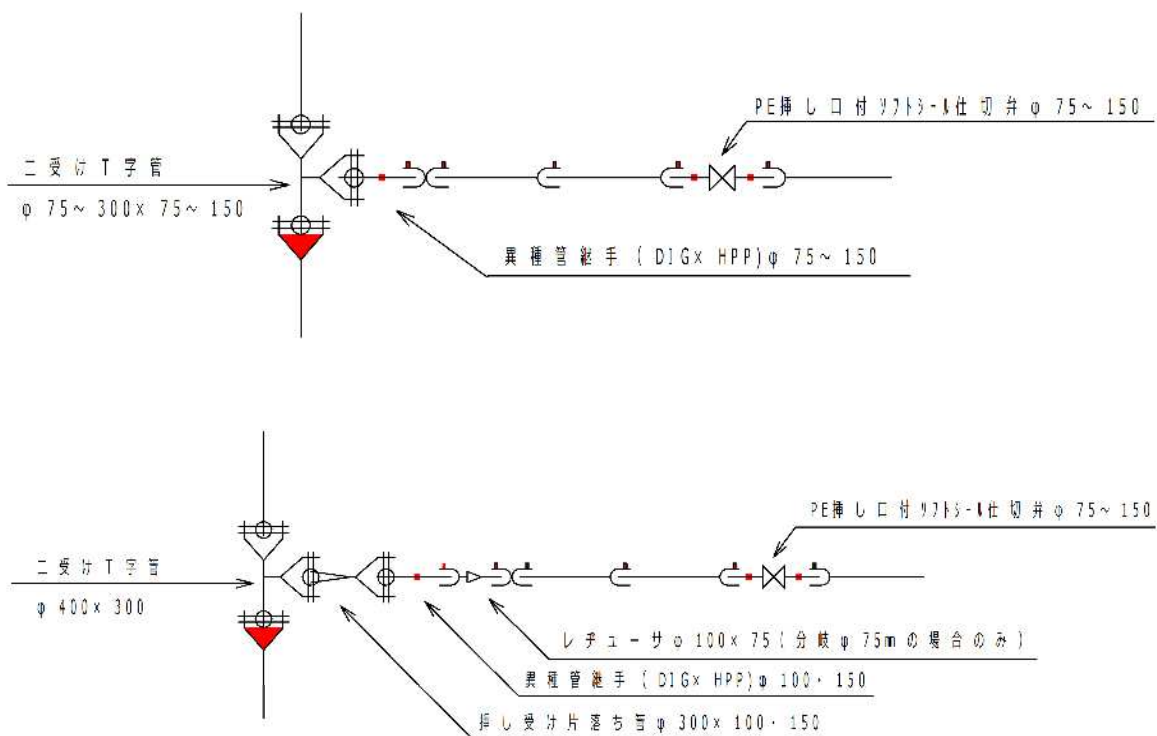
新設管φ75 mm以上からの分岐

① 新設管がGX形管（φ75～400 mm）の場合

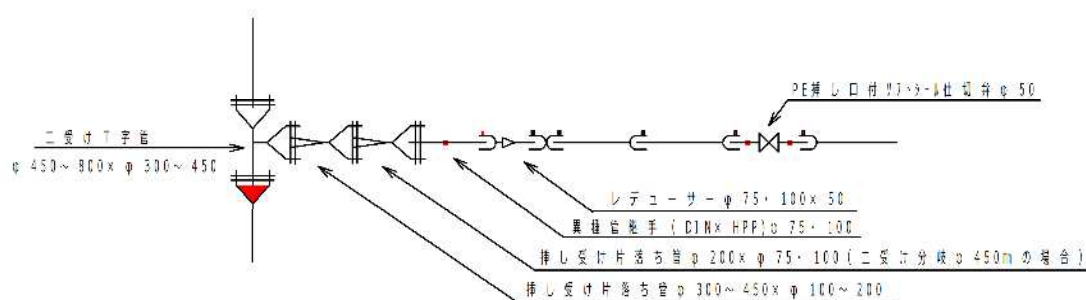
【分岐口径φ50 mm】



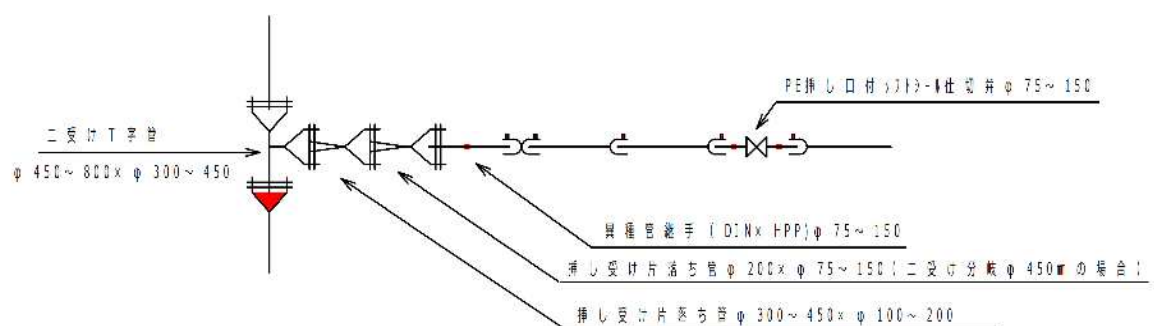
【分岐口径φ75～150 mm】



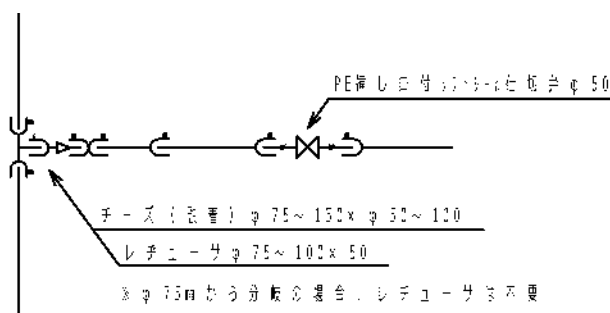
② 新設管が NS 形管（ $\phi 450$ mm以上）の場合
【分岐口径 $\phi 50$ mm】



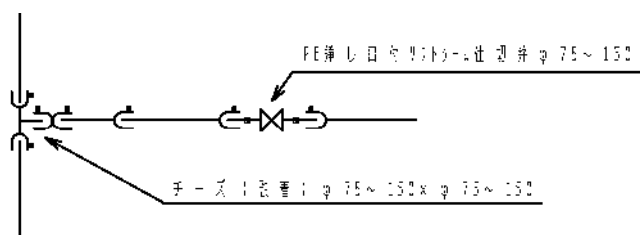
【分岐口径 $\phi 75\sim 150$ mm】



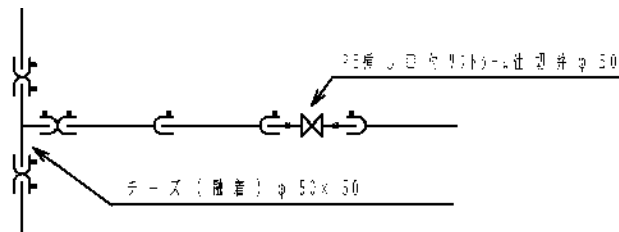
③ 新設管が HPP 管の場合
【分岐口径 $\phi 50$ mm】



【分岐口径 $\phi 75\sim 150$ mm】

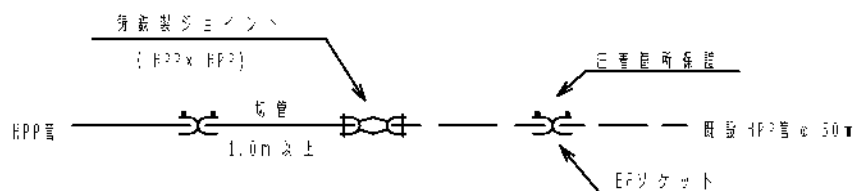


新設管φ50 mmからの分岐



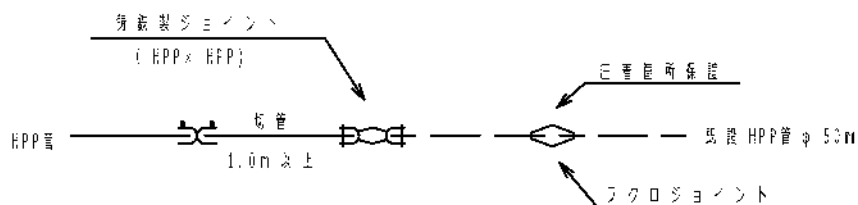
止水できない場合 ※完全止水できない場合は融着接合不可のため、鋳鉄製ジョイントで接合する。

① 既設管がHPP管の場合【EFソケットで圧着箇所保護する場合】

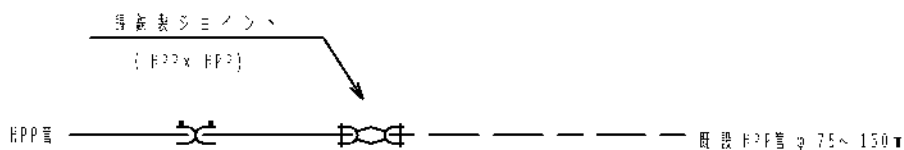


※ 圧着箇所保護にEFソケットを使用する場合には、ソケット内側の管止め用のツメを取り除き圧着部分を可能な限り円形に復旧し、ソケットを圧着箇所まで移動させ融着を行う。

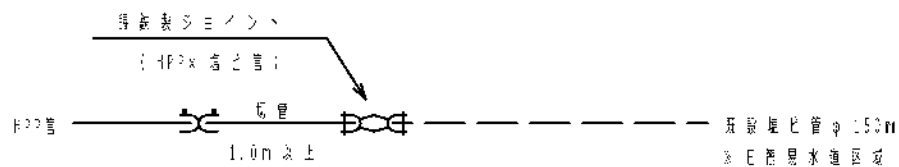
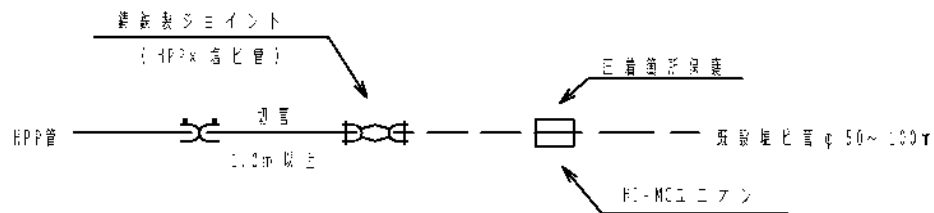
② 既設管がHPP管の場合【フクロジョイントで圧着箇所保護する場合】



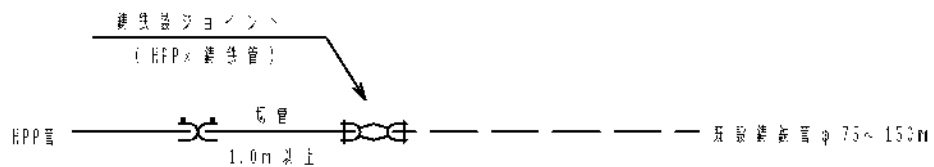
③ 既設管がHPP管の場合



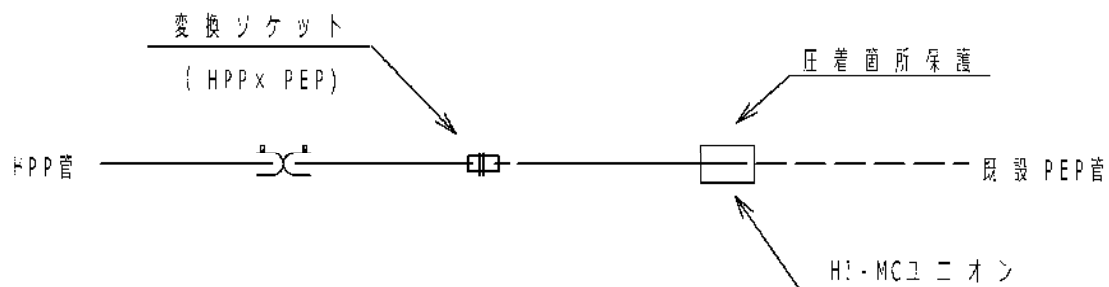
④ 既設管が塩ビ管の場合



⑤ 既設管が鋳鉄管の場合



既設 PEP 管と接続する場合



※ 既設管がφ30・40mmの場合は、変換ソケットの異径を使用する。

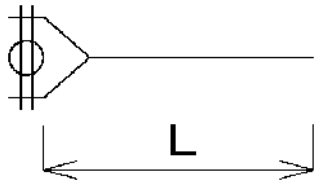
第8章

設 計 寸 法 表

第 8 章 設計寸法表

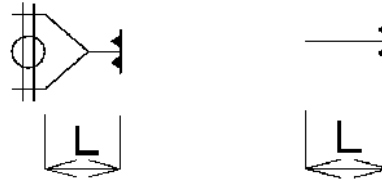
8-1 ダクタイル鋳鉄管 G X 形

① G X 形直管 S 種



② G X 形短管 1 号・2 号

注. J W W A および J D P A 規格外



単位：m

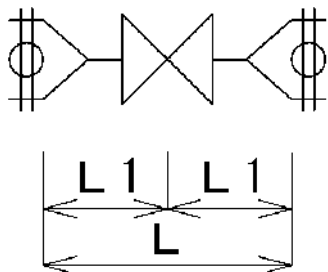
口径	外径 mm	長さ m	重量 kg/本
75	93.0	4.0	55.7
100	118.0	"	71.9
150	169.0	5.0	136.0
200	220.0	"	179.0
250	271.6	"	222.0
300	322.8	6.0	346.0
400	425.6	"	461.0

単位：m

口径	1 号 L	2 号 L
75	0.08	0.39
100	0.08	0.39
150	0.09	0.40
200	0.09	0.41
250	0.10	0.46
300	0.10	0.48
400	0.11	0.51

③ 仕切弁

G X 形両受ソフトシール

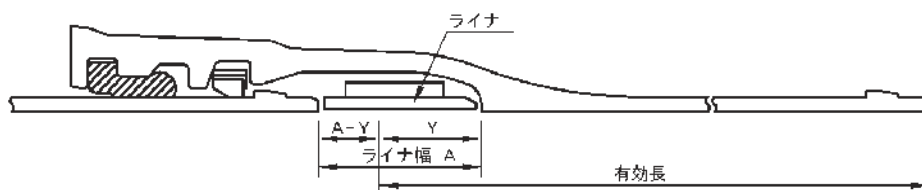


単位：m

呼び径	L 1	Σ L
75	0.09	0.18
100	0.09	0.18
150	0.11	0.22
200	0.13	0.26
250	0.15	0.30
300	0.20	0.40
400	0.25	0.50

参考データ

G X形直管受け口にライナを使用した場合の継手の伸び量



単位：mm

呼び径	ライナ幅	標準胴付寸法	継手の伸び
	A	Y	A - Y
75～100	74	45	29
150～250	99	60	39
300	126	72	54
400	130	75	55

注) 直管受け口にライナを使用した場合、上表に示すように管の有効長が (A - Y) 分だけ伸びることになる。

継輪を使用する際の両挿し口端の間隔 (y1) (継輪の使用により長くなる寸法)

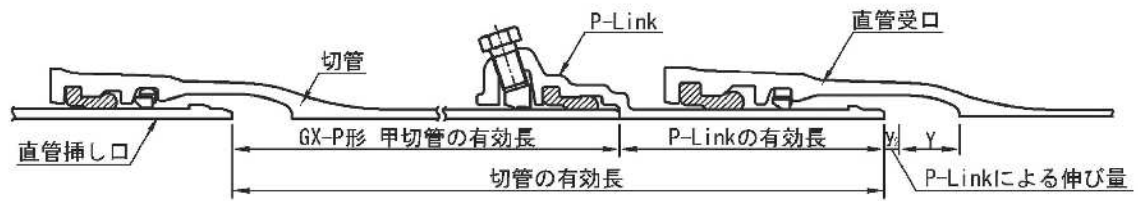


単位：mm

呼び径	挿し口白線Bと 受口端面の間隔 L'	両挿し口端面間隔 y1
75	90	190
100	95	200
150	110	240
200	120	250
250	120	250
300	135	300
400	150	300

※ ボルト締付け前にL'寸法を必ず確認すること。

P - Link を直管受け口に使用する際の伸び量 (y2)



【ライナ使用時】

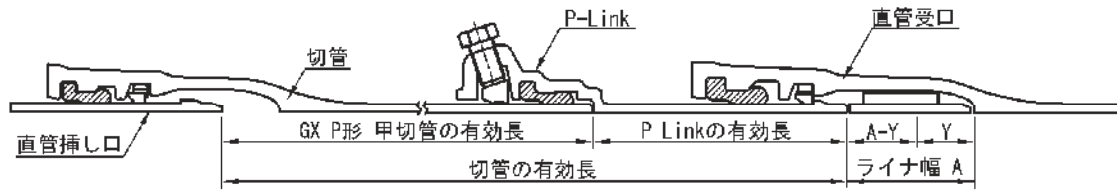
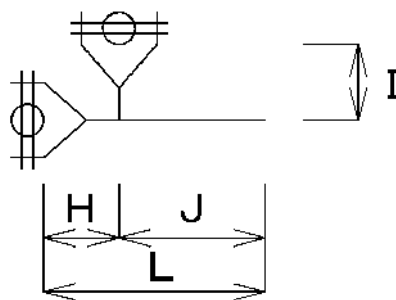


図15 P-Linkを使用した継手

単位：mm

呼び径	P - Link の有効長	P - Link による伸び量 y2
75	180	17
100	180	20
150	210	23
200	220	22
250	220	23
300	267	20

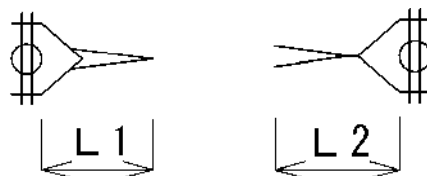
④ G X形二受T字管



单位：m

D	d	l	H	J	L
75	75	0.10	0.10	0.34	0.44
100	75	0.12	0.10	0.34	0.44
100	100	0.12	0.12	0.35	0.47
150	75	0.14	0.10	0.35	0.45
"	100	0.14	0.12	0.36	0.48
"	150	0.15	0.15	0.41	0.56
200	100	0.17	0.12	0.38	0.50
"	150	0.17	0.15	0.41	0.56
"	200	0.17	0.17	0.47	0.64
250	100	0.19	0.12	0.38	0.50
"	150	0.20	0.15	0.41	0.56
"	250	0.20	0.20	0.46	0.66
300	100	0.24	0.11	0.37	0.48
"	150	0.24	0.14	0.40	0.54
"	200	0.24	0.17	0.48	0.65
"	300	0.24	0.23	0.56	0.79
400	300	0.29	0.23	0.58	0.81
"	400	0.30	0.30	0.65	0.95

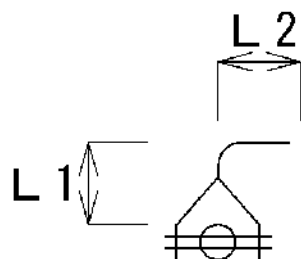
⑤ G X形片落管



単位：m

D	d	受さし L1	さし受 L2
100	75	0.41	0.41
150	100	0.41	0.42
200	150	0.42	0.44
250	200	0.44	0.44
300	100	0.72	0.71
〃	150	0.62	0.61
〃	200	0.52	0.51
〃	250	0.42	0.41
400	200	0.73	0.71
〃	300	0.53	0.53

⑥ G X形片受曲管



单位：m

D	90°			45°			22° 1/2		
	L 1	L 2	Σ L	L 1	L 2	Σ L	L 1	L 2	Σ L
75	0.11	0.37	0.48	0.07	0.33	0.40	0.05	0.31	0.36
100	0.13	0.39	0.52	0.08	0.34	0.42	0.06	0.32	0.38
150	0.18	0.45	0.63	0.10	0.37	0.47	0.07	0.34	0.41
200	0.23	0.52	0.75	0.12	0.41	0.53	0.08	0.37	0.45
250	0.28	0.57	0.85	0.14	0.43	0.57	0.08	0.38	0.46
300	0.27	0.55	0.82	0.13	0.44	0.57	0.08	0.39	0.47
400	0.38	0.66	1.04	0.18	0.48	0.66	0.10	0.40	0.50

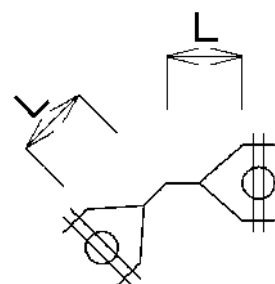
单位：m

D	11° 1/4			5° 5/8		
	L 1	L 2	Σ L	L 1	L 2	Σ L
75	0.04	0.30	0.34	0.04	0.30	0.34
100	0.05	0.31	0.36	0.05	0.31	0.36
150	0.05	0.32	0.37	0.05	0.32	0.37
200	0.06	0.35	0.41	0.06	0.35	0.41
250	0.06	0.35	0.41	0.06	0.35	0.41
300	0.06	0.34	0.40	0.05	0.33	0.38
400	0.07	0.35	0.42	0.05	0.34	0.39

⑦ G X形両受曲管

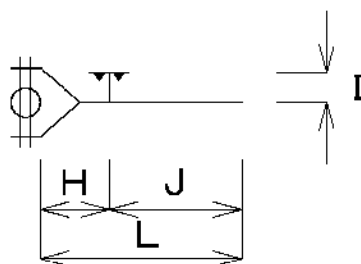
単位：m

D	45°		22° 1/2	
	L 1	Σ L	L 1	Σ L
75	0.07	0.14	0.05	0.10
100	0.08	0.16	0.06	0.12
150	0.10	0.20	0.07	0.14
200	0.12	0.24	0.08	0.16
250	0.14	0.28	0.08	0.16
300	0.13	0.26	0.085	0.17
400	0.175	0.35	0.105	0.21



※L 1 寸法に小数点第 3 位がある場合は、設計延長 Σ L 寸法を固定するようにどちらかの L 1 寸法の小数点第 3 位を切り上げ、反対側を切り捨てる。

⑧ G X形 F 付 T 字管

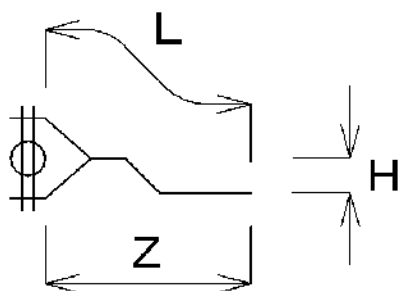


() は浅埋用

単位：m

D	d	I	H	J	L
75	75	0.20 (0.11)	0.10 (0.14)	0.34 (0.38)	0.44 (0.52)
100	75	0.20 (0.12)	0.10 (0.14)	0.34 (0.38)	0.44 (0.52)
150	75	0.25 (0.17)	0.10 (0.14)	0.35 (0.39)	0.45 (0.53)
200	75	0.25 (0.20)	0.10 (0.14)	0.37 (0.41)	0.47 (0.55)
250	75	0.30 (0.23)	0.10 (0.14)	0.37 (0.41)	0.47 (0.55)
300	75	0.30	0.10	0.36	0.46
〃	100	0.30	0.12	0.37	0.49
400	75	0.35	0.11	0.36	0.47
〃	100	0.35	0.12	0.37	0.49

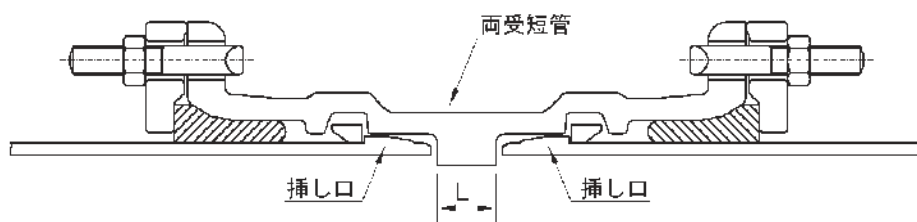
⑨ G X形乙字管



単位：m

D	H	Z	ΣL
75	0.30	0.68	0.83
75	0.45	0.73	1.01
100	0.30	0.73	0.87
100	0.45	0.78	1.04
150	0.30	0.82	0.94
150	0.45	0.89	1.11
200	0.30	0.91	1.01
200	0.45	1.01	1.20
250	0.30	0.96	1.06
250	0.45	1.06	1.24
300	0.30	1.05	1.14
300	0.45	1.17	1.33

⑩ G X形両受け短管

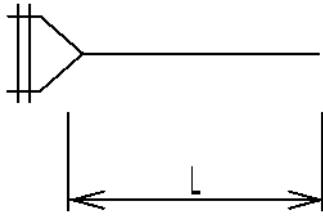


単位：m

呼び径	L
75～400	0.02

8-2 ダクタイル鋳鉄管N S形

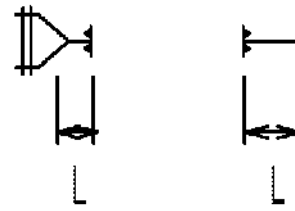
① N S形直管 第1種



単位：m

口径	外径mm	長さ m	重量kg/本
75	93.0	4.0	69.6
100	118.0	〃	89.6
150	169.0	5.0	159.0
200	220.0	〃	208.0
250	271.6	〃	257.0
300	322.8	6.0	373.0
350	374.0	〃	434.0
400	425.6	〃	547.0
450	476.8	〃	645.0
500	528.0	〃	699.0
600	630.8	〃	959.0
700	733.0	〃	1,240.0
800	836.0	〃	1,550.0
900	939.0	〃	1,890.0
1000	1041.0	〃	2,320.0

② N S形短管 1号・2号

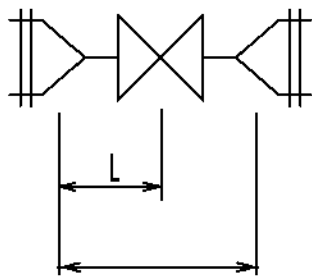


単位：m

口径	1号 L	2号 L
75	0.15	0.35
100	0.15	0.35
150	0.15	0.40
200	0.15	0.40
250	0.20	0.40
300	0.14	0.41
350	0.14	0.44
400	0.14	0.47
450	0.14	0.47
500	0.17	0.75
600	0.25	0.75
700	0.25	0.75
800	0.25	0.75
900	0.25	0.80
1000	0.25	0.80

③仕切弁

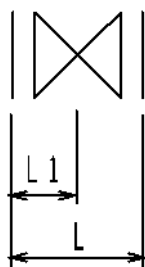
N S形両受ソフトシール



単位：m

呼び径	L 1	Σ L
75	0.10	0.20
100	0.10	0.20
150	0.13	0.26
200	0.15	0.30
250	0.18	0.36
300	0.23	0.46
350	0.25	0.50
400	0.28	0.56

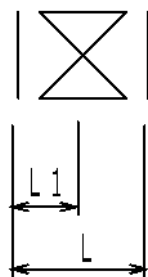
フランジ形ソフトシール



単位：m

呼び径	L 1	Σ L
75	0.12	0.24
100	0.13	0.26
150	0.14	0.28
200	0.15	0.30
250	0.19	0.38
300	0.20	0.40
350	0.22	0.44
400	0.24	0.48

バタフライ弁

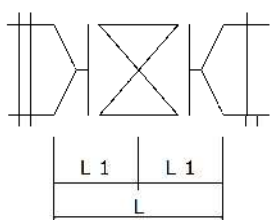


単位：m

呼び径	L 1	Σ L
400	0.24	0.48
450	0.25	0.50
500	0.27	0.54
600	0.28	0.56
700	0.31	0.62
800	0.35	0.70
900	0.37	0.74
1000	0.39	0.78

耐震 NS 両受口型バタフライ弁

単位：m



呼び径	L 1	ΣL
500	0.23	0.46
600	0.24	0.48
700	0.26	0.52
800	0.27	0.54
900	0.30	0.60
1000	0.42	0.84

【参考データ】

N S形ライナの使用により長くなる寸法(伸び量)

単位：mm

呼び径	ライナ幅	胴付寸法	伸び量
	A	Y	A - Y
75～100	72	45	27
150～250	101	60	41
300	122	69	53
350	124	70	54
400	124	71	53
450	127	73	54
500	142	75	67
600	142	75	67
700	143	75	68
800	143	75	68
900	143	75	68
1000	144	80	64

継輪の使用により長くなる寸法 (y1)

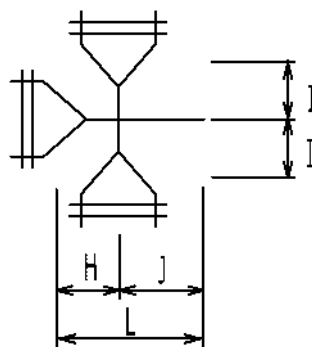
単位：mm

呼び径	L'	y1
75	80	220
100	85	220
150～250	100	250
300	150	300
350・400	160	300
450	165	300

呼び径	L'	y1
500	105	260
600	105	260
700	87	300
800	98	305
900	98	305
1000	103	310

※ ボルト締付け前にL'寸法を必ず確認すること。

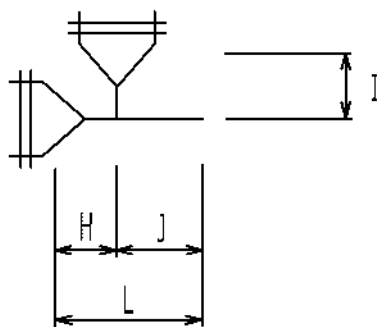
④ N S形三受十字管



单位：m

D	d	l	H	J	L
75	75	0.15	0.15	0.30	0.45
100	100	0.20	0.20	0.30	0.50
150	100	0.20	0.20	0.35	0.55
〃	150	0.20	0.20	0.35	0.55
200	150	0.25	0.20	0.35	0.55
〃	200	0.25	0.25	0.40	0.65
250	150	0.25	0.20	0.40	0.60
〃	250	0.25	0.25	0.45	0.70
300	200	0.35	0.17	0.37	0.54
〃	300	0.24	0.24	0.43	0.67
350	250	0.37	0.20	0.41	0.61
350	350	0.27	0.26	0.47	0.73
400	300	0.29	0.24	0.45	0.69
〃	400	0.30	0.29	0.52	0.81
450	300	0.31	0.24	0.45	0.69
〃	450	0.32	0.32	0.54	0.86
500	400	0.46	0.48	0.85	1.33
600	400	0.53	0.55	0.92	1.47
700	500	0.60	0.62	0.98	1.60
800	600	0.67	0.69	1.03	1.72
900	700	0.75	0.77	1.09	1.86

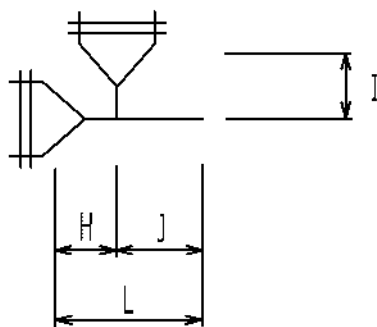
⑤ N S形二受T字管



单位：m

D	d	l	H	J	L
75	75	0.15	0.15	0.30	0.45
100	75	0.20	0.15	0.30	0.45
100	100	0.20	0.20	0.30	0.50
150	75	0.20	0.15	0.30	0.45
〃	100	0.20	0.20	0.35	0.55
〃	150	0.20	0.20	0.35	0.55
200	100	0.25	0.20	0.35	0.55
〃	150	0.25	0.20	0.35	0.55
〃	200	0.25	0.25	0.40	0.65
250	100	0.25	0.20	0.35	0.55
〃	150	0.25	0.20	0.40	0.60
〃	250	0.25	0.25	0.45	0.70
300	100	0.35	0.11	0.32	0.43
〃	150	0.35	0.14	0.35	0.49
〃	200	0.35	0.17	0.37	0.54
〃	300	0.24	0.24	0.43	0.67
350	250	0.37	0.20	0.41	0.61
〃	350	0.27	0.26	0.47	0.73
400	300	0.29	0.24	0.45	0.69
〃	400	0.30	0.29	0.52	0.81
450	300	0.31	0.24	0.45	0.69
〃	450	0.32	0.32	0.54	0.86

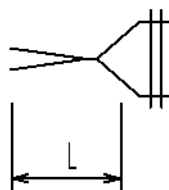
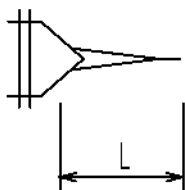
⑥ N S形二受T字管



单位：m

D	d	l	H	J	L
500	350	0.46	0.48	0.85	1.33
"	400	0.46	0.48	0.85	1.33
"	450	0.46	0.48	0.85	1.33
"	500	0.46	0.48	0.85	1.33
600	400	0.53	0.55	0.92	1.47
"	450	0.53	0.55	0.92	1.47
"	500	0.53	0.55	0.92	1.47
"	600	0.53	0.55	0.92	1.47
700	450	0.60	0.62	0.98	1.60
"	500	0.60	0.62	0.98	1.60
"	600	0.60	0.62	0.98	1.60
"	700	0.60	0.62	0.98	1.60
800	500	0.67	0.69	1.03	1.72
"	600	0.67	0.69	1.03	1.72
"	700	0.67	0.69	1.03	1.72
"	800	0.67	0.69	1.03	1.72
900	600	0.69	0.60	0.94	1.54
"	700	0.75	0.77	1.09	1.86
"	800	0.75	0.77	1.09	1.86
"	900	0.75	0.77	1.09	1.86
1000	600	0.77	0.68	0.99	1.67
"	800	0.82	0.84	1.14	1.98
"	1000	0.82	0.84	1.14	1.98

⑦ NS形片落管

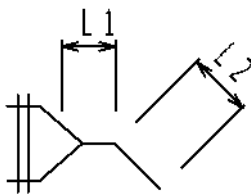


単位：m

D	d	受さし L	さし受 L
100	75	0.45	0.45
150	100	0.45	0.45
200	100	0.55	0.55
"	150	0.45	0.45
250	100	0.65	0.70
"	150	0.55	0.60
"	200	0.45	0.50
300	100	0.69	0.74
"	150	0.59	0.64
"	200	0.49	0.54
"	250	0.44	0.44
350	150	0.69	0.74
"	200	0.59	0.64
"	250	0.54	0.54
"	300	0.38	0.38
400	150	0.79	0.86
"	200	0.69	0.76
"	250	0.64	0.66
"	300	0.48	0.49
"	350	0.38	0.40
450	200	0.79	0.86
"	250	0.74	0.76
"	300	0.58	0.59
"	350	0.48	0.50
"	400	0.40	0.40

D	d	受さし L	さし受 L
500	250	0.81	0.80
"	300	0.81	0.81
"	350	0.83	0.81
"	400	0.83	0.82
"	450	0.84	0.83
600	300	0.82	0.81
"	350	0.84	0.81
"	400	0.84	0.82
"	450	0.85	0.83
"	500	0.85	0.84
700	400	1.05	1.03
"	450	1.06	1.04
"	500	1.06	1.05
"	600	1.06	1.06
800	450	1.07	1.04
"	500	1.07	1.05
"	600	1.07	1.06
"	700	1.08	1.07
900	500	1.08	1.07
"	600	1.08	1.08
"	700	1.09	1.09
"	800	1.09	1.10
1000	600	1.10	1.08
"	700	1.11	1.09
"	800	1.11	1.10

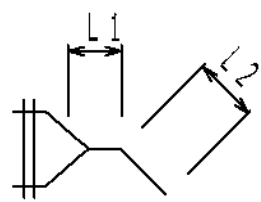
⑧ N S形片受曲管



单位：m

D	90°			45°			22° 1/2		
	L 1	L 2	Σ L	L 1	L 2	Σ L	L 1	L 2	Σ L
75	0.20	0.30	0.50	0.15	0.25	0.40	0.10	0.25	0.35
100	0.20	0.35	0.55	0.15	0.30	0.45	0.15	0.25	0.40
150	0.25	0.40	0.65	0.15	0.30	0.45	0.15	0.30	0.45
200	0.30	0.45	0.75	0.20	0.35	0.55	0.15	0.30	0.45
250	0.35	0.50	0.85	0.20	0.40	0.60	0.15	0.35	0.50
300	0.26	0.47	0.73	0.13	0.33	0.46	0.09	0.28	0.37
350	0.32	0.52	0.84	0.15	0.36	0.51	0.09	0.30	0.39
400	0.38	0.59	0.97	0.17	0.40	0.57	0.11	0.32	0.43
450	0.45	0.66	1.11	0.20	0.43	0.63	0.12	0.34	0.46
500	0.56	0.81	1.37	0.28	0.52	0.80	0.17	0.62	0.79
600	0.66	0.90	1.56	0.32	0.56	0.88	0.19	0.63	0.82
700	0.76	1.05	1.81	0.36	0.66	1.02	0.22	0.75	0.97
800	0.86	1.16	2.02	0.40	0.71	1.11	0.24	0.82	1.06
900	0.96	1.41	2.37	0.44	0.90	1.34	0.25	0.98	1.23
1000	1.05	1.52	2.57	0.49	0.95	1.44	0.28	1.04	1.32

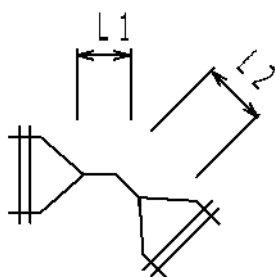
⑨ N S形片受曲管



单位：m

D	1 1° 1/4			5° 5/8		
	L 1	L 2	Σ L	L 1	L 2	Σ L
7 5	0. 1 0	0. 2 5	0. 3 5	0. 1 0	0. 2 5	0. 3 5
1 0 0	0. 1 0	0. 2 5	0. 3 5	0. 1 0	0. 2 5	0. 3 5
1 5 0	0. 1 0	0. 2 5	0. 3 5	0. 1 0	0. 2 5	0. 3 5
2 0 0	0. 1 5	0. 3 0	0. 4 5	0. 1 5	0. 3 0	0. 4 5
2 5 0	0. 1 5	0. 3 0	0. 4 5	0. 1 5	0. 3 0	0. 4 5
3 0 0	0. 0 6	0. 2 6	0. 3 2	0. 0 5	0. 2 5	0. 3 0
3 5 0	0. 0 7	0. 2 7	0. 3 4	0. 0 5	0. 2 6	0. 3 1
4 0 0	0. 0 7	0. 2 9	0. 3 6	0. 0 6	0. 2 7	0. 3 3
4 5 0	0. 0 8	0. 3 0	0. 3 8	0. 0 6	0. 2 8	0. 3 4
5 0 0	0. 1 7	0. 6 2	0. 7 9	0. 1 7	0. 6 2	0. 7 9
6 0 0	0. 1 9	0. 6 2	0. 8 1	0. 1 9	0. 6 2	0. 8 1
7 0 0	0. 2 1	0. 7 5	0. 9 6	0. 2 1	0. 7 5	0. 9 6
8 0 0	0. 2 4	0. 8 2	1. 0 6	0. 2 4	0. 8 2	1. 0 6
9 0 0	0. 2 6	0. 9 7	1. 2 3	0. 2 6	0. 9 7	1. 2 3
1 0 0 0	0. 2 7	1. 0 4	1. 3 1	0. 2 7	1. 0 4	1. 3 1

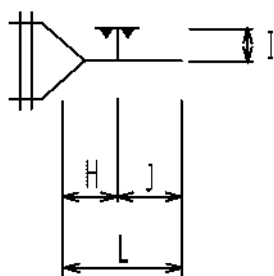
⑩ N S形兩受曲



單位：m

D	90°		45°		22° 1/2	
	L 1	Σ L	L 1	Σ L	L 1	Σ L
75	0. 20	0. 40	0. 15	0. 30	0. 10	0. 20
100	0. 20	0. 40	0. 15	0. 30	0. 15	0. 30
150	0. 25	0. 50	0. 15	0. 30	0. 15	0. 30
200	0. 30	0. 60	0. 20	0. 40	0. 15	0. 30
250	0. 35	0. 70	0. 20	0. 40	0. 15	0. 30
300	—	—	0. 13	0. 26	0. 09	0. 18
350	—	—	0. 16	0. 32	0. 10	0. 20
400	—	—	0. 18	0. 36	0. 11	0. 22
450	—	—	0. 21	0. 42	0. 12	0. 24

⑪ NS形F付T字管

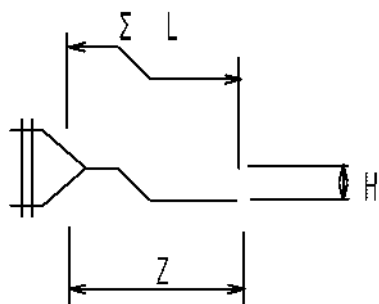


() は浅埋用

単位：m

D	d	l	H	J	L
75	75	0.20 (0.11)	0.15 (0.20)	0.30 (0.35)	0.45 (0.55)
100	75	0.20 (0.12)	0.15 (0.20)	0.30 (0.35)	0.45 (0.55)
150	75	0.25 (0.17)	0.15 (0.20)	0.30 (0.35)	0.45 (0.55)
〃	100	0.25 (0.17)	0.20 (0.25)	0.35 (0.40)	0.55 (0.65)
200	75	0.25 (0.20)	0.20 (0.20)	0.35 (0.40)	0.55 (0.60)
〃	100	0.25 (0.20)	0.20 (0.25)	0.35 (0.40)	0.55 (0.65)
250	75	0.30 (0.23)	0.20 (0.20)	0.35 (0.40)	0.55 (0.60)
〃	100	0.30 (0.23)	0.20 (0.25)	0.35 (0.40)	0.55 (0.65)
300	75	0.30	0.11	0.30	0.41
〃	100	0.30	0.11	0.32	0.43
350	75	0.33	0.10	0.31	0.41
〃	100	0.33	0.12	0.32	0.44
400	75	0.35	0.11	0.32	0.43
〃	100	0.35	0.11	0.34	0.45
450	75	0.38	0.11	0.32	0.43
〃	100	0.38	0.11	0.34	0.45
500	75	0.36	0.23	0.56	0.79
〃	100	0.40	0.23	0.56	0.79
600	75	0.41	0.24	0.57	0.81
〃	100	0.45	0.24	0.57	0.81
700	75	0.48	0.26	0.58	0.84
〃	100	0.48	0.26	0.58	0.84
800	75	0.52	0.27	0.59	0.86
〃	100	0.52	0.27	0.59	0.86
〃	600	0.67	0.69	1.03	1.72
900	100	0.59	0.30	0.62	0.92
〃	600	0.69	0.60	0.94	1.54

⑫ N S形乙字管

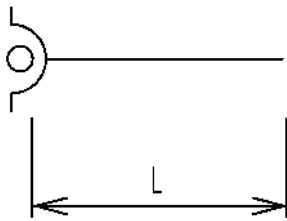


单位：m

D	H	Z	ΣL
75	0.30	0.65	0.80
75	0.45	0.70	0.98
100	0.30	0.70	0.84
100	0.45	0.75	1.01
150	0.30	0.80	0.92
150	0.45	0.85	1.07
200	0.30	0.90	1.00
200	0.45	1.00	1.19
250	0.30	0.95	1.05
250	0.45	1.05	1.23
300	0.30	0.97	1.06
300	0.45	1.09	1.25
350	0.30	0.97	1.06
350	0.45	1.09	1.25

8-3 ダクタイル鋳鉄管K形

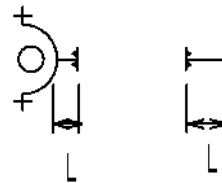
① K形直管 第1種



単位：m

呼び径	外径 mm	長さ L	重量 kg/本
75	93.0	4.0	62.7
100	118.0	〃	81.2
150	169.0	5.0	146
200	220.0	〃	192
250	271.6	〃	238
300	322.8	6.0	343
350	374.0	〃	399
400	425.6	〃	512
450	476.8	〃	607
500	528.0	〃	710
600	630.8	〃	976
700	733.0	〃	1,240
800	836.0	〃	1,590
900	939.0	〃	1,980
1000	1041.0	〃	2,420

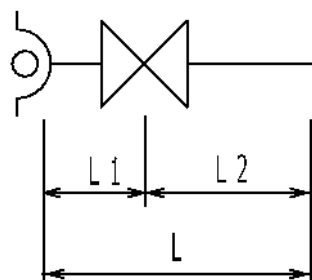
② K形短管 1号・2号



単位：m

呼び径	1号 L	2号 L
75	0.12	0.70
100	0.12	0.70
150	0.12	0.70
200	0.12	0.70
250	0.17	0.70
300	0.17	0.70
350	0.17	0.70
400	0.17	0.75
450	0.17	0.75
500	0.17	0.75
600	0.25	0.75
700	0.25	0.75
800	0.25	0.75
900	0.25	0.80
1000	0.25	0.80

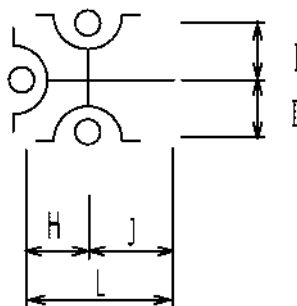
③ K形受挿しソフトシール仕切弁



単位：m

呼び径	L 1	L 2	L
75	0.12	0.53	0.65
100	0.13	0.53	0.66
150	0.14	0.54	0.68
200	0.16	0.55	0.71
250	0.20	0.56	0.76
300	0.21	0.61	0.82

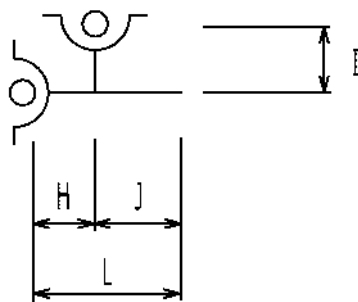
④ K形 三受十字管



単位：m

呼び径	d	l	H	J	L
75	75	0.14	0.16	0.48	0.64
100	100	0.16	0.18	0.53	0.71
150	150	0.19	0.19	0.60	0.79
200	200	0.25	0.25	0.63	0.88
250	250	0.25	0.23	0.60	0.83
300	300	0.30	0.33	0.70	1.03
350	350	0.34	0.36	0.75	1.11

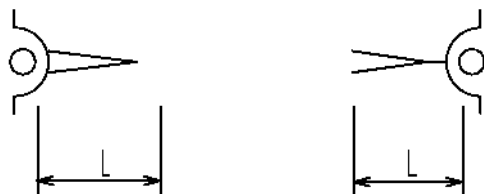
⑤ K形 二受T字管



単位：m

呼び径	d	l	H	J	L
75	75	0.14	0.16	0.48	0.64
100	〃	0.16	0.18	0.53	0.71
〃	100	0.16	0.18	0.53	0.71
150	75	0.19	0.19	0.60	0.79
〃	100	0.19	0.19	0.60	0.79
〃	150	0.19	0.19	0.60	0.79
200	100	0.23	0.20	0.56	0.76
〃	150	0.25	0.25	0.63	0.88
〃	200	0.25	0.25	0.63	0.88
250	100	0.25	0.23	0.60	0.83
〃	150	0.25	0.23	0.60	0.83
〃	250	0.26	0.28	0.67	0.95
300	100	0.28	0.24	0.60	0.84
〃	150	0.28	0.24	0.60	0.84
〃	200	0.30	0.33	0.70	1.03
〃	300	0.30	0.33	0.70	1.03
350	250	0.34	0.36	0.75	1.11
〃	350	0.34	0.36	0.75	1.11

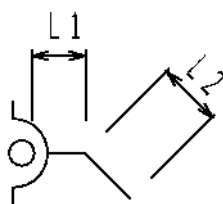
⑥ K形 片落管



単位：m

呼び径	d	受さし L	さし受 L
100	75	0.55	0.55
150	100	0.56	0.55
200	〃	0.56	0.55
〃	150	0.56	0.56
250	100	0.67	0.65
〃	150	0.67	0.66
〃	200	0.67	0.66
300	100	0.68	0.65
〃	150	0.68	0.66
〃	200	0.68	0.66
〃	250	0.68	0.67

⑦ K形曲管



【90°】

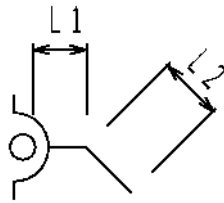
単位：m

呼び径	L 1	L 2	Σ L
75	0.29	0.40	0.69
100	0.29	0.40	0.69
150	0.34	0.50	0.84
200	0.44	0.60	1.04
250	0.45	0.65	1.10
300	0.60	0.80	1.40

【45°】

単位：m

呼び径	L 1	L 2	Σ L
75	0.21	0.32	0.53
100	0.21	0.32	0.53
150	0.25	0.41	0.66
200	0.29	0.45	0.74
250	0.29	0.45	0.74
300	0.34	0.49	0.83



【2 2° 1/2】

単位：m

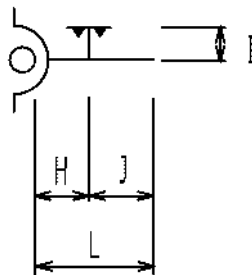
呼び径	L 1	L 2	Σ L
75	0. 20	0. 31	0. 51
100	0. 20	0. 31	0. 51
150	0. 24	0. 35	0. 59
200	0. 28	0. 39	0. 67
250	0. 28	0. 39	0. 67
300	0. 32	0. 43	0. 75

【1 1° 1/4】

単位：m

呼び径	L 1	L 2	Σ L
75	0. 34	0. 45	0. 79
100	0. 34	0. 45	0. 79
150	0. 34	0. 45	0. 79
200	0. 44	0. 54	0. 98
250	0. 44	0. 54	0. 98
300	0. 44	0. 54	0. 98

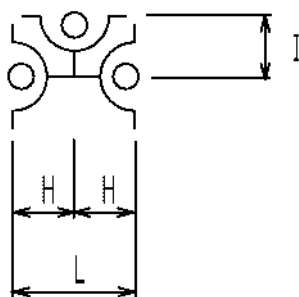
⑪ K形フランジ付きT字管



単位：m

呼び径	d	l	H	J	L
75	75	0. 25	0. 15	0. 48	0. 63
100	75	0. 25	0. 16	0. 50	0. 66
150	75	0. 28	0. 16	0. 53	0. 69
〃	100	0. 28	0. 17	0. 55	0. 72
200	75	0. 30	0. 17	0. 54	0. 71
〃	100	0. 30	0. 18	0. 55	0. 73
250	75	0. 33	0. 18	0. 55	0. 73
〃	100	0. 33	0. 19	0. 56	0. 75

⑫ K形排水T字管

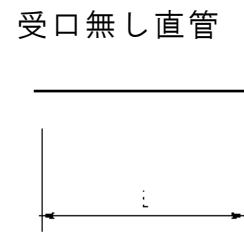
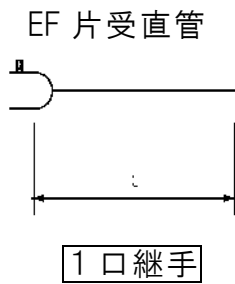


単位：m

呼び径	d	l	H	L
200	100	0.19	0.17	0.34
250	〃	0.22	0.18	0.36
300	〃	0.24	0.19	0.38
350	150	0.27	0.25	0.50
400	150	0.30	0.26	0.52
450	200	0.32	0.27	0.54

8-4 水道配水用ポリエチレン管（HPP）

① 水道配水用ポリエチレン管

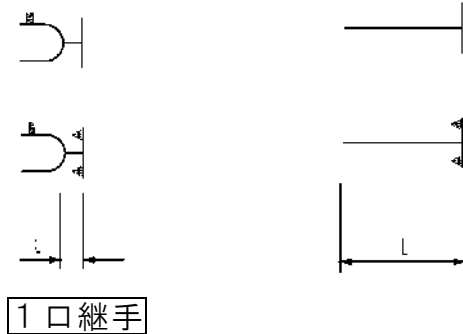


呼び径	外 径 mm	長さ L m	片受重量 kg/本	受無重量 kg/本
50	63.0	5.0	5.7	5.4
75	90.0	〃	11.3	10.9
100	125.0	〃	21.9	21.0
150	180.0	〃	45.5	43.4

② フランジ短管

フランジ短管 1 号 フランジ短管 2 号

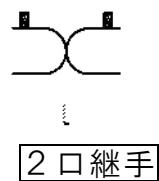
単位：m



呼び径	フランジ 短管 1 号 L	フランジ 短管 2 号 L
50	0.16	0.18
75	0.15	0.26
100	0.16	0.32
150	0.22	0.34

③ EF ソケット

単位：m



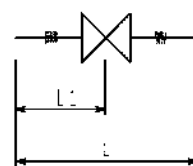
呼び径	L
50	0
75	0
100	0
150	0

④仕切弁

青銅製ソフトシール仕切弁



PE 挿し口付ソフトシール仕切弁

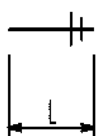


単位：m

呼び径	L 1	L	
50	0.05	0.10	青銅製スルース
50	0.34	0.68	FCD製仕切弁
75	0.39	0.78	〃
100	0.43	0.86	〃
150	0.51	1.02	〃

⑤回転型オネジ継手

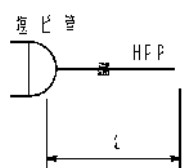
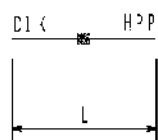
単位：m



呼び径	L
50	0.22

⑥異種管継手

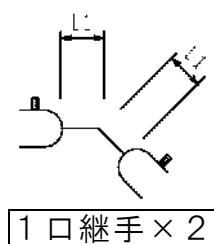
単位：m



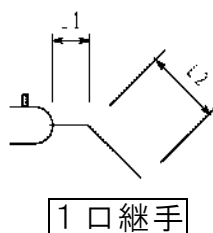
呼び径	L	備 考
75×50	0.64	G X、N S 形挿口×H P P 挿口
75	0.61	〃
100	0.66	〃
150	0.72	〃
75	0.61	K 形挿口×H P P 挿口
100	0.66	〃
150	0.72	〃
50	0.30	塩ビ離脱防止受口×H P P 挿口
75	0.35	〃
100	0.40	〃
150	0.49	〃

⑦ ベンド

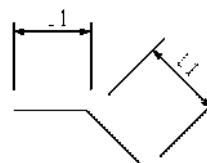
E F 両受ベンド



EF 片受けベンド



ベンド



【EF 両受けベンド】

単位：m

呼び径	90°		45°		22° 1/2		11° 1/4	
	L 1	Σ L	L 1	Σ L	L 1	Σ L	L 1	Σ L
50	0.16	0.32	0.11	0.22	0.09	0.18	0.08	0.16
75	0.22	0.44	0.19	0.38	0.14	0.28	0.13	0.26
100	0.25	0.50	0.19	0.38	0.14	0.28	0.14	0.28
150	0.33	0.66	0.23	0.46	0.19	0.38	0.17	0.34

【E F 片受けベンド】

単位：m

呼び径	90°			45°		
	L 1	L 2	Σ L	L 1	L 2	Σ L
50	0.16	0.21	0.37	0.11	0.16	0.27
75	0.22	0.32	0.54	0.19	0.29	0.48
100	0.25	0.36	0.61	0.19	0.30	0.49
150	0.33	0.48	0.81	0.23	0.39	0.62

呼び径	22° 1/2			11° 1/4		
	L 1	L 2	Σ L	L 1	L 2	Σ L
50	0.09	0.14	0.23	0.08	0.14	0.22
75	0.14	0.24	0.38	0.13	0.23	0.36
100	0.14	0.25	0.39	0.14	0.26	0.40
150	0.19	0.34	0.53	0.17	0.32	0.49

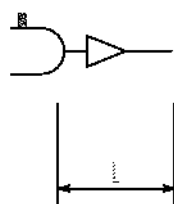
【ベンド】

単位：m

呼び径	90°		45°		22° 1/2		11° 1/4	
	L 1	Σ L	L 1	Σ L	L 1	Σ L	L 1	Σ L
50	0.21	0.42	0.16	0.32	0.14	0.28	0.13	0.26

⑧レデューサ

EF 片受けレデューサ

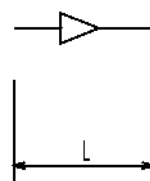


1口継手

【E F 片受レデューサ】 単位：m

呼び径	d	L
75	50	0.34
100	50	0.38
100	75	0.42
150	100	0.50

レデューサ

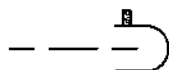


【レデューサ】 単位：m

呼び径	d	L
75	50	0.36
100	50	0.40
100	75	0.40
150	100	0.48

⑨キャップ

EF キャップ

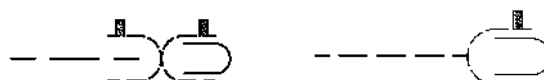


1口継手

【E F キャップ】 単位：m

呼び径	L
50	0
75	0
100	0
150	0

キャップ



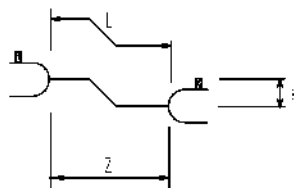
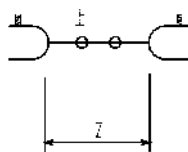
2口継手

1口継手

【キャップ】 単位：m

呼び径	L
50	0
75	0
100	0
150	0

⑩ S ベンド

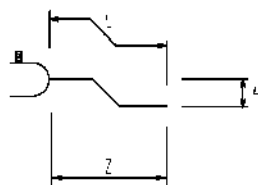
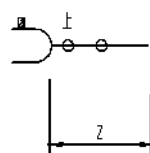


1口継手×2

【E F両受Sベンド】

単位：m

呼び径	H=300		H=450		H=600	
	Z	ΣL	Z	ΣL	Z	ΣL
50	0.51	0.64	0.61	0.85	0.81	1.06
75	0.68	0.80	0.82	1.01	0.97	1.22
100	0.68	0.80	0.83	1.01	0.92	1.22
150	0.76	0.88	0.91	1.08	1.06	1.29

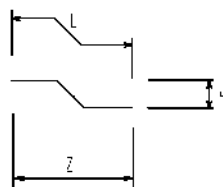
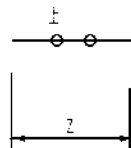


1口継手

【E F片受Sベンド】

単位：m

呼び径	H=300		H=450		H=600	
	Z	ΣL	Z	ΣL	Z	ΣL
50	0.57	0.67	0.72	0.90	0.87	1.11
75	0.78	0.90	0.93	1.10	1.08	1.32
100	0.79	0.91	0.94	1.12	1.09	1.33
150	0.92	1.03	1.07	1.25	1.22	1.45



【Sベンド】

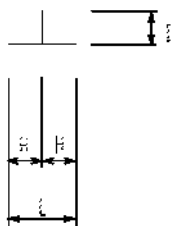
単位：m

呼び径	H=300		H=450		H=600	
	Z	ΣL	Z	ΣL	Z	ΣL
50	0.62	0.70	0.77	0.92	0.92	1.13

⑪チーズ

チーズ

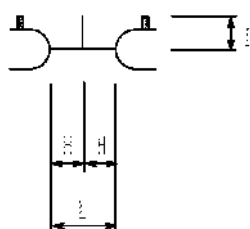
単位：m



呼び径	d	l	H	L
50	50	0.11	0.11	0.22

E F 両受けチーズ

単位：m



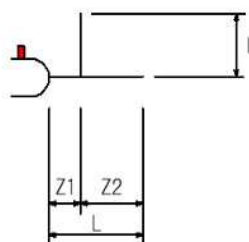
呼び径	d	l	H	L
75	50	0.27	0.04	0.08
75	75	0.27	0.04	0.08
100	50	0.33	0.06	0.12
100	75	0.30	0.06	0.12
100	100	0.32	0.06	0.12
150	75	0.40	0.25	0.50
150	100	0.40	0.25	0.50
150	150	0.40	0.25	0.50

呼び径 100 まで：2 口継手

呼び径 150：1 口継手×2

E F 片受けチーズ

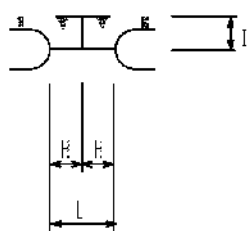
単位：m



呼び径	d	Z 1	Z 2	L	l
150	75	0.25	0.40	0.65	0.40
150	100	0.25	0.40	0.65	0.40
150	150	0.25	0.40	0.65	0.40

⑫ F 付き E F 両受チース

単位：m



呼び径 100 まで：2 口継手

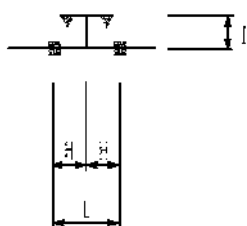
呼び径 150：1 口継手×2

呼び径	d	l	H	L
75	75	0.24	0.04	0.08
100	75	0.27	0.055	0.11
100	100	0.30	0.055	0.11
150	75	0.28	0.25	0.50
150	100	0.26	0.25	0.50

※ H 寸法に小数点第 3 位がある場合は、設計延長 L 寸法を固定するようにどちらかの H 寸法の小数点第 3 位を切り上げ、反対側を切り捨てる。

⑬ P E 挿し口付鋳鉄製 T 字管

単位：m

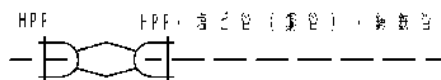


呼び径	d	l	H	L
75	75	0.14	0.355	0.71
100	75	0.16	0.395	0.79
150	75	0.19	0.47	0.94
150	100	0.19	0.47	0.94

※ H 寸法に小数点第 3 位がある場合は、設計延長 L 寸法を固定するようにどちらかの H 寸法の小数点第 3 位を切り上げ、反対側を切り捨てる。

⑭ 鋳鉄製ジョイント（HPP 用 メカニカル）

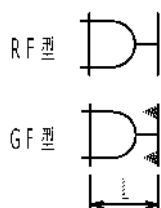
単位：m



呼び径 HPP	d	HPP × HPP L	HPP × 塩ビ管 L	HPP × 鋳鉄管 L
50	50	0	0	0
75	75	0	0	0
100	100	0	0	0
150	150	0	0	0
100	75	0	—	—
150	100	0	—	—

⑮ 鋳鉄製フランジ短管 1 号 (H P P 用 メカニカル)

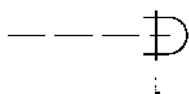
単位：m



呼び径	L
50	0
75	0
100	0
150	0

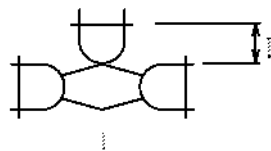
⑯ 鋳鉄製管帽 (H P P 用 メカニカル)

単位：m



呼び径	L
50	0
75	0
100	0
150	0

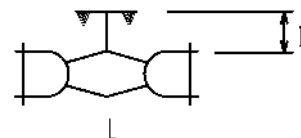
⑰ 鋳鉄製チーズ
(H P P 用 メカニカル)



単位：m

呼び径	d	l	L
50	50	0	0
75	75	0	0
100	75	0	0
100	100	0	0
150	75	0	0
150	100	0	0
150	150	0	0

⑱ 鋳鉄製 F 付きチーズ
(H P P 用 メカニカル)



単位：m

呼び径	d	l	L
75	50	0.12	0
75	75	0.13	0
100	50	0.14	0
100	75	0.14	0
100	100	0.14	0
150	50	0.17	0
150	75	0.17	0
150	100	0.19	0
150	150	0.22	0

⑱変換ソケット（金属継手）

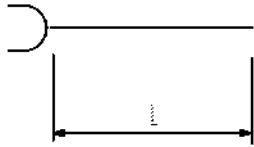
単位：m



呼び径 H P P	d P E P	L
5 0	3 0	0
5 0	4 0	0
5 0	5 0	0

8-5 水道用硬質塩化ビニル管 H I - R R 管、H I - V P 管、V P 管

① H I - R R 直管（片受け）



単位：m

呼び径	外 径 mm	長さ m	重量 kg/本
40	48	5.0	4.2
50	60	〃	5.7
75	89	〃	11.2
100	114	〃	17.5
150	165	〃	34.5

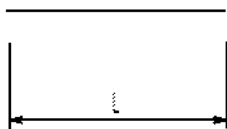
② 青銅製ソフトシール仕切弁



単位：m

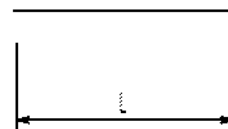
呼び径	L 1	L
30	0.04	0.08
40	0.05	0.10
50	0.05	0.10

③ H I - V P 直管（受口無し）



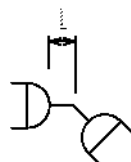
呼び径	外 径 mm	長さ m	重量 kg/本
13	18	4.0	0.7
20	26	〃	1.2
25	32	〃	1.8
30	38	〃	2.1
40	48	5.0	3.9
50	60	〃	5.5
75	89	〃	10.8
100	114	〃	16.7
150	165	〃	32.8

④ V P 直管（受口無し）



呼び径	外 径 mm	長さ m	重量 kg/本
13	18	4.0	0.7
20	26	〃	1.2
25	32	〃	1.8
30	38	〃	2.1
40	48	5.0	3.9

⑤塩ビ製離脱防止内臓型継手
(H I - R R用 両受け)



単位：m

呼び径	ソケット	90°	45°	22° 1/2	11° 1/4
	延長	L	L	L	L
40	—	—	—	—	—
50	0.07	0.20	0.11	0.08	0.07
75	0.13	0.31	0.16	0.11	0.08
100	0.13	0.36	0.19	0.12	0.09
150	0.15	0.53	0.27	0.17	0.13

呼び径	受挿し異形 ソケット L
75 × 50	0.23
100 × 75	0.24
150 × 100	0.33

参考値：クボタシーアイ(株) SGR-VN

⑥鋳鉄製離脱防止内臓型継手
(H I - R R用 両受け)

単位：m

呼び径	ソケット	90°	45°	22° 1/2	11° 1/4
	延長	L	L	L	L
40	—	—			
50	0.04	0.14	0.07	0.04	0.03
75	0.05	0.16	0.07	0.04	0.03
100	0.05	0.20	0.10	0.06	0.04
150	0.07	0.30	0.15	0.10	0.07

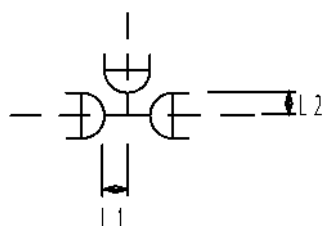
参考値：積水化学工業(株) LJ

※ メーカーにより異なる。

※ φ40はコスモ工機(株)のスーパークイックSQVのみ。

⑦ 鋳鉄製離脱防止内蔵型チーズ
(H I - R R 用)

単位：m

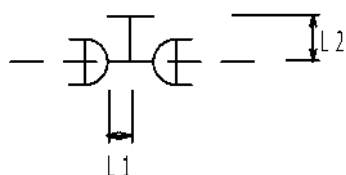


呼び径	L 1	L 2
50 × 50	0.04	0.04
75 × 50	0.04	0.03
75 × 75	0.06	0.06
100 × 50	0.04	0.05
100 × 75	0.05	0.06
100 × 100	0.06	0.06
150 × 75	0.06	0.07
150 × 100	0.07	0.08
150 × 150	0.10	0.10

※参考値：積水化学工業(株) L J

⑧ 離脱防止内蔵型 F 付きチーズ (台座付き)

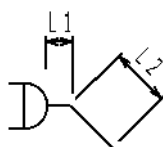
単位：m



呼び径	フランジ径	L 1	L 2
50	75	0.08	0.13
75	75	0.09	0.15
100	75	0.08	0.17
150	75	0.08	0.20

※参考値：コスモ工機(株)

⑨ 塩ビ製継手
(H I - R R 用)

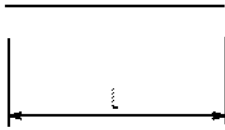


単位：m

呼び径		片受け 90°	片受け 45°	片受け 22° 1/2	片受け 11° 1/4	両受け ケット L
40	L 1	0.26	0.19	0.17	0.15	—
	L 2	0.36	0.28	0.26	0.25	

8-6 水道用ポリエチレン管

① P E P 管（1 種 軟質二層管）



呼び径	外 径 mm	長さ L m	重量 kg/m
1 3	21. 5	1 2 0	0. 18
2 0	27. 0	1 2 0	0. 27
2 5	34. 0	9 0	0. 42
3 0	42. 0	9 0	0. 60
4 0	48. 0	6 0	0. 79
5 0	60. 0	4 0	1. 22

② P E P 管（2 種 硬質単層管、仮設用）



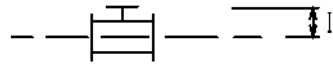
呼び径	外 径 mm	長さ L m	重量 kg/m
7 5	89. 0	3 0	1. 27

8-7 鋼 管 S G P - P B



呼び径	外 径 mm	長さ L m	重量 kg/m
1 5 A	21. 7	5. 5	1. 31
2 0 A	27. 2	〃	1. 68
2 5 A	34. 0	〃	2. 43
3 2 A	42. 7	〃	3. 38
4 0 A	48. 6	〃	3. 89
5 0 A	60. 5	〃	5. 31
6 5 A	76. 3	〃	7. 47
8 0 A	89. 1	〃	8. 79
1 0 0 A	114. 3	〃	12. 20

8-8 割T字管



① -1 割T字管 SF型

単位：m

本管	分岐	D I P			V P ・ S P			H P P		
		I	大成	コスモ	I	大成	コスモ	I	大成	コスモ
50	50	0.17	○	○	0.15	○	○	0.18	○	○
75	〃	0.20	○	○	0.20	○	○	0.20	○	○
100	〃	0.20	○	○	0.20	○	○	0.20	○	○
125	〃	0.20	○	○	0.20	—	○	—	—	—
150	〃	0.25	○	○	0.25	○	○	0.20	○	○
200	〃	0.25	○	○	0.25	—	○			
250	〃	0.30	○	○	0.30	—	(○)			
300	〃	0.30	○	○	0.30	—	(○)			
350	〃	0.35	○	○	0.35	—	(○)			
400	〃	0.40	○	○	0.35	—	(○)			
450	〃	0.40	○	(○)	0.40	—	(○)			
500	〃	0.40	○	(○)	0.40	—	(○)			

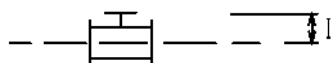
※ () は鋼板製

① -2 割T字管 S型 (内ネジ)

単位：m

本管	分岐	D I P			V P ・ S P			H P P		
		I	大成	コスモ	I	大成	コスモ	I	大成	コスモ
50	50	0.15	○	○	0.15	○	○	0.16	○	○

②割Ｔ字管 Ｖ型



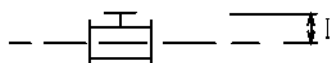
単位：m

本管	分岐	D I P			V P ・ S P			H P P		
		I	大成	コスモ	I	大成	コスモ	I	大成	コスモ
75	75	0.30	○	○	0.30	○	○	0.35	○	○
100	75	0.30	○	○	0.30	○	○	0.35	○	○
〃	100	0.30	○	○	0.30	○	○	0.40	○	○
125	75	0.30	○	○	0.30	—	○	—	—	—
125	100	0.30	—	○	—	—	—	—	—	—
150	75	0.30	○	○	0.35	○	○	0.40	○	○
〃	100	0.35	○	○	0.35	○	○	0.40	○	○
〃	150	0.40	○	○	0.40	○	○	0.45	○	○
200	75	0.35	○	○	0.35	○	○			
〃	100	0.40	○	○	0.40	○	○			
〃	150	0.45	○	○	0.45	○	○			
〃	200	0.50	○	○	0.50	○	○			
250	75	0.40	○	○	0.40	○	(○)			
〃	100	0.40	○	○	0.40	○	(○)			
〃	150	0.45	○	○	0.45	○	(○)			
〃	200	0.55	○	○	0.50	○	(○)			
300	75	0.40	○	○	0.40	○	(○)			
〃	100	0.40	○	○	0.40	○	(○)			
〃	150	0.45	○	○	0.45	○	(○)			
〃	200	0.55	○	○	0.55	○	(○)			
〃	250	0.65	—	○	—	—	—			
〃	300	0.60	○	○	0.55	○	—			
350	75	0.45	○	○	0.45	○	(○)			
〃	100	0.45	○	○	0.45	○	(○)			
〃	150	0.50	○	○	0.45	○	(○)			
〃	200	0.55	○	○	0.55	○	(○)			
〃	250	0.65	—	○	—	—	—			
〃	300	0.60	○	○	—	—	—			
400	75	0.45	○	○	0.45	○	(○)			
〃	100	0.50	○	○	0.45	○	(○)			
〃	150	0.50	○	○	0.50	—	(○)			
〃	200	0.60	○	○	0.60	○	(○)			
〃	250	0.60	—	○	—	—	—			
〃	300	0.60	○	○	—	—	—			

※φ150以下…V P φ200以上…S P

※ () は鋼板製

③割 T 字管 V 型



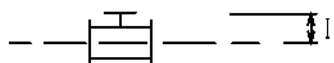
φ 1 5 0 以下… V P φ 2 0 0 以上… S P

単位：m

本管	分岐	D I P			V P ・ S P		
		I	大成	コスモ	I	大成	コスモ
4 5 0	7 5	0. 5 0	○	○	0. 5 0	○	(○)
〃	1 0 0	0. 5 0	○	○	0. 5 0	○	(○)
〃	1 5 0	0. 5 5	○	○	0. 5 0	○	(○)
〃	2 0 0	0. 6 0	○	○	0. 6 0	○	(○)
〃	2 5 0	0. 7 0	—	○	—	—	—
〃	3 0 0	0. 6 5	○	○	—	—	—
5 0 0	7 5	0. 5 0	○	○	0. 5 5	—	(○)
〃	1 0 0	0. 5 5	○	○	0. 5 5	○	(○)
〃	1 5 0	0. 6 0	○	○	0. 5 5	○	(○)
〃	2 0 0	0. 6 5	○	○	0. 6 5	○	(○)
〃	2 5 0	0. 7 5	—	○	—	—	—
〃	3 0 0	0. 7 0	○	○	—	—	—
6 0 0	7 5	0. 5 5	○	○	0. 5 5	○	(○)
〃	1 0 0	0. 6 0	○	○	0. 5 5	○	(○)
〃	1 5 0	0. 6 5	○	○	0. 6 0	○	(○)
〃	2 0 0	0. 7 0	○	○	0. 7 0	○	(○)
〃	2 5 0	0. 8 0	—	○	—	—	—
〃	3 0 0	0. 7 5	○	○	—	—	—
7 0 0	7 5	0. 6 0	○	—	—	—	—
〃	1 0 0	0. 6 0	○	—	0. 6 0		—
〃	1 5 0	0. 6 5	○	—	—	—	—
〃	2 0 0	0. 8 0	○	—	0. 7 5		—
〃	3 0 0	0. 7 5	○	—	—	—	—
8 0 0	7 5	0. 6 5	○	—	—	—	—
〃	1 0 0	0. 6 5	○	—	—	—	—
〃	1 5 0	0. 7 0	○	—	—	—	—
〃	2 0 0	0. 8 5	○	—	0. 8 5		—
〃	3 0 0	0. 8 0	○	—	—	—	—

※ () は鋼板製

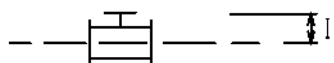
④割Ｔ字管 F 型



単位：m

本管	分岐	D I P			S P		
		I	大成	コスモ	I	大成	コスモ
1 5 0	7 5	0. 2 0	○	○	0. 2 0	○	○
〃	1 0 0	0. 2 0	○	○	0. 2 0	○	○
〃	1 5 0	0. 2 0	○	○	0. 2 0	○	○
2 0 0	7 5	0. 2 0	○	○	0. 2 0	○	○
〃	1 0 0	0. 2 0	○	○	0. 2 0	○	○
〃	1 5 0	0. 2 5	○	○	0. 2 5	○	—
〃	2 0 0	0. 2 5	○	○	0. 2 5	○	—
2 5 0	7 5	0. 2 5	○	○	0. 2 5	○	—
〃	1 0 0	0. 2 5	○	○	0. 2 5	○	—
〃	1 5 0	0. 2 5	○	○	0. 2 5	○	—
〃	2 0 0	0. 2 5	○	○	0. 3 0	○	—
〃	2 5 0	0. 2 5	○	—	0. 3 0	○	—
3 0 0	7 5	0. 3 0	○	○	0. 3 0	○	—
〃	1 0 0	0. 3 0	○	○	0. 3 0	○	—
〃	1 5 0	0. 3 0	○	○	0. 3 0	○	—
〃	2 0 0	0. 3 0	○	○	0. 3 0	○	—
〃	2 5 0	0. 3 0	○	—	0. 3 0	○	—
〃	3 0 0	0. 3 0	○	—	0. 3 5	○	—
3 5 0	7 5	0. 3 0	○	○	0. 3 0	○	—
〃	1 0 0	0. 3 0	○	○	0. 3 0	○	—
〃	1 5 0	0. 3 0	○	○	0. 3 0	○	—
〃	2 0 0	0. 3 0	○	○	0. 3 0	○	—
〃	2 5 0	0. 3 0	○	—	—	—	—
〃	3 0 0	0. 3 5	○	—	—	—	—
〃	3 5 0	0. 3 5	○	—	—	—	—

⑤割T字管 F 型

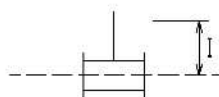


単位：m

本管	分岐	D I P		
		I	大成	コスモ
400	75	0.35	○	○
〃	100	0.35	○	○
〃	150	0.35	○	○
〃	200	0.35	○	○
〃	250	0.35	○	—
〃	300	0.35	○	—
〃	350	0.35	○	—
〃	400	0.35	○	—
450	75	0.35	○	—
〃	100	0.35	○	—
〃	150	0.35	○	—
〃	200	0.35	○	—
〃	250	0.40	○	—
〃	300	0.40	○	—
〃	350	0.40	○	—
〃	400	0.40	○	—
〃	450	0.40	○	—
500	75	0.40	○	—
〃	100	0.40	○	—
〃	150	0.40	○	—
〃	200	0.40	○	—
〃	250	0.40	○	—
〃	300	0.40	○	—
〃	350	0.40	○	—

本管	分岐	D I P		
		I	大成	コスモ
500	400	0.40	○	—
〃	450	0.45	○	—
〃	500	0.45	○	—
600	75	0.45	○	—
〃	100	0.45	○	—
〃	150	0.45	○	—
〃	200	0.45	○	—
〃	250	0.45	○	—
〃	300	0.45	○	—
〃	350	0.45	○	—
〃	400	0.50	○	—
〃	450	0.50	○	—
〃	500	0.50	○	—
〃	600	0.50	○	—
700	75	0.50	○	—
〃	100	0.50	○	—
〃	150	0.50	○	—
〃	200	0.50	○	—
〃	250	0.50	○	—
〃	300	0.50	○	—
〃	350	0.55	○	—
〃	400	0.55	○	—
〃	450	0.55	○	—
〃	500	0.55	○	—

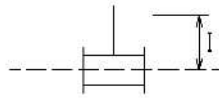
⑥ 割T字管 耐震型 分岐K形挿し口



単位：m

本管	分岐	直			90°			45°		
		Ⅰ	大成	コスモ	Ⅰ	大成	コスモ	Ⅰ	大成	コスモ
75	75	0.64	○	○	0.80	○	○	0.73	○	○
100	75	0.66	○	○	0.84	○	○	0.76	○	○
〃	100	0.67	○	○	0.88	○	○	0.79	○	○
150	75	0.69	○	○	0.86	○	○	0.79	○	○
〃	100	0.69	○	○	0.91	○	○	0.82	○	○
〃	150	0.70	○	○	0.99	○	○	0.88	○	○
200	75	0.71	○	○	0.87	○	○	0.80	○	○
〃	100	0.72	○	○	0.93	○	○	0.84	○	○
〃	150	0.73	○	○	1.02	○	○	0.90	○	○
〃	200	0.73	—	○	1.14	—	○	0.92	—	○
250	75	0.73	○	○	0.90	○	○	0.82	○	○
〃	100	0.74	○	○	0.96	○	○	0.87	○	○
〃	150	0.75	○	○	1.04	○	○	0.93	○	○
〃	200	0.82	—	○	—	—	—	—	—	—
〃	250	0.81	—	○	1.26	—	○	0.99	—	○
300	75	0.76	○	○	0.92	○	○	0.85	○	○
〃	100	0.77	○	○	0.98	○	○	0.89	○	○
〃	150	0.78	○	○	1.07	○	○	0.95	○	○
〃	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—
〃	250	0.83	—	○	—	—	○	—	—	○
〃	300	0.82	—	○	1.29	—	○	1.07	—	○
350	75	0.79	—	○	0.95	—	○	0.88	—	○
〃	100	0.82	—	○	1.02	—	○	0.92	—	○
〃	150	0.87	—	○	1.16	—	○	1.01	—	○

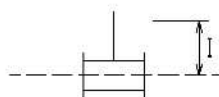
⑦割 T 字管 耐震型 分岐 K 形挿し口



単位：m

本管	分岐	22° 1/2			11° 1/4		
		I	大成	コスモ	I	大成	コスモ
75	75	0.68	○	○	0.67	○	○
100	75	0.72	○	○	0.70	○	○
〃	100	0.74	○	○	0.71	○	○
150	75	0.75	○	○	0.73	○	○
〃	100	0.78	○	○	0.76	○	○
〃	150	0.82	○	○	0.79	○	○
200	75	0.75	○	○	0.74	○	○
〃	100	0.79	○	○	0.76	○	○
〃	150	0.85	○	○	0.82	○	○
〃	200	—	—	—	—	—	—
250	75	0.78	○	○	0.76	○	○
〃	100	0.81	○	○	0.79	○	○
〃	150	0.87	○	○	0.84	○	○
〃	200	—	—	—	—	—	—
〃	250	—	—	—	—	—	—
300	75	0.80	○	○	0.79	○	○
〃	100	0.84	○	○	0.81	○	○
〃	150	0.90	○	○	0.87	○	○
〃	200	—	—	—	—	—	—
〃	250	—	—	○	—	—	○
〃	300	—	—	○	—	—	○
350	75	0.83	—	○	0.82	—	○
〃	100	0.87	—	○	0.84	—	○
〃	150	0.94	—	○	0.91	—	○

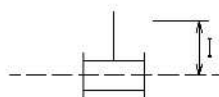
⑧ 割Ｔ字管 耐震型 分岐 NS 形挿し口



単位：m

本管	分岐	直			90°			45°		
		Ⅰ	大成	コスモ	Ⅰ	大成	コスモ	Ⅰ	大成	コスモ
75	75	0.60	○	○	0.81	○	—	0.73	○	—
100	75	0.64	○	○	0.82	○	—	0.75	○	—
〃	100	0.66	○	○	0.88	○	—	0.79	○	—
150	75	0.66	○	○	0.85	○	—	0.77	○	—
〃	100	0.68	○	○	0.91	○	—	0.82	○	—
〃	150	0.70	○	○	0.99	○	—	0.88	○	—
200	75	0.67	○	○	0.88	○	—	0.80	○	—
〃	100	0.71	○	○	0.93	○	—	0.84	○	—
〃	150	0.72	○	○	1.02	○	—	0.90	○	—
250	75	0.70	○	○	0.90	○	—	0.82	○	—
〃	100	0.73	○	○	0.96	○	—	0.87	○	—
300	75	0.72	○	○	0.93	○	—	0.85	○	—
〃	100	0.76	○	○	0.98	○	—	0.89	○	—
〃	150	0.77	○	○	1.07	○	—	0.95	○	—
350	75	0.75	—	○	—	—	—	—	—	—
〃	100	0.81	—	○	—	—	—	—	—	—
〃	150	0.87	—	○	—	—	—	—	—	—

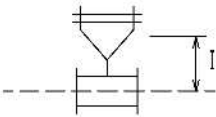
⑨ 割Ｔ字管 耐震型 分岐 NS 形挿し口



単位：m

本管	分岐	22° 1/2			11° 1/4		
		I	大成	コスモ	I	大成	コスモ
75	75	0.71	○	—	0.70	○	—
100	75	0.72	○	—	0.71	○	—
〃	100	0.76	○	—	0.74	○	—
150	75	0.74	○	—	0.73	○	—
〃	100	0.78	○	—	0.76	○	—
〃	150	0.82	○	—	0.79	○	—
200	75	0.77	○	—	0.76	○	—
〃	100	0.81	○	—	0.79	○	—
〃	150	0.85	○	—	0.82	○	—
250	75	0.80	○	—	0.79	○	—
〃	100	0.83	○	—	0.81	○	—
300	75	0.82	○	—	0.81	○	—
〃	100	0.86	○	—	0.84	○	—
〃	150	0.90	○	—	0.87	○	—

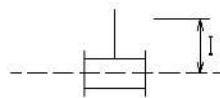
⑩ 割 T 字管 耐震型 分岐 NS 形受け口



単位：m

本管	分岐	NS 受け口		
		l	大成	コスモ
3 5 0	3 5 0	0. 48	—	○
4 0 0	4 0 0	0. 50	—	○
5 0 0	5 0 0	0. 60	—	○

⑪ 割Ｔ字管 耐震型 分岐 HPP 形挿し口

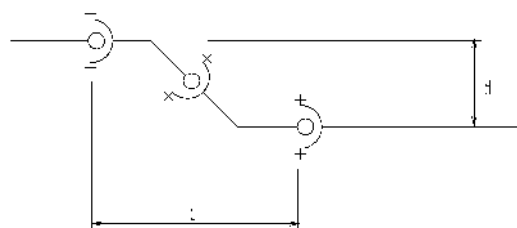
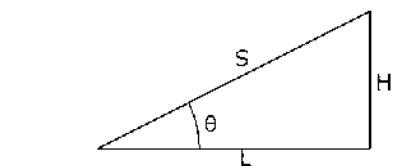


単位：m

本管	分岐	HPP 挿し口		
		I	大成	コスモ
75	50	0.67	○	—
〃	75	0.69	○	○
100	50	0.68	○	—
〃	75	0.70	○	○
〃	100	0.72	○	○
150	50	0.71	○	—
〃	75	0.72	○	○
〃	100	0.75	○	○
〃	150	0.98	—	○
200	50	0.74	○	—
〃	75	0.75	○	○
〃	100	0.77	○	○
〃	150	1.03	—	○
250	50	0.76	○	—
〃	75	0.78	○	○
〃	100	0.80	○	○
〃	150	1.03	—	○
300	50	0.79	○	—
〃	75	0.80	○	○
〃	100	0.83	○	○
〃	150	1.06	—	○
350	75	0.90	—	○
〃	100	0.97	—	○
〃	150	1.09	—	○

8-9 寸法算出表

① 曲管使用の寸法算出表



θ	求める長さ	与えられた長さ	乗ずる値
45°	H	S	0.7071
		L	1.0000
	L	S	0.7071
		H	1.0000
	S	H	1.4142
		L	1.4142
$22^\circ 1/2$	H	S	0.3826
		L	0.4142
	L	S	0.9238
		H	2.4142
	S	H	2.6131
		L	1.0823
$11^\circ 1/4$	H	S	0.1950
		L	0.1989
	L	S	0.9807
		H	5.0273
	S	H	5.1258
		L	1.0195

② Sベンド寸法表

単位：mm

	呼び径	90°		45°		$22^\circ 1/2$		$11^\circ 1/4$		$5^\circ 5/8$	
		L	H	L	H	L	H	L	H	L	H
K形	75	692	692	893	370	981	195	1551	153	—	—
	100	692	692	893	370	981	195	1551	153	—	—
	150	842	842	1120	464	1133	225	1551	153	—	—
	200	1043	1043	1265	524	1291	257	1943	191	—	—
	250	1095	1095	1268	525	1295	258	1947	191	—	—
	300	1397	1397	1412	585	1451	289	1951	192	2352	116

	呼び径	90°		45°		$22^\circ 1/2$		$11^\circ 1/4$		$5^\circ 5/8$	
		L	H	L	H	L	H	L	H	L	H
NS形	75	500	500	683	283	673	134	693	68	698	34
	100	550	550	768	318	770	153	693	68	698	34
	150	650	650	768	318	866	172	693	68	698	34
	200	750	750	939	389	866	172	891	88	898	44
	250	850	850	1024	424	962	191	891	88	898	44
	300	730	730	785	325	702	140	634	62	589	29
	350	840	840	871	361	750	149	664	65	609	30
	400	965	965	973	403	818	163	713	70	648	32
	450	1105	1105	1075	445	875	174	743	73	668	33

単位 : mm

	呼び径	9 0 °		4 5 °		2 2 ° 1 / 2		1 1 ° 1 / 4		5 ° 5 / 8	
		L	H	L	H	L	H	L	H	L	H
G X 形	7 5	480	480	682	282	692	137	673	66	678	33
	1 0 0	520	520	716	296	731	145	713	70	718	35
	1 5 0	630	630	802	332	788	156	732	72	738	36
	2 0 0	750	750	904	374	865	172	812	79	818	40
	2 5 0	850	850	973	403	884	176	812	79	818	40
	3 0 0	815	815	973	403	904	180	792	78	748	37
	4 0 0	1035	1035	1118	463	962	191	832	82	778	38

第9章

工 事 関 係 書 類
(出来形品質管理基準含む)

第9章 工事関係書類（出来形管理基準含む）

第1節 出来形図及び竣工図等

9-1-1 一般事項

- 1 出来形図は、工事の出来形を確認するためのものである。
- 2 竣工図は、工事目的物を図面上で確認し、将来の維持管理を容易に行うためのものである。

9-1-2 作成要領

出来形図及び竣工図の種類を以下に示す。

また、各種図面の作成にあたっては、線種、線の太さ、線の濃淡、記号の大きさに配慮し、必要な情報が読み取りやすい図面の作成を行うこと。

- 1 出来形図種類（変更設計図に出来形確認のため、出来形数量を赤書きしたもの）

- ① 平面図 ② 配管詳細図 ③ 縦断図（ $\phi 500\text{mm}$ 以上）
- ④ 横断図 ⑤ 構造図
- ⑥ 舗装の切断延長と本復旧の面積展開図、区画線図等
- ⑦ 路面復旧の展開図 ⑧ 仮設管平面図
- ⑨ 撤去管・残置管平面図 ⑩ その他小構造物等必要な図面

- 2 竣工図等種類

- ① 位置図 ② 平面図 ③ 縦断図（ $\phi 500\text{mm}$ 以上）
- ④ 横断図 ⑤ 掘削標準図 ⑥ 配管詳細図
- ⑦ 構造図 ⑧ 給水切替平面図 ⑨ オフセット図
- ⑩ 撤去管・残置管平面図 ⑪ その他小構造物等必要な図面
- ⑫ 給水切替台帳 ⑬ 水管橋及び添架工事がある場合は、添架台帳

9-1-3 位置図

- 1 北を上方に図示し、縮尺を記載すること。
- 2 施工箇所所在地を示すもので、町名及び目標となる著名な建物等の名称を記載すること。
- 3 施工管路の位置を太い実線で記入する等施工箇所を明示すること。
- 4 縮尺は、 $1/2500$ を標準とする。

9-1-4 平面図

- 1 位置図の方位に向きを合わせ、方位、縮尺を必ず記載すること。
- 2 縮尺は、 $1/1,000$ を標準とし、目標物（公共施設等）・道路名・町名を記載すること。
- 3 分割して作成する時は、位置図において明示しておくこと。
- 4 管種、口径、延長、弁栓類等（推進立坑の位置等）の種別及び位置を記載すること。
- 5 既設埋設物（既設管含む）の名称、位置、管種、口径を記載すること。
- 6 既設管と新設管を区別するため、記載する線の太さを変える。（既設管を細く、新設管を太くを標準とする。）
- 7 交差点内及び上越し、下越し等複雑な配管部は、既設埋設物を含めその状況が判断できるよう詳細図を図示すること。
- 8 布設替等では撤去管、残置管等を口径、管種もわかる範囲で記載するが、別に撤去管・残置管平面図を作成してもよいものとする。

- 9 布設延長の距離表示は口径別延長とし、**布設延長及び水平延長(カッコ内に記入)に分けて表示し、m単位で小数点以下第1位まで表示すること。**
- 10 給水切替は、給水取出し位置(分岐位置)と切替家屋の通し番号を記載するが、面整備等で切替件数が多い場合は、別に給水切替平面図を作成してもよいものとする。
- 11 測点を記入すること。分岐路線の場合には、分岐点側を起点として測点を設定すること。(分担金工事における新設路線の場合も含む。)
- 12 工事起終点及び口径変化点がわかるよう「——○——」左記の記号を用いて図示するが、工事起終点の場合には口径変化点と区別するため、既設管と新設管で記載する線の太さを変えること。(既設管を細く、新設管を太くを標準とする。)
- 13 管路は、平面図用口径記号(第7章参照)を用いて図示すること。
- 14 排水設備は、排水方向とφ○○排水設備と記載する。
- 15 受託・分担金工事等は申請者の位置を記入する。
- 16 仮設に使用した不断水仕切弁を明示する。

9-1-5 縦断図(φ500 mm以上、または必要に応じて作成)

縦断曲線の起点、終点、半径および方向、測点、距離、地盤高、勾配、管中心高、管天端高、掘削深さ、土被り、地下埋設物等を記載すること。

縦断図は、起工測量による詳細な測量結果に基づき記載すること。(起工測量結果の報告が必要)

9-1-6 横断図

- 1 **道路は測点ごと**に、河川、橋梁等は横断面図に管の占用位置及び構造物の形状寸法と位置等を記載すること。
- 2 **他占用管のある場合、水道管との離隔を測定し、口径、管種を記載**すること。
- 3 **測点ごとに作図**すること。ただし、同一断面の場合は省略することができるものとする。
- 4 作図では、縁石、側溝、地下埋設物の大きさ・種類、道路中心及び官民境界等を記入したものに配水管の位置・土被り・口径・管種を記載すること。**ただし、片側2車線以上の道路については、半断面の記載でよいものとする。**

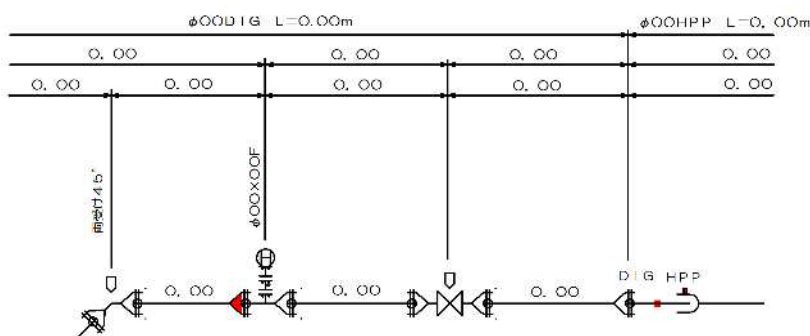
9-1-7 掘削標準図

既設舗装厚、掘削深さ、埋設深度、保護砂、路床土入替、下層路盤、舗装復旧、埋設標識シート位置等の詳細について、施工する断面ごとに記載する。また、**HPP管でナイロンスリーブを施工する場合は、明記**する。

9-1-8 配管詳細図

- 1 **方位は、位置図と向きを合わせる。**
- 2 **複数枚に渡る場合は、各詳細図に路線名を記載した位置図を図示**すること。
- 3 平面図では判明しにくい部分(交差点内、伏越工等)は位置、土被り、形状寸法等を記載し、必要に応じて断面図等を作成すること。
- 4 管種、口径、延長、変化点間の距離、弁栓類の種別、**継手番号(出来形図のみ)**を記載すること。(変化点間の距離とは、分岐点、弁栓類筐等の中心点、管末端、既設管連絡箇所等の点間距離をいう)継手番号を記載することで煩雑となる場合は、寸法線等を削除した配管詳細図に継手番号を記載した図面を別に作成してもよい。
- 5 **HPP管でナイロンスリーブを施工する場合は、寸法線最下段の延長の上に「ナイロンスリーブ施工区間」と明記**する。

- 6 口径 50 mm以上の仕切弁を使用した場合は、製造メーカー名を記載すること。（竣工時）
- 7 仕切弁ブロック、消火栓ブロック等で標準積高以外は積高及び使用した嵩上げ材を記載すること。
- 8 オフセットマーカを設置した場所は図上に所定の記号を用いて表示すること。
- 9 既設埋設管を上下越しにて交差する場合は、既設埋設管の位置を直管 1 本の範囲以内で破線により図示し、名称・口径・深度・離隔寸法等必要事項を明示すること。
- 10 割 T 字管、不断水仕切弁・特殊割押輪、特殊押輪を使用した場合は、名称・口径・型式・メーカー名を記載すること。（メーカー名は竣工時）
- 11 鋳鉄管の溝切加工した個所には「▼」を記載する。
- 12 伸縮可とう管を使用した場合は、接合方式（U S、F F 等）、偏心量・メーカー名を記載すること。（メーカー名は竣工時）
- 13 仮設撤去後も本管に残る仮設材料を記載する。（割 T 字管、フランジ蓋、サドル分水栓、分水栓キャップ、オフセットマーカ等）
- 14 寸法線の記載方法



上段
口径の変化点・管種
中段
仕切弁・消火栓地上計測部分
下段
曲げ点・仕切弁・消火栓・
管種変化点すべて

- 15 維持管理上 G I S に入力する必要があるため、消火栓を設置した場合には消火栓番号（新規設置の場合は、消火栓検査時に消防署が付番する番号）を記入する。消火栓番号が不明の場合は、警防救急課に問合せする。



9-1-9 側面図

伏越工、添架工、推進工、軌道下横断、水管橋等の場合は、管、構造物の位置、形状寸法等を記載すること。

9-1-10 構造図

添架、推進、弁室、防護工等について作図すること。

9-1-11 オフセット図 ※竣工図のみ

- 1 オフセット図は、仕切弁の位置を記録するために作成する。
- 2 公共地上目標物（固定物を2点、現地に目標物がない場合は1点）から直線、または曲線を引き寸法を記入すること。ただし、やむを得ない場合は、民間の地上目標物でも可とする。ただし、この場合は、目標物の名称を記載すること。
- 3 現地との位置関係がわかりにくい場合は、図内に位置図を作図すること。
- 4 複数枚に渡る場合は、相互図面の関係がわかるようにインデックス（見出し）に工夫すること。

9-1-12 給水切替平面図

新設管が記載された平面図に給水取出し位置（分岐位置）と切替家屋の通し番号を記載する。配管平面図に記載できる場合は、それで足りるものとする。

9-1-13 仮設配管平面図

- 1 仮設位置、口径、延長、仮排水設備、仮給水箇所を明示する。
- 2 仮給水箇所は通し番号を記載するが、給水切替平面図と通し番号を整合しておく
と後々の管理がしやすい。（仮設だけ、本設だけの箇所がある場合は、必ずしも番号が整合しなくてもよい）
- 3 施工に必要な仮設材料を明示する。（不断水仕切弁、割Ｔ字管、サドル分水栓、オフセットマーカ等）

9-1-14 撤去管・残置管平面図

- 1 撤去管及び残置管の位置、口径、延長、閉栓箇所を明示する。
- 2 閉栓箇所は、閉栓方法を明記する。（継輪メカ栓、モルタル充填等）

9-1-15 舗装復旧図（本復旧）

舗装復旧の位置、構成、幅及び延長を明示し、面積計算可能な展開図を作成する。

9-1-16 図面サイズ及び縮尺

- 1 提出する図面サイズはA1～A3版とするが、A1、A2とする場合は、A3版に縮小しても図、文字が読み取れるよう作成すること。
- 2 図面ラベルを図面の右下に配置することを標準とし、必要事項を記載すること。
- 3 図面の縮尺は原則として、次の基準によるものとする。また、各図とも縮尺は必ず記載すること。ただし、基準によりがたいときは、その作図に適した縮尺を選ぶこと。

- ① 位置図 … 1/2,500～1/10,000
- ② 平面図 … 1/1,000 または 1/500（原則 1/1,000）
- ③ 横断図 … 1/100
- ④ 詳細図 … 任意 スペース及びレイアウトを紙面に適切に配置する。
- ⑤ 側面図 … 1/100
- ⑥ 断面図 … 1/20
- ⑦ 構造図 … 任意 小構造物についてのみ明示するものとする。

図面ラベル様式・記載例

平成27年度		竣 工 図	
工 事 名	水道管〇〇工事		
工事場所	豊田市 〇〇町ほか 地内		
路 線 名	市道 〇〇〇〇 線 ほか		
名 称	平 面 図		
図 番	2/10	縮 尺	1/1000
施工業者	〇〇〇〇 管工		
豊 田 市 上 下 水 道 局			

9-1-17 給水台帳

- 1 給水台帳は、将来の維持管理のため給水管理台帳として作成するものである。
- 2 図面の作成に際しては、明瞭かつ正確に「給水装置工事の施工基準」に決められた作図法で書くこと。
- 3 単位は管及び水栓の口径はミリメートル(mm)、管の延長、道路幅員等はメートル(m)とし、少数1位(少数2位を四捨五入)とする。
- 4 図面上の各種表示記号は、給水装置標準記号を用いること。
- 5 給水切替工による作成では、下記事項を記載すること。
 - ① 位置図、配置図、詳細図は、向きを一致させ、バランスよく配置すること
 - ② 本管の管種、口径、土被り
 - ③ サドル口径(ϕ 〇〇×△)
 - ④ 副弁付止水栓の口径
 - ⑤ C Pソケット、ロングベンド等を使用した場合は、詳細図に記載のこと
 - ⑥ 本管から官民境界までの距離 ※平面延長で記載する。
 - ⑦ 配置図には、家屋の位置を図示すること
 - ⑧ 給水台帳の右下に工事竣工図No.が記載できる欄を設けること
 - ⑨ 施工工事店記入欄右隅に給水切替番号を記載すること
 - ⑩ 既設PEP一層管に接続した場合や公道内でPEP二層管に接続した場合及び量水器まで切替できない場合は、その理由を記載すること。

給水装置管理台帳 記載例

水道番号		水栓番号	
設置場所	豊田市 市	戸数	戸
建物名称			
住居			
氏名			
本管口径	ϕ	管種	
取出口径	ϕ	メータ口径	ϕ
私有管分岐応答者			
住所			
氏名			
に			
私有地使用者			
地名地番			
住所			
氏名			
受水権設置の都合			
住所			
氏名			
容量	t	高架水槽容量	t
申込年月日	年 月 日		
受付番号			
竣工年月日	年 月 日		
竣工工事店			

配水装置設置後に得る給水切替

年月日 年 月 日

竣工工事店

案内図(住宅地図)

⑨給水切替番号を記載

① 位置図

- ・ 周辺の位置関係がわかるもの。
- ・ 明確に表示

基本的には以前のまま ※修正箇所は確

⑥ 本管から官民境界までの距離

配置図

⑦ 家屋の位置を図示

詳細

② 本管の管種、口径、土被り

③ サドル口径

④ 副弁付止水栓の口径

⑧ 工事竣工図No.を記載できる欄

第2節 施工計画書（仕P1-6、現場必携P2-41～71）

9-2-1 一般事項

- 1 施工計画書は、契約書と設計図書に基づいて契約の工期内に品質規格にあった工事目的物を適正に完成するために必要な手順と工法等について記載するものである。請負者は、契約条件と現場条件等を十分に把握し、多角的に検討を行い作成し、工事着手前又は施工方法が確定した時期に監督員に提出しなければならない。また、内容を下請負者に周知するものとする。
- 2 施工計画書の内容に変更が生じた場合には、その都度、当該工事に着手する前に変更に関する事項について、変更施工計画書を作成し、監督員に提出すること。
- 3 前項の変更のうち、特に、①新規工種の追加、②安全管理方法の変更 のいずれかに該当する場合は重要な変更とみなし、必ず変更施工計画書を提出しなければならない。

9-2-2 記載項目

施工計画書には次の項目を記載するものとし、表紙部には9-2-4に示す「施工計画書作成例」に準じて施工計画書タイトル、工事名等の契約書記載事項、請負業者名、目次を記載する。

ただし、請負者は当初請負代金額が4,000万円未満の工事及び単価契約工事については、設計図書（特記仕様書等）に示す場合を除き、記載内容の一部を省略する。省略する項目は、下記の（2）、（4）、（5）、（6）、（10）、（11）とする。

- | | | |
|------------------------------|---------------|---------|
| （1）実施工程表 | （2）現場組織表 | （3）安全管理 |
| （4）指定機械及び主要機械 | （5）主要資材 | |
| （6）施工方法（主要機械、仮設備計画、工事用地等を含む） | | |
| ただし、特殊な工法、つり足場使用工事は省略不可 | | |
| （7）施工管理計画 | （8）緊急時の体制及び対応 | （9）交通管理 |
| （10）環境対策 | （11）現場作業環境の整備 | |
| （12）再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 | | |
| （13）法定休日・所定休日（週休2日の導入） | （14）その他 | |

※ は記載の省略が可能な項目である。

※省略項目のうち特記仕様書に施工計画書に記載するように明記されている場合には省略ができないものとする。

9-2-3 作成要領（現場必携P2-41～71）

1 実施工程表（計画）

契約書の工期に基づき、バーチャート、曲線式工程表、ネットワーク式工程表など工事内容に適した工程表で示す。（契約当初に提出した工程表とは異なり、詳細な内容を示したものの、1枚で足りなければ2枚以上も可）

各工種について作業の始めと終わりが判るように作成するとともに、気象、特に降雨、気温等によって施工に影響の大きい工種については、過去のデータ等を十分調査し、工程計画に反映させる。

実施工程表の記事欄には、変更契約及び工程に関わる事項が発生した日に、その内容を記載する。（例：変更契約、工期延期、工程見直し（20%の差違））

2 現場組織表

- ① 現場代理人、主任（監理）技術者の他、施工管理担当者、安全巡視員等の現場施工に必要な責任者（担当者）を定め現場組織表を作成する。責任者は、夜間・休日の連絡先を記載する。また、現場組織表は、現場における組織の編成及び命令

系統ならびに業務分担が判るよう記載し、専門技術者、品質証明員を置く工事については、これを記載する。

- ② 現場代理人及び監督員のメールアドレスを記載する。
- ③ 請負代金額に関わらず、下請負契約を締結した場合は、施工体系図を作成し監督員に提出する必要がある（仕 P1-9）ため、施工計画書及び施工体制台帳に添付のこと。
- ④ 工事を施工するために下請負契約を締結する場合は、施工体制台帳を提出する必要がある（仕 P1-9）。

3 安全管理

- ① 安全委員会の構成又は安全管理の組織表を作成し、安全活動の方針、安全対策、事故発生時の措置（連絡方法等）及び安全訓練等の実施について記載する。
- ② 作業員の休憩方法（午前・午後の休憩時間 15 分）についても記載する。
- ③ 万が一の事後発生時における救急指定病院、関係機関及び被災者宅等への連絡方法を記載する。
- ④ 安全管理組織表作成時は、愛知県建設局の「施工体制の適正化に向けての現場点検の手引き（案）」を参考とし、各衛生管理者等を設置する。現場作業員が常時 10 人以上いない場合は選任の必要はないが、安全衛生に関する措置について作業員の多少は関係なく、常時 10～49 人の場合の体制に準ずることが望ましい。
- ⑤ 労働安全衛生法と安全管理のしくみ等については、国土交通省中部地方整備局企画部編集「安全サポートマニュアル」を参照する。（同局のホームページで公表）
- ⑥ 特記仕様書で定める事故防止重点対策に

4 指定機械及び主要機械

- ① 工事に使用する排出ガス対策型建設機械及び設計図書で使用が義務付けられた低騒音型・低振動型建設機械等の指定機械ならびに主要機械の機種、性能、台数等についての一覧表を作成する。
- ② 特殊なものを使用する場合はそのカタログ等の説明書を添付する。
- ③ 特別な推進などの工法を使用する場合は記載する。
- ④ 設計図書に指定が無ければ「なし」と記載する。

5 主要資材

- ① 工事に使用する主要資材について、名称、規格、数量、製造会社、搬入時期等の一覧表を作成する。
- ② 局承認材料以外の材料について記載する。（添架、水管橋、推進工法等の材料）
- ③ 局承認材料は一括承認しているため、施工計画書への記載を省略できる。省略する場合は「豊田市上下水道局承認材料については記載省略」と記載する。ただし、別途提出する「工事材料の品質規格に関する資料」には、管材等の一覧表は添付するものとする。

6 施工方法

- ① 主要工種について、工事の安全を考慮して主要な工種ごとの施工フロー、施工順序等を記述する。ただし、一般的な施工方法（水道管工事標準仕様書に記載工法）は、省略することができる。
- ② 他工事との関係調整、地下埋設物件の対策、用排水路調査、他官公庁との協議、工事公害に対する配慮、地元への周知、苦情に対する措置方法等は必要に応じて記載する。
- ③ 仮締切、仮道路、仮橋、仮土留、防護工等主要な施設については記述する。主要な仮設工は必要に応じて構造計算書を添付する。（土留め工を設置する場合の

土圧計算書の添付は必須。)

- ④ 監督員の行う段階確認等について、確認時期、項目などについて記載する。遠隔も同じ。

7 施工管理計画

(1) 工程管理

工程管理の方法を記載する。また、実施工程表どおりに工事が進捗しない場合の改善措置について記載する。

(2) 出来形管理

施工管理基準（第5節参照）に基づき当該工事に必要な測定項目、試験項目を記載する。主要なものは試験方法、管理不法、試験場所等も記載する。

(3) 品質管理

施工管理基準（第9節参照）に基づき当該工事に必要な測定項目、試験項目を記載する。主要なものは試験方法、管理不法、試験場所等も記載する。

(4) 写真管理

写真管理に基づき撮影計画を記載する（第3節参照）。

8 緊急時の体制及び対応

- ① 異常気象時の防災管理体制、災害発生時の対策、緊急時の連絡系統図・連絡方法について記載する。
- ② 大雨、出水、強風等の異常気象時における作業現場の防災管理体制と災害発生時の対策及び作業現場内において事故発生又は、その恐れがある場合の体制と対策等について記載するほか、緊急時の連絡系統、連絡方法も系統図で表示する。
- ③ 「南海トラフ地震臨時情報」が発せられた場合の臨機の措置を記述するほか、作業員の緊急避難場所（避難経路を含む）を現場に明示する。

9 交通管理

- ① 工事に伴う交通対策と交通処理等について記載する。
- ② 保安設備図、道路使用許可証(写)を添付する。
- ③ 過積載を防止するための積載量の管理、点検方法、積載量監視責任者、工事関係者への過積載防止の周知、啓発活動等必要な事項を記載する。
- ④ 建設機械、資材の運搬にあたり、道路法第47条第1項、車両制限令第3条における一般的制限値を超える車両を通行させようとする場合は、運搬資機材ごとに運搬計画（車種区分、車両番号等、車両緒元及び積載重量、資材の積載限度数量、通行経路、許可証の有効期限等の確認方法と確認頻度）を記載する。

10 環境対策

- ① 工事現場周辺地域の生活環境の保全及び円滑な工事施工を目的として、環境保全対策及び騒音・振動公害防止対策について記述する。
- ② 「地域住民・第三者との連絡」について、どのような対策を計画するか、区長や改良区の工区長などにどのように説明するかを記載する。（団地内は通行しない、低速走行、ガソリン車使用、通学路は工事車両を迂回させるなど）
- ③ 特定建設作業実施届出書(写)、地元への案内文書を添付する。

11 現場作業環境の整備

工事現場の現場環境改善は、周辺住民への生活環境への配慮及び一般住民への建設事業の広報活動、現場労働者の作業環境の改善を行うことを目的とし、現場事務所、作業員宿舎、休憩所または作業環境等の改善を行い、快適な職場を形成するとともに、地域とのコミュニケーションや現場周辺の環境整備等が求められている。

この趣旨を理解して、工事現場の現場環境改善等について記載する。

なお、設計図書において、現場環境改善対象工事と明示された場合は、実施する

具体的な内容・実施期間について記載する。

12 再生資源の利用の促進

- ① 仮設PEPの再利用・レンタル管の使用・再生アスファルト混合物・再生砕石を使用する旨、撤去材は中間処理場で再利用を図る旨を記載する。
- ② 再生資源の利用に関する法律に基づき、建設副産物に係る利用促進及び処理計画に関する事項を記載する。鋳鉄管、塩ビ管、石綿管などの撤去管の処理方法についても記載する。
- ③ 工事ごとに処理し、完成後に保管・野積みがないようにすること。また完成検査時には、再生資源利用実施書・再生資源利用促進実施書[COBRIS、建設発生土を一定量以上搬出入する場合の確認票などを提出]すること。

13 法定休日・所定休日（週休2日の導入）

「豊田市上下水道局週休2日制工事実施要領」に基づく週休2日（休工）の取得計画を記載する。

14 その他

設計図書で施工計画書に明記又は記載するよう指定されているもの及び監督員の指示事項を記載する。

例)

- ・ 高度技術・創意工夫（事故防止対策における安全活動を含む（特に事故防止重点対策については特記仕様書に記載された事項の具体的な方法を明記））
- ・ 社会性等に関する実施状況がある。

添付資料)

- ・ 再生資源利用計画書
- ・ 再生資源利用促進計画書[COBRIS様式]（位置図、運搬経路図）
- ・ 再生資源利用促進計画の作成に伴う結果確認票（様式4）
※建設発生土等の実施要領に基づき、必要となる場合
- ・ 残土捨場承諾書（写）（残土処理地の許可書の写し及び位置図、運搬経路図）
- ※改良土プラントへ搬出する場合には承諾書（写）は不要で、プラントの許可証の写し、位置図、運搬経路図のみを添付する。
- ・ 土地使用承諾書（写）及び位置図（資材置場等を借地する場合のみ）
- ・ 廃棄物処理委託契約書（写）
- ・ 収集運搬、処理業者の許可書（写）
- ・ 特定建設作業実施届（写）
- ・ 道路使用許可書（写）
- ・ 溶接資格者証（写） ※溶接工事のある場合
- ・ 配水管技能者登録証（写）、HPP施工講習受講証（写）
- ・ 特定化学物質等作業主任者技能講習終了証（写）
- ・ 現場における作業主任者の資格証（写）
[例として、地山掘削、土留支保など]
- ※作業主任者の資格証(写)の添付は作業主任者の選任をした場合に添付する。
選任が無い場合や該当の無い資格者証の添付は不要。
- ・ その他工事に必要と思われるもの。

9-2-4 施工計画書作成例（現場必携 P2-43～71）

- 1 施工計画の作成例を次に示すが、現場に即した内容に適宜変更すること。

作成例

施 工 計 画 書

工 事 名 配水管○○○工事

路線等の名称 市道○○○○○線

工 事 場 所 豊田市○○○○町地内

工 期 令和○○年○月○日 ～ 令和○○年○月○日

請 負 代 金 額 ○○○○○○○○○円（消費税を含む）

目 次

(1)	実施工程表	1
(2)	現場組織表	3
(3)	安全管理	5
(4)	指定機械及び主要機械	7
(5)	主要資材	7
(6)	施工方法（主要機械、仮設備計画、工事用地等を含む）	8
(7)	施工管理計画	10
(8)	緊急時の体制及び対応	15
(9)	交通管理	16
(10)	環境対策	16
(11)	現場作業環境の整備	17
(12)	再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法	18
(13)	法定休日・所定休日（週休2日の導入）	18
(14)	その他	19

請 負 者 ○○○○○○○会社 TEL ○○-○○○○
(現場作業事務所 住所 豊田市○○町○○ TEL ○○-○○○○)
※ 現場作業事務所は設置した場合のみ

作成例

9-11

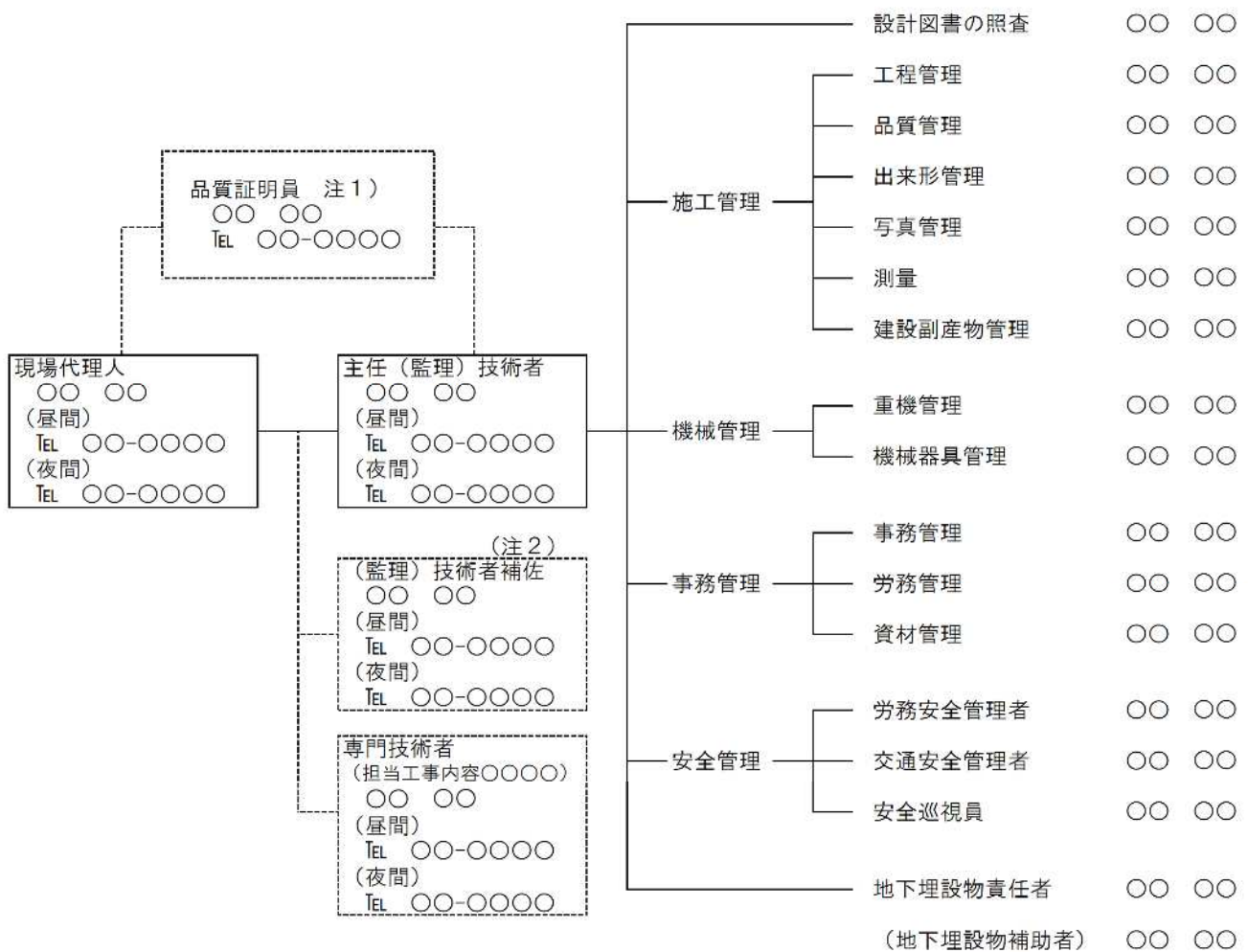
(2) 現場組織表 (現場必携 P2-47)

【現場事務所】

所在地 豊田市 ○○○○町
電話 ○○ - ○○○○

現場事務所がない場合は省略

【現場組織表】



※ 現場代理人、監督員のメールアドレスを記入すること。

注1) 品質証明員は、特記仕様書で品質証明の対象工事と明示された場合に配置
(仕P1-21)

注2) 監理技術者補佐は、特例監理技術者(監理技術者の兼務)を配置した場合に配置
(第1章第1節1-1-54 監理技術者の特例)

施工体系図は、建設業法で定められた様式はないため、愛知県建設局土木工事現場必携に掲載のある様式を参考掲示した。

この様式によらない場合も、網掛け部分は建設業法で記載することが定められた事項であるため、記載漏れがないよう注意すること。

施工計画書に施工体系図を添付しない場合は、打合簿にて別途提出すること。

(3) 安全管理 (現場必携 P2-48)

- ・工事現場内の安全管理については、過度な作業時間を削減し、余裕を持って作業をすることに心がけるなど、作業員の労働災害の防止を図ります。
- ・工事期間中は、毎日、安全巡視等を行い、第三者に対する災害の絶無を図るように努めます。
- ・安全対策として下記の組織を構成し、事故発生時における連絡表を次に定めます。
- ・安全訓練の実施については、月当たり半日以上の時間を割当て実施し、実施項目及び状況写真は安全訓練実施報告書に整理・保管し、監督員及び検査員からからの請求があった場合は速やかに提示します。
- ・作業開始前にも、毎朝安全ミーティングを行い、安全に関する指導を行います。

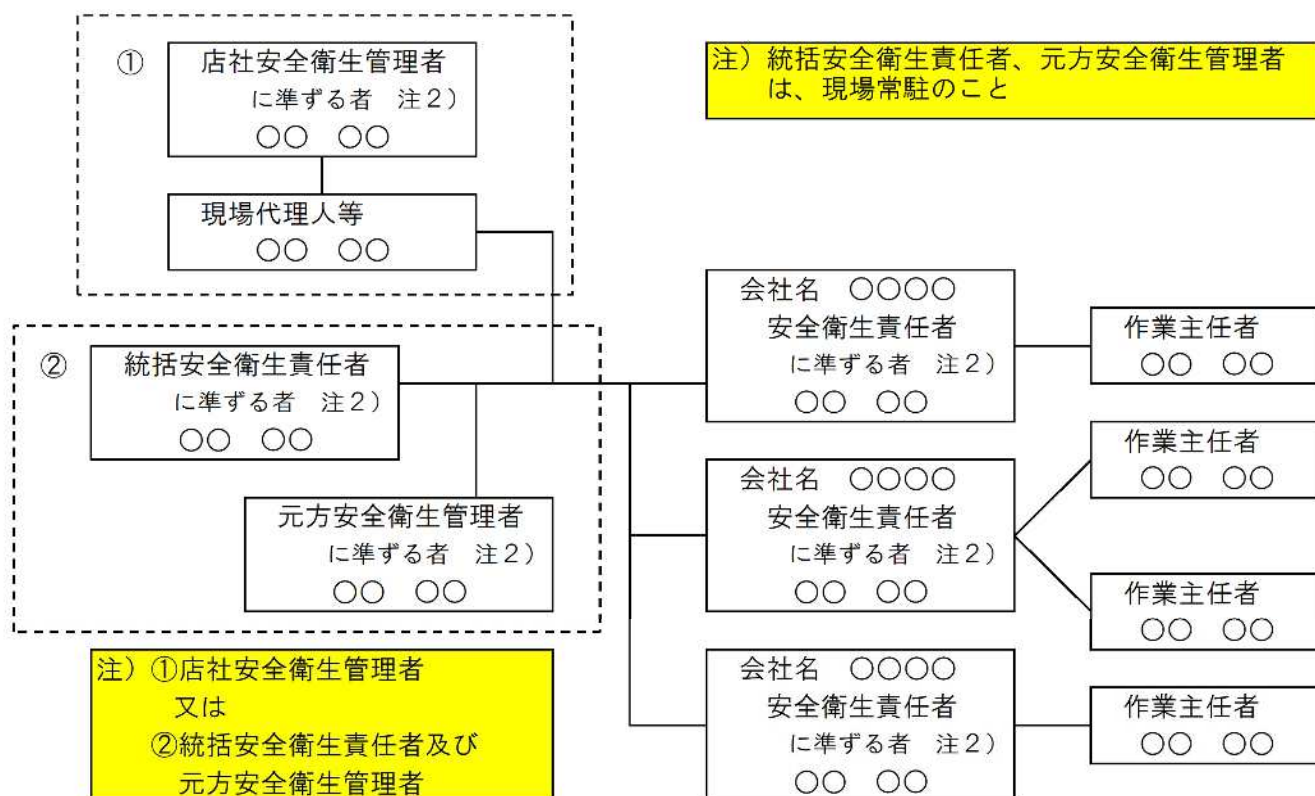
＜安全・訓練の実施項目＞

- ① 安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
- ② 工事現場安全パトロールの実施方法
- ③ 工事現場、材料置場等の管理方法
- ④ 地下埋設物の事故防止対策方法
- ⑤ 当該工事内容の周知徹底
- ⑥ 当該工事における災害対策訓練

指導者と参加者の職種と氏名 指導者 ○○○○
参加者 ○○○○、○○○○、
○○○○、○○○○

＜安全管理の組織＞

- (ア) 工事現場内の安全管理については、作業員の労働災害の防止及び疾病を予防するとともに、第三者に対する公衆災害を防止するため、安全管理の組織を下図のとおり定めます。
- また、作業主任者一覧表を、工事現場の関係労働者が見やすい箇所に掲載します。 注1)



<安全管理の組織の留意点>

注1) 現場に掲示する作業主任者一覧表には、労働安全衛生規則第18条の規定により、作業主任者の氏名及びその者に行わせる事項を記載する。

注2) 「に準ずる者」は、現場で作業する者が、常時10～49人の場合、配置する。（平成5年3月31日付け基発第209号「労働省労働基準局長 中規模建設工事現場における安全衛生管理の充実について」（現場必携 P2-47 参照））

現場作業員が常時10人以上いない場合は、「に準ずる者」の選任は、必要ないが、安全衛生に関する措置について作業員の多少は関係なく、常時10～49人の場合の体制に準じることが望ましい。

注3) ①店社安全衛生管理者を選任する場合には、元方事業者の現場にいる担当者（現場代理人等を記載する。②統括安全衛生責任者は、事業の実施を統括管理する者を選任すること。元方安全衛生管理者は、その事業場に専属の者を選任すること。統括安全衛生責任者及び元方安全衛生管理者は、現場に常駐することが望ましい。

(イ) 安全活動を下表のとおり実施する。 (現場必携 P2-50)

安全活動の内容	場 所	参加者	頻 度	摘 要
朝礼	現場	全現場作業従業者	毎作業日	
作業ミーティング	事務所	職長	毎作業日	
K Y 活動	現場	全現場作業従業者	毎作業日	
作業手順打合せ	現場	全現場作業従業者	随時	
新規入場者教育	事務所 現場	新規入場者	随時	
安全教育・安全訓練	事務所	全現場作業従業者	月当たり 半日以上	月別全体計画は下表
災害防止協議会	事務所	安全管理担当職員	月 1 回	協力会社を含む
安全巡視	現場	安全巡視員	毎作業日	常に腕章を着用
店社安全パトロール	現場	店社担当職員	月 1 回	必要がある場合

安全教育・安全訓練の月別全体計画

第1章 1-1-32 11
「月別安全・訓練等実施全体計画を施工計画書に記載する

月度	安全教育・安全訓練の計画	摘 要
○月度	当該工事内容の周知徹底、地下埋設物の事故防止対策方法	
○月度	交通事故防止(特記仕様書第9条)、過積載運搬の防止	
○月度	重機事故防止、熱中症対策、工事現場・材料置場等の管理方法	
○月度	当該工事における災害対策訓練、 工事現場安全パトロールの実施方法	
○月度	安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育	

(ウ) 事故防止重点対策の実施(特記仕様書 第9条関係)

特記仕様書に明示された
事故防止重点対策について
記載すること

特記仕様書第9条「交通事故防止重点対策」として、これまでの事故事例や事故防止対策の工事例等を周知し、現場条件に適した交通事故防止重点対策を適切に実施するものとする。

作業員へは、○月度の安全教育にて周知するとともに、実施状況を書面にて提出します。

(エ) 万が一の事故発生時における救急指定病院、関係機関への連絡方法は、(8)緊急時の体制及び対応によるものとし、緊急時の連絡系統図を工事現場の見やすい場所に掲示する。

(4) 指定機械 (現場必携 P2-52)

作成例

【指定機械計画表】

機械名	規 格		台 数	指定区分			摘要
				低振動型	低騒音型	排ガス 対策型 注)	
バックホウ	m ³ 0.13	PS 30	1	○	○	○	床堀、埋戻し
コンプレッサー	kw 300	PS 80	1	○	○	○	岩掘削、 コンクリート破砕

注) 排ガス対策型には、特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律(オフロード法)による基準適合車を含む。

(5) 主要資材 (現場必携 P2-53)

【主要資材の計画表】

材料名	規格	数量	製造 会社名	搬 入 時 期	工事材料の品質及び検査			あいくる材	JISマ 表示品	摘要
					試験 成績表 の提出 注1)	試験の 実施 注2)	監督員 の確認 (材料確 認報告 書) 注3)			
ステンレス鋼管 直管 (添架用)	SUS304 sch20 φ150	25.4m	□□製鉄(株)	○月 上旬	○					
ダクタイル鋳鉄管 (推進用)	φ150 U形	8本	△△鋳鉄管(株)	○月 上旬	○					
下層路盤材	RC-40 T=20cm	70m ³	○○○(株)	○月 下旬	○			○		
再生密粒度As	13mmTOP T=5cm 渡刈クリーンセンター 溶融スラグ入り	40t	▽▽▽ (株)	○月 下旬	○			○		あいくる材 認定書(写) または市試 験立会結果 確認通知書 (写)提出
レディーミクスト コンクリート	21-8-25BB (18-8-25BB)	10m ³	○○生コン	○月 下旬	○			○	○	◎マーク工 場、配合設計 書提出 圧縮強度試験 σ28は公 的機関等で 実施

※「豊田市上下水道局承認材料については記載省略」と記載する。

※ 主要資材の数量は、設計数量を記入するのではなく、使用材料の本数、個数等を記載すること。(数量は材料を発注する単位程度とする。)

【例】ダクタイル鋳鉄管(推進用)○○m → ○○本

※ 設計図書で指定された品質規格の同等以上のものを使用する場合は、下段()内に設計図書の品質規格を併記

注1) 工事材料の品質を証明する資料(局承認材料以外の配管材料は必要。一般土木材料については愛知県建設局土木工事標準仕様書に準ずる)

注2) 設計図書において試験を行うとしている工事材料(品質管理基準による。本仕様書以外は愛知県建設局土木工事標準仕様書に準ずる)

注3) 設計図書において監督員の確認を受けて使用すべきものとされた工事材料(管材料及び愛知県建設局土木工事標準仕様書P2-2第2編第1章第2節第10項リサイクル材等)

(6) 施工方法 (現場必携 P2-54)

(ア) 一般事項

(a) 作業時間及び休日又は夜間作業

① 作業時間

集合体操	〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
業務打合せ	〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
作業開始	〇〇時〇〇分
昼休み	〇〇時～〇〇時
作業終了	〇〇時〇〇分

② 休日

土曜日、日曜日、祝祭日、その他会社で定めた日
夏期休業 8月〇〇日～8月〇〇日
冬期休業 12月〇〇日～1月〇〇日

ただし、やむを得ず作業時間を変更する場合は、監督員に報告及び打合せをして実施します。

工程の関係又はその他の理由により、官公庁の休日又は夜間において作業を行う場合は、事前に監督員に連絡します。ただし、現道上の工事については書面等により通知（メールも可）します。

(b) 施工時の報告

工事期間中は、毎朝（8：30～8：45の間）、前日の出来形、当日の作業内容を電話、メール等により報告します。

(c) 他工事との関係調整

工事施工前には他工事の担当者と詳細な打合せを行い、工事期間中は当日の施工場所・工程などの連絡調整を密に行い、工程の進捗を図ると共に、道路通行規制の低減に努めます。

(d) 地下埋設物件の対策

豊田市上下水道局の『地下埋設物の事故防止対策マニュアル（R2.6.1改正）』を遵守し、事故防止に努めます。

(e) 用排水路調査

工事施工前には綿密に調査し、工事の監督職員と詳細な打合せを行い、必要に応じて管理者の立会いを実施し、監督職員に報告し、適切な施工を行います。

(f) 他官公庁との協議

工事施工前には施設管理者と詳細な打合せを行い、緊急な呼出しにも対応できる体制を整え、速やかに対処します。

(g) 工事公害に対する配慮

工事施工前には周辺地域を調査し、付近住民とのトラブルを避けるため、監督職員と連絡を密に行い、事前に対処します。

(h) 地元への周知

工事施工前には区長等地元への工事の案内文を配布し、広報し、付近住民とのトラブルを避けるよう努めます。

(i) 苦情に対する措置方法

苦情が発生しないよう、最大限努力するとともに、万一発生した場合は、監督職員と連絡を密に行い、速やかに対処します。

(j) 仮土留・防護工の施工方法

土質、掘削深度によっては、監督職員の指示を受け、堅固な仮土留を施工し、労働災害の未然防止に努めます。

離脱防止延長が不足する場合は、監督職員の指示を受け、コンクリート防護を措置するなどの対策を講じます。

(イ) 具体的な施工方法

(a) 仮設備計画

工事施工前には監督職員と詳細な打合せを行い、主要な仮設備は必要に応じ計算書を添付します。

① 仮設配管

工事施工前に監督職員と詳細な打合せを行い、施工前に計画図面の確認を受けます。

② 水替設備

動力源は、低騒音発電機を使用し、水中ポンプφ50mm 2台を据付け、確実に排水を行います。

③ 運搬道路の維持補修

運搬道路の維持管理は十分行うこととし、土砂のついたタイヤ痕は、竹ボウキ等で清掃し、特に路面の凹凸が著しい場合は、切込砕石などにより補修を行います。また、砂利道で砂ほこりの多い場合はただちに散水を実施します。

④ 借地が必要な場合

借地が必要な場合には、借地契約書、または承諾書の写しを提出し、監督職員の確認を受けます。

(b) ○○工

(○○管布設工、水管橋架設工、減圧弁設置工など設計図書に記載された工種) 主要工種の作業フロー、施工手順等を記載する。

一般的な施工方法(水道管工事標準仕様書に記載された工法(第3章管布設工及び第4章弁栓類、他)は省略することができる。

省略可能か判断がつかない場合は、監督員に確認する。

工種が追加となった場合は、変更施工計画書により提出する。

(c) 舗装本復旧工(舗装施工する際の端部擦り付け施工)

① 施工延長が長い舗装本復旧を伴う工事は、基層施工後、数日後に表層施工を行います。表層の施工に関しては、一日で施工可能な範囲を監督員と協議し、基層施工完了後に日にちを空けずに表層の施工を行います。

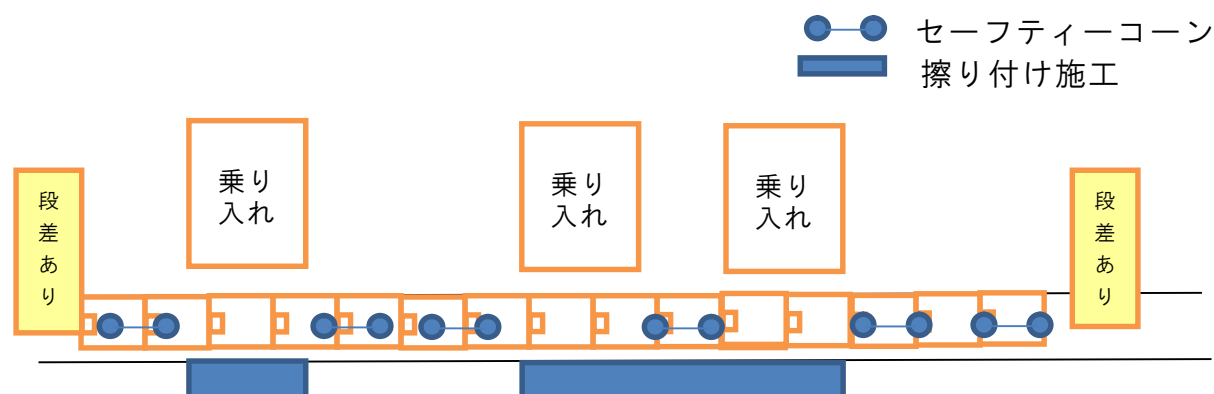
(断面図)

四日目 表層施工		
一日目 基層施工	二日目 基層施工	三日目 基層施工

② 起点・(中間)・終点に段差ありの看板を設置し、注意喚起を行います。

③ 車の乗り入れ口及び歩行者が横断する箇所は、全ての箇所に規定のすり付け施工を行います。また、乗り入れ口が連担する場合には、すり付け施工の連結を行います。

- ④ 側溝及び路側帯においては、側溝上にセーフティーコーン等の設置をします。
- ⑤ 現場におけるトラブルが発生した場合には、直ちに監督員に報告するとともに、事実確認を行い内容について書面で監督員に提出します。



(ウ) 監督員による段階確認等（現場必携 P2-58、59） ※報告書添付で代用可

(a) 段階確認

下表に示す確認時期において、監督員による段階確認を受ける。

種 別	細 別	項 目	実施予定時期	確認方法 (臨場・机上)	実施年月日
開削工	管布設工	中間検査記録様式	○月上旬	臨場・机上	
埋戻し工	改良土	中間検査記録様式	○月上旬	臨場・机上	
下層路盤工	R C 4 0	中間検査記録様式	○月上旬	臨場・机上	
開削工	管布設工	中間検査記録様式	○月上旬	臨場・机上	
埋戻し工	改良土	中間検査記録様式	○月上旬	臨場・机上	
下層路盤工	R C 4 0	中間検査記録様式	○月上旬	臨場・机上	

(b) 施工状況把握

下表に示す施工時期に、監督員の施工状況把握を受ける。

種 別	細 別	項 目	実施予定時期	確認方法 (臨場・机上)	実施年月日
埋戻し工	改良土	使用材料 敷均し締固め状況	○月上旬	臨場・机上	
下層路盤工	R C 4 0	使用材料 敷均し締固め状況	○月上旬	臨場・机上	
埋戻し工	改良土	使用材料 敷均し締固め状況	○月上旬	臨場・机上	
下層路盤工	R C 4 0	使用材料 敷均し締固め状況	○月上旬	臨場・机上	

(7) 施工管理計画 (現場必携 P2-60~63)

(a) 工程管理

工程管理については、バーチャート方式により作成した実施工程表で総合的に管理するとともに、毎月5日までに工事の履行報告を提出する。

(現場責任者の場合は、履行報告の適用除外となるので文面を修正する)

工期の3分の1を経過した時点で全体工程管理にマイナス20%の差異が生じた場合は、改善策を講じ変更実施工程表を監督員に提出のうえ管理する。

また、必要に応じて工事の進捗状況の確認(現場代理人、主任技術者等以外の者によるチェックを行う)を受けるとともに、実施工程については日々管理する。

(b) 出来形管理

施工管理基準により、次の項目について、出来形成果総括表、出来形管理表等を作成し、出来形管理を実施する。

工 種	測定項目及び規格値(単位mm)					測定基準
	箇所数	基準高	厚さ	幅	延長	
1 管路掘削		深さ ±30		—50		施工延長50mにつき 1か所(路線延長50 m以下は任意の点で 1か所)
2 管路埋戻 (管上10cm、路床)		±30	—30			施工延長50mにつき 1か所(路線延長50 m以下は任意の点で 1か所)
3 管布設工		土被り ±30			—200	管平面延長を測定 基準高は施工延長50 mにつき1か所(路 線延長50m以下は任 意の点で1か所)
4 鋳鉄管接合工	全箇所	4 管接合工は該当する管種 について記載する。				接合箇所ごと (継手管理表による)
4 HPP管接合工	全箇所					接合箇所ごと (継手管理表による)
5 仕切弁設置工	設計値 以上	蓋高 段差がないこと	砕石基礎 —30	砕石基礎 —50		設置箇所ごと
6 排水設備工	設計値 以上	蓋高 段差がないこと				設置箇所ごと
7 消火栓設置工	設計値 以上	蓋高 段差がないこと	砕石基礎 —30	砕石基礎 —50		設置箇所ごと
8 空気弁設置工	設計値 以上	蓋高 段差がないこと	砕石基礎 —30	砕石基礎 —50		設置箇所ごと
9 アスファルト舗装工 (下層路盤工)		±50	—45	—50		施工延長50mにつき 1か所(路線延長50 m以下は任意の点で 1か所)

工 種	測定項目及び規格値(単位mm)					測定基準
	箇所数	基準高	厚さ	幅	延長	
10 アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工			－30	－50		施工延長50mにつき 1 か所(路線延長50 m以下は任意の点で 1 か所)
11 アスファルト舗装工 (上層路盤工) 瀝青安定処理			－20	－50		幅は、延長 50m毎に 1 か所とする。 厚さは、1,000m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。
12 アスファルト舗装工 (基層工)			小規模 －12	－25		幅は、延長 50m毎に 1 か所とする。 厚さは、1,000m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。
13 アスファルト舗装工 (表層工)			小規模 －9	－25		幅は、延長 50m毎に 1 か所とする。 厚さは、1,000m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。
14 区画線工			設計値 以上	設計値 以上	設計値 以上	各線種毎に、1か所テ ストピースにより測 定。市単独工事は代 表線種1か所テスト ピースにより測定。
15 仮配管工					設計値 以上	管種、口径ごとに測 定
16 既設管撤去工					設計値 以上	管種、口径ごとに測 定

注)

3 は、構造物間隔で平面延長を測定する

4 は、K形は、締付トルク、押輪受け口間隔、標線受口間隔、ゴム輪の状態を管理する。

N S形は、直管部は受口面ゴム輪間隔、標線受口間隔を管理し、異形管・継輪については、締付トルク、押輪受け口間隔、標線受口間隔、ゴム輪の状態を管理する。

G X形は、直管部は受口面ゴム輪間隔、標線受口間隔、P-Link部は受口面ゴム輪間隔、締付トルク、爪・押しボルトの状態を管理する。異形管・継輪については、締付トルク、押輪施工管理用突部と受け口端面の間隔、標線受口間隔を管理する。

H P P管は、気温、融着開始・終了時刻、冷却終了時刻、インジケータの状態などを管理する。

注) 単独市費工事において1工事100 m²以下の舗装については、出来形管理では下がり管理を出来形管理に置き換えることができる。また、この場合品質管理についても省略できるものとする。

※ 上記はあくまで記載例であるので、請負者は施工する工事に当てはまる工種の管理項目を第6節出来形管理基準にてよく確認のうえ、作成する。

作成例

(C) 品質管理

施工管理基準の品質管理基準及び規格値に基づき、下表の工種・試験項目について品質管理図を作成し品質管理を行う。

工種	種別	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	試験回数等			摘要 (公的機関等での試験)
						設計 数量	試験 回数	試験成績表 等による確認	
道路土工	施工	現場密度 の測定	最大粒径 ≤53 mm : 砂置換法 (JISA1214)	【砂質土】 ・路床及び構造物取付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験（JISA1210）A・B法）もしくは90%以上（締固め試験（JISA1210）C・D・E法）ただし、JISA1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合）に適用する。	・路床及び構造物取付け部の場合、500m ³ につき1回の割合で行う。ただし、1,500m ³ 未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。 ・ただし、100m ³ 未満の工事は、監督員の現場確認により省略することができる。	450m ³	3回		
下層路盤	施工	現場密度 の測定	舗装調査 ・試験法便覧 G021 [4] -256 砂置換法 (JISA1214) 砂置換法は最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる。	最大乾燥密度の93%以上 X10 95%以上 X6 96%以上 X3 97%以上 歩道及び路肩路盤 X10 90%以上 X6 90.5%以上 X3 91%以上	・締固め度は個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上（歩道路盤及び路肩路盤を除く）を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の平均値 X10 が規格値を満足するものとする。 ・10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値が規格値を満足するものとするが、X3 が規格値を外れた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値 X6 が規格値を満足していればよい。 ・1工事あたり 3,000 m ³ を超える場合は、10,000 m ³ 以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。 ・3,000 m ³ 以下の場合は、1工事あたり3孔以上で測定する。※ ※施工箇所が点在する維持工事は除く。	1,250m ³	3孔		

作成例

工種	種別	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	試験回数等			摘要 (公的機関等での試験)
						設計 数量	試験 回数	試験成績表 等による確認	
アスファルト舗装 (本復旧) 再生密粒度 As (車道) T=5cm	舗設現場	現場密度 の測定	舗装調査 ・試験法 便覧B008 [3] -218	基準密度の94%以上 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上 歩道舗装 基準密度の90%以上 X10 90%以上 X6 90.5%以上 X3 91%以上	・締固め度は個々の測定値が最大乾燥密度の94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。 ・締固め度は10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。 ・10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値が規格値を満足するものとするが、X3が規格値を外れた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。 ・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。 ・3,000㎡以下の場合は、1工事あたり3孔以上で測定する。※ ※施工箇所が点在する維持工事は除く。	1,250m ³	3孔		
		温度測定 (初転圧前)	JIS Z8710	110℃以上	随時		1日4回 (午前・午後 各2回)		
アスファルト舗装 (本復旧) 再生瀝青 安定処理 (車道) T=5cm	舗設現場	現場密度 の測定	舗装調査 ・試験法 便覧B008 [3] -218	アスファルト安定処理路盤 アスファルト舗装に準じる。	アスファルト舗装に準じる。	1,250m ³	3個		
		温度測定 (初転圧前)	JIS Z8710	110℃以上	随時		1日4回 (午前・午後 各2回)		
HPP 通水時 水圧試験									
．．．．	．	．．．．	．．．．	．．．．	．．．．	．．．	．．．	．．．	

その他、品質確保のため次の点に留意して工事を実施します。

作成例

※ 以下は留意項目の例である。請負者は実際に実施する留意項目を実態に合わせて記載する。第9節品質管理基準を参照する。

- ① 使用材料の確認を監督員立会の上で実施する。
例：メーカー名等指定材料かどうか、キズ、損傷、錆はないか等
- ② 現地（材料置場）での保管方法上の注意事項
例：シートにより日光・雨水から覆う
 鋳鉄管の切管は当日発生した分には必ず管端面に補修材を塗布しておく
 長期の保管とならないような対策等
- ③ 施工中の取扱い
例：管の吊り上げ下げはナイロンスリングを使用する。
 鋳鉄管の切管は当日発生した分には必ず管端面に補修材を塗布しておく
 弁栓類のブロックは欠かすことのないよう丁寧な取扱いをするなど
 弁栓類は埋戻し時に傷つけないように土のう袋を被せる等
- ④ 局承認材料以外の製品を使用する場合は、監督員立会のもとで、外観・形状・寸法検査を実施します。

(d) 写真管理

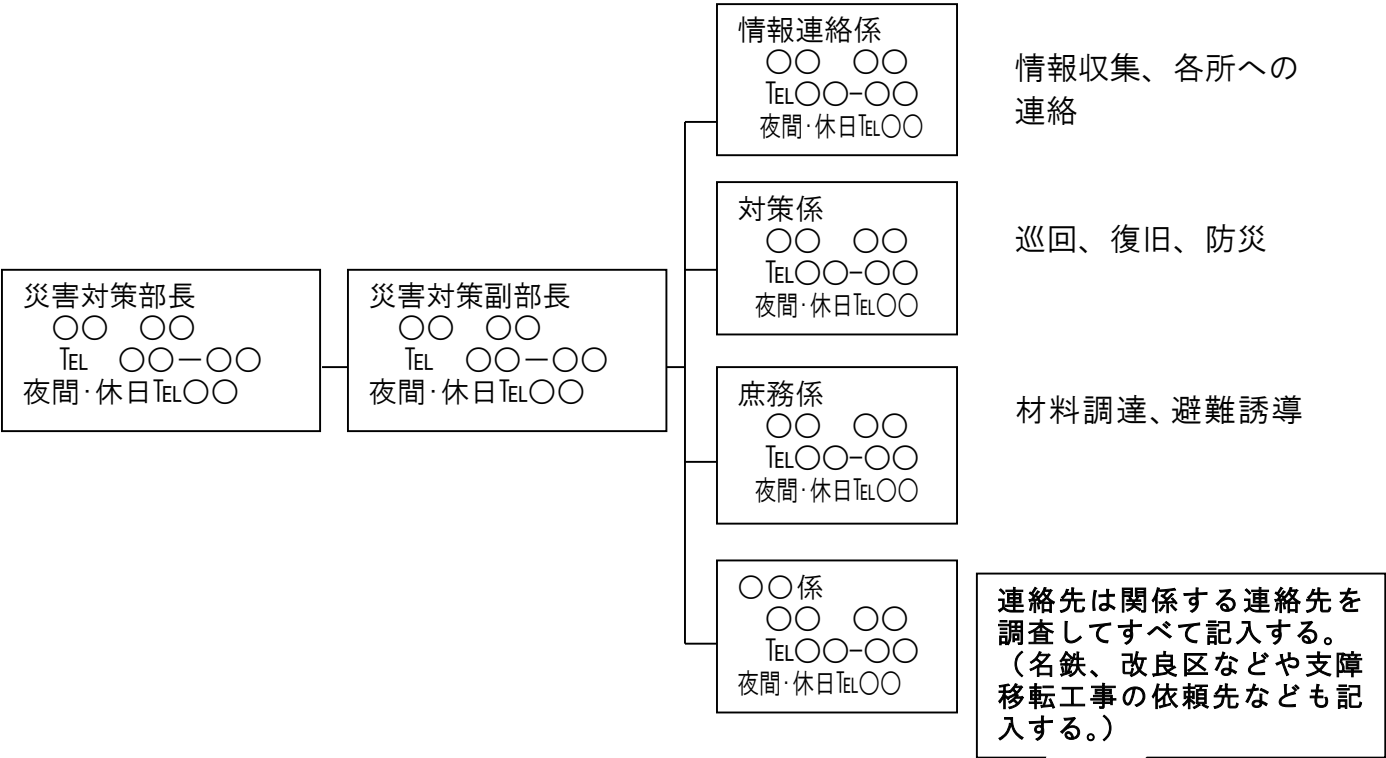
工事写真は、写真管理基準により実施する。なお、撮影並びに編集に際しては、目的、表現が明確になるよう創意に努めます。

※ 請負者は、仕様書の9-4-5工事写真管理の表から必要な項目を選定し記載する。また、不要な項目は削除すること。

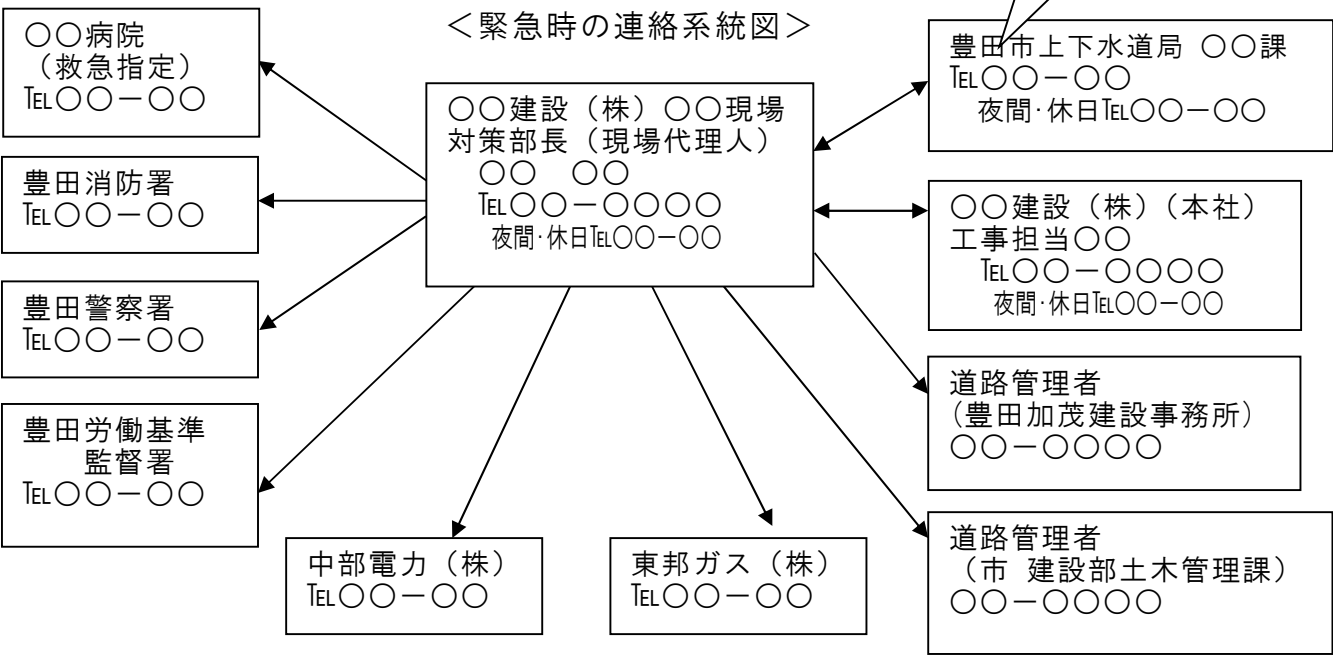
（８）緊急時の体制及び対応（現場必携P2-64）

- （a）大雨、出水、強風等の異常気象または地震発生時において、災害発生のおそれがある場合、下記の災害対策組織による体制を整え、必要に応じ現場内をパトロールして警戒します。
- また、工事現場内において災害・事故発生、又はその恐れがある場合、作業時間内はただちに災害対策の体制に入り、現場代理人以下現場構成表の各担当職務に応じて行動します。

＜災害対策組織表＞



また、災害発生等の緊急時の連絡系統は下図のとおりとする。



(b) 「南海トラフ地震臨時情報」に伴う臨機の措置（現場必携P2-65）

「南海トラフ地震臨時情報」が発せられた場合には、継続的に地震関連情報の収集に努め、下記事項をただちに実施、工事現場内の安全を確保し、必要な保全及び工事中断の措置をとる。

- ① 掘削中の場合は、作業を中止し、埋戻しを行う。
- ② コンクリート打設中の場合は、作業を中止する。
- ③ 埋戻し中の場合は、ダンプトラック等の運転を中止し、一般交通等第三者に対する安全を確保する。
- ④ 機械及び器材等は安全な場所に待機する。
- ⑤ 作業員や必要に応じ第三者に情報伝達するとともに、避難場所や避難経路などの緊急避難措置の再確認を行う。（避難経路は現場に掲示されなければならない。）

(c) 事故発生時の措置

- ① 付近の病院、所轄警察署、労働基準監督署などの関係機関等の連絡先を常に携帯します。
 - ② 事故が発生した場合、第三者及び作業員の人命の安全確保を優先するとともに、直ちに関係機関（所轄警察署、労働基準監督署等）及び監督員に連絡します。
- ② 事故後の工事再開等については、監督員と協議のうえで行います。

(9) 交通管理（現場必携P2-66）

工事標識、保安設備を完備するとともに、特に夜間交通に対するバリケード、工事灯などの配置には注意する。

必要に応じ交通誘導警備員を配置計画図に基づき配置して、一般交通、歩行者に対する安全を図る。

（迂回路を設ける場合の例文）

工事標識、保安設備を完備するとともに、特に夜間交通に対するバリケード、工事灯などの配置には注意する。

迂回路には、迂回路図及び保安設備図、迂回路表示板、道路標識（「まわり道」）の配置図ならびに交通誘導警備員配置計画図に基づく交通安全管理を行い、一般交通、歩行者に対する安全を図る。

(a) 土砂等の運搬に対する注意事項（例）

- ① ダンプトラックには、当該工事の工事用車両であることを車両前部に表示し責任運行を行う。
- ⑤ 通学時間帯（〇時～〇時）の運行自主規制を徹底する。
- ⑥ 交通規制、速度制限、積載量を遵守する。
- ⑦ 指定路線以外の通行は禁止するとともに、通学道路及び現場内は徐行運転する。
- ⑧ 運行状況及び標識、保安設備等についてパトロールによる自主監視を強化する。
- ⑥ 過積載運搬を防止するために次の対策を行う。
 - ・ ○○○○○○○○○○
 - ・ ○○○○○○○○○○
 - ・ 以上のことにつき、下請負契約における受注者を含めた指導を行う。

- (b) 運搬経路図および交通安全施設図
- (c) 道路占用許可条件及び使用許可条件等の明示
- (d) 特殊車両の通行 ※特殊車両の通行がある場合に運搬計画などを記載

(10) 環境対策（現場必携P2-67）

指定機械に記載の排出ガス対策型・低騒音・低振動型建設機械を使用するとともに、工事に伴って発生する振動・騒音については、特定建設作業実施届出書を提出のうえ、騒音規制法、振動規制法及び県民の生活環境の保全等に関する条例を遵守する。また、単に工事による迷惑をおよぼす程度であっても、出来るだけ工事に伴う騒音、振動を生じないように努めるとともに、重機等のエンジンを必要以上にふかさないようにする。

なお、工事前に地元区長等に説明を行い、団地内は通行しない、低速走行、ガソリン車使用、通学路は工事車両を迂回させるなど、環境に配慮することを連絡したり、工事中地元住民等により苦情又は、意見があった場合は、丁寧に対応しただちに監督員に報告する。

建設工事の公害・規制等の対策については、家屋密集地は、振動・騒音の発生しにくい機械を使用する、7－9制限を必ず守り、運搬車両・作業員輸送車両は迂回するなどを記載する。

(11) 現場作業環境の整備（現場必携P2-68）

現場作業環境の整備として下記事項を実施する。

（例を以下に記入するので、例を参考に実態に即した記入をすること。）

- 1 現場内にフラワーポットの設置
- 2 バリケード、工事標識にイラスト、カラフルなデザインを採用し、イメージアップを図る。

(12) 再生資源の利用の促進（現場必携P2-69）

記載すべき項目の例を以下に記入するので、例より項目を選択し、実態に即した実施する内容を記載すること。

（記載する項目の例）

- ① 再生資源の利用に関する法律に基づく、建設副産物に係る利用促進及び処理計画に関する事項
- ② 仮設PEPの再利用・レンタル管の使用・再生アスファルト混合物・再生砕石の使用に関する事項
- ③ 撤去材の再利用に関する事項
- ④ 撤去管の処理方法に関する事項（铸铁管、塩ビ管、鋼管、石棉管等）
- ⑤ 建設廃棄物の適正処理に関する事項

(13) 法定休日・所定休日（週休2日の導入）

「豊田市上下水道局週休2日制工事実施要領」に基づき、本工事は週休2日制工事とし、以下の休工取得計画により工事を実施します。

週休2日取得計画表

日	月	火	水	木	金	土	日数	休工日数	備 考
			8月1日	8月2日	8月3日	8月4日	—	—	
準備期間←			施工開始日 □	□	□	休工			
8月15日	8月6日	8月7日	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日	7	2	
休工	□	□	□	□	□	休工			
8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日	8月17日	8月18日	7	2	
休工	□	□	□	□	□	休工			
8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	8月24日	8月25日	4	1	夏季休暇期間は対象外
休工	□	□	□	夏季休暇（3日間）					
8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日	7	2	
休工	□	□	□	□	□	休工			
9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	7	2	
休工	□	□	□	□	□	休工			
9月9日	9月10日	9月11日	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日	7	2	
休工	□	□	□	□	□	休工			
9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日	7	2	
休工	□	□	□	□	□	休工			
9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	7	2	
休工	□	□	□	□	□	休工			
9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日			
休工	□	□	□	施工完了日 □	→後片付け期間				
計							53	15	

休工割合 28.30 %

4週8休以上

(14) その他（現場必携P2-67）

その他に記載する項目の例を以下に記入するので、例を参考に実態に即した内容を記載すること。

- ① 仕様書、特記仕様書等で施工計画書に記載するよう指示されているもの及び監督員の指示事項を記載する。
- ② その他、特に必要とする場合は、稼動日数表、労務計画表、支保工計画書等も付ける。
- ③ 特殊工事の施工方法を明記すること。
- ④ 資材置場を指定する場合はその位置図を添付し、さらにその場所を借地する場合は地主の承諾書も添付する。
- ⑤ 建設工事を施工するために下請負契約を締結した場合に施工体制台帳を監督員に提出する。
- ⑥ 工事の完成にあたり、社内検査を実施し、現地出来形寸法と日報数量等を比較し、間違いのないことを確認の上、出来形図を作成し提出する。
- ⑦ 社内検査については、現場代理人、主任技術者以外の検査員の名前も、日報に記入する。
- ⑧ 電子納品するCD及びDVDはウィルスチェックを行うこととし、発注者に提出する書類を作成するパソコンごとにウィルス対策を必ず記載すること。

【記載例】

電子納品する CD 及び DVD は以下によりウィルスチェックを行います。

1) 使用ソフト名：〇〇〇

2) パターンファイルの更新：自動オンライン

また、発注者に提出する書類を作成するパソコンについても、以下によりウィルスチェックを行います。

① 使用するパソコン名：〇〇〇

- ・ 資料作成に用いるソフト名：〇〇〇
- ・ ウィルスチェックに用いるソフト名
- ・ ウィルスチェックパターンファイルの更新：自動

② 使用するパソコン名：〇〇〇

- ・ 資料作成に用いるソフト名：〇〇〇
- ・ ウィルスチェックに用いるソフト名
- ・ ウィルスチェックパターンファイルの更新：手動 7 日に 1 度

<添付書類>

再生資源利用計画書・再生資源利用促進計画書[COBRIS様式]

再生資源利用促進計画作成に伴う結果確認票（様式4） ※必要な場合

残土捨場承諾書（写）（残土処理地の許可書の写し及び位置図、運搬経路図）、

土地使用承諾書（写）、廃棄物処理委託契約書（写）、

収集運搬・処理業者の許可書（写）（処分場の位置図、運搬経路図）、

特定建設作業実施届（写）、道路使用許可書（写）、地元への工事案内書、

配水管技能者登録証（写）、HPP施工講習受講証（写）

特定化学物質等作業主任者技能講習終了証（写）

現場における作業主任者の資格証（写）

その他当該工事に必要と思われるもの。

第3節 施工体制台帳・施工体系図（仕P1-9）

9-3-1 一般事項

施工体制台帳・施工体系図は、現場の施工体制を確認するための根拠となるものであるため、正確に作成しなければならない。

作成にあたっては、建設業法及び本仕様書の内容に基づき行い、**関連する書類同士で不整合とならないように注意**する。

原則として電子データで作成・提出する。作成にあたってはASPの作成支援機能を利用して作成したものを添付して電子提出することも認める。

なお、施工体制台帳・施工体系図は追加・変更の都度、作成・提出するが、施工体系図の追加・変更による施工計画書の変更は必要ない。

9-3-2 記載項目

1 施工体制台帳

施工体制台帳には、元請負人及び下請負人に関する以下の内容を記載する。

（1）元請負人に関する事項

- ① 名称及び事業所名
- ② 建設業の許可業種、番号、許可年月日
（保有しているすべての建設業許可について記載する）
- ③ 工事名称及び工事内容、発注者の名称及び住所、工期、契約日
- ④ 契約営業所の名称及び住所
- ⑤ 健康保険等の加入状況（健康保険、厚生年金保険、雇用保険）
- ⑥ 発注者の監督員氏名及び権限、意見申出方法
- ⑦ 現場代理人氏名及び権限、意見申出方法
- ⑧ 主任技術者（監理技術者）専門技術者の氏名及び資格内容
- ⑨ 専門技術者の氏名及び資格内容、担当工事内容（配置した場合）
- ⑩ 建設工事に従事する者に関する事項（作業員名簿に当たる部分）
 - ア 氏名、生年月日、年齢
 - イ 職種
 - ウ 健康保険加入等の状況
 - エ 中小企業退職金共済法被共済者であるか否かの別
 - オ 安全衛生に関する教育の内容
 - カ 建設工事に係る知識、技術、技能に関する資格（任意事項）
- ⑪ 一号特定外国人の従事及び外国人建設就労者、外国人技能実習生の有無

（2）下請負人に関する事項

- ① 名称及び代表者氏名、住所
- ② 工事名称及び工事内容、工期、契約日
- ③ 建設業の許可業種、番号、許可年月日
（施工に必要な建設業許可のみ記載する）
- ④ 健康保険等の加入状況（健康保険、厚生年金保険、雇用保険）
- ⑤ 現場代理人氏名及び権限、意見申出方法
- ⑥ 主任技術者の氏名及び資格内容、専任であるか否かの別
- ⑦ 安全衛生責任者、安全衛生推進者、雇用管理責任者の氏名
- ⑧ 専門技術者の氏名及び資格内容、担当工事内容（配置した場合）
- ⑨ 建設工事に従事する者に関する事項（作業員名簿に当たる部分）
元請負人の⑩のア～カに同じ
- ⑩ 一号特定外国人の従事及び外国人建設就労者、外国人技能実習生の有無

2 施工体系図

施工体系図には、元請負人の安全管理の組織及び全ての下請負人（建設工事のみ）の名称、工事内容、建設業許可、主任技術者氏名、契約期間などを記載する。

9-3-3 添付書類及び提出書類、現場への掲示等

1 施工体制台帳

施工体制台帳には、以下の書類を添付し、現場に備え付ける必要があるが、**監督員に提出する際は、添付書類（施工体系図、作業員名簿は除く）は不要**とする。

ただし、**監督員及び検査員から添付書類の提示を求められた場合には、速やかに応じなければならない。**

- ① 発注者との請負契約（当初・変更）の写し
- ② 下請負人との請負契約（当初・変更）の写し（注文書、請書、見積書1式）
- ③ 主任技術者、または監理技術者が主任技術者資格、または監理技術者資格を有する事を証する書面、またはこれらの写し（監理技術者の場合は、監理技術者資格者証の写し）
- ④ 主任技術者、または監理技術者が請負者に雇用期間を特に限定することなく雇用されていることを証する書面、またはこれらの写し
- ⑤ 特例監理技術者を配置する場合の監理技術者補佐が監理技術者補佐になり得る資格を有する事を証する書面、またはこれらの写し
- ⑥ 専門技術者を置く場合は、その者が主任技術者資格を有する事を証する書面及び請負者に雇用期間を特に限定することなく雇用されていることを証する書面、またはこれらの写し（配置が必要な場合）
- ⑦ 施工体系図 ※提出必須
- ⑧ 作業員名簿 ※提出必須
- ⑨ 再下請負通知書 ※提出必須

2 施工体系図

施工体系図は、工事関係者の見やすい場所及び公衆の見やすい場所にも掲示する。ただし、1か所で2つの目的が達成できれば、1か所の掲示でもよい。

9-3-4 監督員への提出時期

1 施工体制台帳

下請負契約を締結してから、**現場で着手する前までに提出**する。

新規工種の追加などにより、新たに下請負契約を締結した場合は、速やかに施工体制台帳の追加を提出する。

また、工期延長などにより下請負契約期間に変更が生じた場合、建設業許可の更新等により記載事項に変更が生じた場合も速やかに提出する。

2 施工体系図

施工体制台帳に同じ。

第4節 写真管理

9-4-1 一般事項

- 1 写真管理は、**工事中における施工状況及び施工内容が、設計図書並びに仕様書と合致した内容のものであったことを工事完成後において確認するためのもの**である。
- 2 この工事写真には、**工事の開始から終了までの一連の施工段階及び安全対策等を日報と合致させて記録**する。また、第三者に工事の適正な施工を認めさせるための説明資料ともなる。

9-4-2 撮影要領

- 1 工事着手前の状況及び後日検査が不可能となるか、又は著しく困難となることが明らかな箇所についてその形状寸法、数量等が判定できるようにする。
- 2 工事着手から完成に至るまでの施工状況については、これを順序よく撮影して工事の進捗状況が把握できるようにする。
- 3 施工中における各工種別の使用資機材については、形状寸法、数量等が確認できるようにする。
- 4 撮影に際しては、設計図書並びに仕様書どおりに施工されたことが確認できるよう明確な測定器具（ポール、幅広テープ等）を添えて撮影する。

9-4-3 電子納品

- 1 電子納品の対象となる**工事写真**は、豊田市電子納品運用ガイドライン（令和3年4月）、豊田市デジタル写真管理情報基準（令和3年4月）及び国土交通省工事完成図書の電子納品等要領（令和2年3月）に基づき、電子媒体により提出すること。電子納品の対象工事以外でも電子納品を希望する場合はこれを妨げない。ただし、事前に提出方法等について監督員と協議すること。
- 2 写真の画素数は**100万画素程度**とする。
- 3 電子納品では、写真の加工は認められない。また、カメラの日付設定を確認して撮影すること。
- 3 **検査受検時のパソコン、モニター等は、請負者において準備**すること。
- 4 検査受検時の画面操作は請負者において操作すること。
- 5 電子媒体への書き込み後は、ウィルスチェックを必ず行い、ウィルスに感染していないことを確認すること。また、電子媒体のラベル面には、『ウィルスチェックに関する情報』を表記するものとする。（ガイドライン参照）
- 6 受注者は、電子媒体の内容の原本性を確保するため、『電子媒体納品書』に署名又は押印の上、電子媒体と共に提出すること。
- 7 **C D－Rラベルへの署名については、検査終了後、受発注者が直接署名**する。
- 8 **C D－Rラベル面に「対象外」と表記するものとする。**
※ 情報セキュリティ「外部記録媒体管理台帳登録」の対象外のため。
- 9 工事管理ファイル（INDEX_C.XML）は、要領に記載の必須項目を必ず記入すること。
- 10 監督員は、提出された電子成果品（電子媒体）にウィルス（主にマクロウィルス）が含まれていないかをウィルスチェックソフトを利用して確認すること。
- 11 監督員は、「電子納品検査プログラム」でエラーチェックを行うこと。

9-4-4 工事写真帳による納品

すべての工事を電子納品の対象とし、紙媒体での写真帳の納品は原則認めない。

9-4-5 工事写真管理

- 出来形の計測写真は、**スタッフ、または巾広テープ等目盛の大きく鮮明な用具を用いる**とともに、測定値を指し具、またはポール等で示し、**数値が明確に判読できるよう撮影**する。

名 称	撮 影 内 容 ・ 注 意 点
着手前及び完成	
路線ごと	・ 着手前、完成写真を路線ごとに整理 ※着手前及び完成の対比 ・ 測点ごとに起点から終点に向かって撮影 ・ トラ柵、残材は入れない ・ 布設位置はポール等で明示すること
施工状況写真	
1 現況	・ 工事完成後のトラブル防止のために残すこと ・ 撮影日、測点を明記し、破損箇所、汚れ等を撮影
2 試掘 (立会含む)	・ 道路管理者、地下埋設物所有者、土地所有者等の了解を得て、立会者が確認できるようにすること ・ 立会者、立会日を黒板に明記 ・ 試掘は、埋設物の位置、深度、離隔、埋戻状況等を撮影すること
3 仮設工	
(1) 仮設配管	① 仮設配管図（黒板豆図） ・ 複雑な仮設は、路線別で整理 ② 仮設管布設状況 (例：側溝内布設時は仮設管先端保護等の状況、埋設の場合は土工状況等) ③ 仮設管距離計測（仮設本管を対象） ・ 必要事項を黒板に記入し、累計延長を表示 ・ 分岐、中間、管末にポールを立てる ・ 延長が見通せない場合は分岐と中間、中間と管末に分けること ・ 仮設給水切替、仮設排水設備は全箇所状況を撮影 ④ 撤去、処分状況
(2) 土留工	・ 使用部材の寸法計測、延長L、深度H、根入長など ・ 腹起し、切梁等の設置状況 ※施工計画書との整合（土留構造図）
4 管路土工	★布設工だけでなく仮設土工、撤去土工も管路土工があれば撮影する
(1) 測点ごとに撮影するもの (原則として 50m 間隔、路線延長 50m 未満は任意の点を設け、必ず 1 か所撮影する。)	① 既設舗装厚計測 t ・ 実測値を表示（切断面で撮影） ② 掘削、積込、床均し状況 ・ 掘削状況、積込状況、床均し状況 ・ 掘削深度H、下幅W 出来形 ③ 埋戻し工 ・ 胴締め状況 ・ 転圧状況（転圧機種を入れる、3回以上転圧） ・ 各層毎の実測値計測 深度H、厚さ t 出来形 ④ 埋設標識シート ・ 埋設標識シートの設置状況 ⑤ 下層路盤工 ・ 転圧状況（転圧機種を入れる） ・ 各層毎の実測値計測 深度H、厚さ t 出来形 ⑥ 舗装仮復旧工 ・ 舗設状況（合材名を表示） ・ 転圧状況（転圧機種を入れる） ・ 実測値計測 余寸下がりH、厚さ t、復旧幅W 出来形 (仮区画線設置後撮影)

名 称	撮 影 内 容 ・ 注 意 点
(2) 抜粋で撮影	舗装切断 ・ 舗装切断状況を撮影
5 管路布設工	
(1) 測点ごとに撮影するもの (原則として 50m 間隔、路線延長 50m 未満は任意の点を設け、必ず 1 か所撮影する。)	① 布設工 ・ 管のつり込み（铸铁管の場合）、据付（全管種）状況 ・ 布設位置計測、官民境界からの距離W、布設深度H 出来形 ② 铸铁管接合工程（全工程） ・ 管の切断、補修状況 ・ 清掃状況 ・ ロックリング、ゴム輪のセット ・ 標線の記入 ・ 滑剤塗布の状況 ・ 管と継手の挿入・固定状況 ・ ゴム輪の確認（薄板ゲージによる確認状況がわかるように接写） ③ 融着接合工程（全工程） ・ 管の切断 ・ 清掃状況 ・ 融着面の切削 ・ 標線の記入 ・ 管と継手の挿入・固定状況 ・ 融着状況（インジケータの隆起が確認できるようにマークし接写）
(2) 全箇所撮影 整理は配管図の流れに沿って行うこと	① 異形管 ・ 継手番号が明確に判るように撮影 ・ 配管詳細図（黒板豆図、継手番号等記入） ② 切管 ・ 切り口の面取り、補修状況、挿口リング取付、P-L ink の取付、G-L ink 設置状況（縦ボルトに色ペイント）、標線記入を撮影。標線寸法を黒板に表示 ・ 切管の延長計測は地上で行い、甲乙寸法が明確に判るように撮影 ・ 3.0m以上の切管計測は、全景で1枚、左右両端各1枚の計3枚撮影 ・ 布設状況には継手番号を表示 ③ 一体化（離脱防止） ・ ライナー挿入状況 ・ 特殊押輪設置状況、（縦ボルトに色ペイント） ・ 継手番号が明確に判るように撮影 ④ 継輪、伸縮継手、異種管継手 ・ 接続状況（使用材料、深度、位置） ・ 継手番号が明確に判るように撮影 ⑤ 上越し、下越し ・ 支障構造物の名称、寸法、深度を標示（豆図） ・ 布設深度、構造物との離隔を計測 ⑥ 異形管防護 ・ 構造図（黒板豆図） ・ 基礎工（状況） 出来形 ・ 型枠設置 ・ コンクリート打設（状況） 出来形 ・ 表示テープ貼り付け状況 ⑦ 指示杭 ・ 巻き立てコンクリート計測 出来形 ・ 指示杭設置状況 ⑧ 既設管閉栓箇所 ・ 閉栓状態が明確に判るように撮影
(3) 既設管撤去	・ 既設管の撤去状況、積込状況 ・ 撤去管は、口径ごとに幅広テープで全数計測 出来形

名 称	撮 影 内 容 ・ 注 意 点
(4) 抜粋で撮影 (①～③は全数のうち1/3程度)	① オフセット ・ 布設位置を現地表示 ② オフセットマーカ ・ 曲点（上下・左右）の起終点 ・ 分岐点（T字管、不断水割T字管） ・ 給水管取出し点 ・ 管末 ・ 道路形状と異なった曲点 ③ 管の切断 ・ 管切断状況 ・ 受口清掃、ゴム挿入、滑剤塗布、接合状況
6 弁栓類	
（配管詳細の流れに沿って整理） ※全箇所	① 仕切弁、消火栓、空気弁据付（ブロック据付図（黒板豆図））、設計値（実測値） ・ 弁栓類据付状況（仕切弁についてはボルト緊結状況、消火栓・空気弁はモルタル攪拌状況や調整ゴマの施工状況、モルタル注入状況など） ・ 弁栓類据付（標尺を入れて各材料寸法がわかるように接写） ・ 基礎碎石（RC-40） 幅W1、W2 厚さ t 出来形 ・ 地表面との離隔（消火栓、空気弁） 離隔H ② 不断水分岐（配管詳細図（黒板豆図、継手番号等記入）） ・ 既設管の状態（名称、口径、深度H） ・ 使用材料（材料名、口径、メーカー名） ・ 取付状況（明確に判るように接写写真にする） ・ 水圧試験（規定水圧で、3分間保持） <u>※耐震型割T字管は2回</u> ・ 穿孔状況、穿孔片確認 ・ 防食コア挿入状況 ・ 管接続状況 ③ 不断水仕切弁（ブロック据付図（黒板豆図）） ・ 既設管の状態（名称、口径、深度H） ・ 使用材料（材料名、口径、メーカー名） ・ 取付状況（明確に判るように接写写真にする） ・ 水圧試験（規定水圧で、3分間保持） ・ 補強材注入状況（ 補強材を注入する場合 ） ・ 穿孔状況、穿孔片確認 ・ 弁体挿入状況 ・ 据付完了 基礎碎石（RC-40） 幅W1、W2 厚さ t 出来形 ・ ブロック、鉄蓋据付 高さH 出来形
7 排水設備	
※全箇所	① 排水設備（配管詳細図（黒板豆図）） ・ 布設延長計測 ・ 排水口の状況（モルタル補修）

名 称	撮 影 内 容 ・ 注 意 点
8 給水切替工	
(1) 給水土工	※各路線別で1箇所程度撮影する。 ① 舗装取り壊し ・ 舗装切断状況 ・ 既設舗装厚計測 t ・ 舗装掘削、積込み状況 ② 床堀 ・ 機械掘削、積込み状況 ・ 人力床堀状況 ・ 掘削深度H、幅W、延長L 出来形 ③ 埋め戻し ・ 転圧状況（転圧機種を入れる） ・ 各層毎の実測値計測 深度H、厚さ t 出来形
(2) 給水切替 ※全箇所	① 給水切替図（（黒板豆図）、各戸別に添付） ② 使用材料 ・ サドル分水栓、メーターボックスなど ③ サドル分水栓取付状況 ・ 既設管深度Hを計測。黒板に給水切替番号、所有者名、サドル口径、本管口径、管種、深度Hを記載 ・ 空穿孔の場合は、切屑排出状況（HPPの場合は切屑排出状況は不要） ④ 水圧試験 ・ 規定水圧で、3分間保持 ⑤ 防食コア挿入状況 ・ 本管が鋳鉄管の場合は、防食コア挿入状況 ・ 本管がHPP、VPの場合は、穿孔状況を撮影 ⑥ 給水取り出し状況 ・ ポリスリーブ被覆後に撮影 ⑦ 布設延長計測 ・ 公道取出しから量水器BOX（第1乙）までの延長L=L1+L2 出来形 ・ 官民境界点をポール等で表示し、延長が読めるようにすること ・ 屋内布設延長（量水器から屋内接続点まで全数） 出来形 ⑧ 標識シート、オフセットマーカ（全数の1／3程度） ・ 現地オフセットで位置を復元 ⑨ 既設サドルのプラグ止め ・ プラグ止めをする場合 ⑩ 量水器BOX据付 ・ 砂敷均し状況 ・ 量水器BOX据付状況 ⑪ 屋内側布設延長計測 出来形 ・ 量水器から屋内接続まで ⑫ 屋内舗装復旧 ・ 屋内復旧の出来形計測 出来形

名 称	撮 影 内 容 ・ 注 意 点
9 舗装本復旧工 (測点50mごと)	
(1) 舗装取壊し	① 舗装断面図（黒板豆図） ・ 影響巾、残巾を表示 ② 舗装切断 ・ 舗装切断状況を撮影 ③ 舗装厚計測 ・ 実測値を表示 厚さ t ④ 掘削、積込 ・ 掘削状況、積込状況（使用機種がわかるように） ⑤ 段切出来形（段切りを行う場合） 出来形 ・ 幅 W 、厚さ t
(2) 舗設	※出来形測定は余寸を使用すること ① 不陸整正 ・ 不陸整正状況 ・ 不陸整正出来形測定 高さ H 出来形 ② 乳剤散布（プライムコート、タックコート） ・ 散布状況、飛散防止措置 ・ 切断面の乳剤塗布 ・ 乳剤散布量管理 ・ 散布完了後の状況 ③ 舗設 ・ 舗設状況（機種が判別できること） ・ 段差擦り付け状況 ・ 舗設温度計測 ・ 転圧状況（機種が判別できること） ・ 舗装厚出来形測定 高さ H 、厚さ t 出来形 ④ 舗装コアー ・ コアー抜き取り状況 ・ 抜き取り厚計測 厚さ t 出来形 ⑤ 区画線 ・ プライマー塗布状況 ・ 区画線設置後の状況 ・ テストピースの採取状況
安全管理写真	
(1) 工事案内看板 保安設備	・ 工事予告看板、工事中看板、標識等 （建設業許可標識、労災保険成立票、建退共適用標識、施工体系図、建設リサイクル法通知、大気汚染防止法等）の設置状況と記載内容が判読できるように ・ 交通誘導警備員の配置状況は、施工箇所及び保安形態毎に各1回 ※道路占用許可申請書とおりの設置がわかるように撮影すること
(2) 安全訓練等	・ 施工計画書に記載している安全管理項目の状況を撮影するが、工事写真の提出は不要（業者が保管すればよい）

名 称	撮 影 内 容 ・ 注 意 点
使用材料写真	
(1) 使用材料	・ 主要材料を納入する毎に実施。材料名及びメーカー名を黒板に表示 ・ 局立会者、立会日を黒板に明記 ・ 余寸材に使用するH鋼等の寸法を計測
(2) 資材置場	・ 使用前の全景 ・ 使用後の全景 ・ 使用中の状況 ※同一方向から撮影
品質管理写真	
監督員立会 各種試験など	① 中間検査 ・ 継手検査は、管種、口径、継手番号を黒板に表示 ・ 工事完成後に出来形が確認できない箇所を実施 ・ 局立会者、立会日を黒板に明記 ② 水質検査 ・ 管布設後の洗管時及び仮設管布設後の洗管時 ・ 局立会者、立会日、水質検査結果を黒板に明記 ③ 各種品質試験 ・ 締固め試験（現場密度の測定）など ・ 局立会者、立会日、試験結果を黒板に明記
出来形管理写真	
	施工状況写真における 1～10 の 出来形 を工種毎に整理すること
その他	
(1) 産業廃棄物処理	・ 搬入先の名称看板を入れて運搬状況を撮影 ・ 産業廃棄物処分業の許可看板（文字が読めるように） ・ 車体外面の運搬車両表示を撮影 ・ 運搬車両が荷を降ろしている状況 ・ 産業廃棄物を一時保管する場合は保管等の状況 ・ 既設撤去管の処理状況（処分場での荷降ろし状況、処分場許可看板） ・ 仮設 PEP 管の処理状況（ " 、 " ） ・ 舗装切断に伴う濁水の処理状況
(2) 残土処理	・ 搬入先の名称看板を入れて運搬状況を撮影 （土質改良プラント名の看板又は処理地の許可看板） ・ 運搬車両が荷を降ろしている状況
(3) 社内検査	・ 書類及び現場状況を撮影
(4) 現場環境改善費 環境対策 など	・ 実施状況を撮影

2 電子納品における写真分類ツリーについて、施工状況及び出来形管理等が確認しやすいように作成すること。（現場必携 P3-6）

＜参考：工事写真の分類と整理方法＞

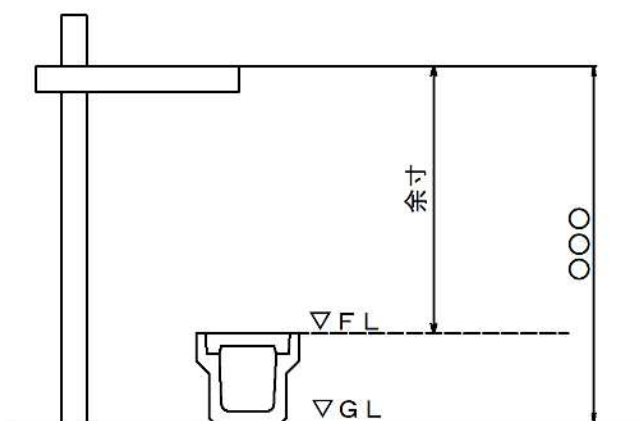
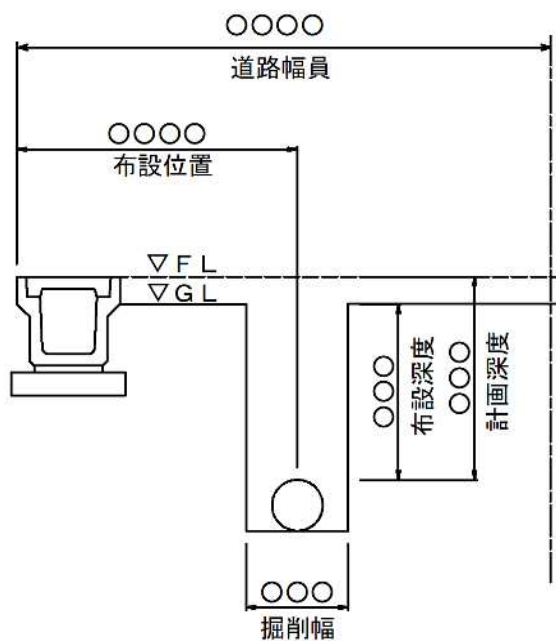
大分類 (レベル1)	区分 (レベル2)	工種 (レベル3)	種別 (レベル4)	細別 (レベル5)
工事	着手前及び完成	A 路線 B 路線 C 路線	着手前・完了	
		試掘、現況 仮設（任意、指定）		
	施工状況写真	土留工	φ 75 mm A 路線	NO, 0 NO, 15
		管路土工	φ 75 mm A 路線	NO, 0 NO, 15
		管布設工	φ 75 mm A 路線	NO, 0 NO, 15
		既設管撤去工 仮設配管工 舗装仮復旧 舗装本復旧	φ 75 mm A 路線	NO, 0 NO, 15
		仕切弁 消火栓	φ 75 mm A 路線	NO, 0 NO, 15+25m
		給水切替工 排水設備	φ 75 mm A 路線	NO, 0 NO, 15
		段階確認（施工状況）		
	安全管理写真	工事案内看板等 保安設備 交通誘導員整理状況 安全訓練等の実施状況		
	使用材料写真	布設材料、仮設材料 材料検収、資材置場	HPP, GX	
	品質管理写真	現場密度試験 舗装コア 平坦性試験 水質検査、中間検査	φ 75 mm A 路線	NO, 0 NO, 15
	出来形管理写真	管路土工、 管布設工 仕切弁 消火栓 舗装本復旧工	φ 75 mm A 路線	NO, 0 NO, 15
		段階確認（出来形管理）		
	その他	産業廃棄物処理 残土処理	As 殻、建設汚泥 残土	
		社内検査 環境対策 現場環境改善費 等		

※ レベル1及びレベル2のタイトルについては、固定されているため編集しないでください。（電子納品ソフトにより異なりますが、編集するとエラー表示になりますのでご注意ください。）

※ レベル3以降で具体的に工種ごと、路線別に分けてわかりやすく整理すること。

9-4-6 その他

- 1 測点の設定は、第3章3-1-4に基づく。
- 2 計測数値は、必ず黒板にその数値を記入すること。また、必要に応じ設計値と対比すること。
- 3 計測写真は、計測テープの読み数値及び起終点が判読できるよう撮影すること。
- 4 黒板は、なるべく手前に置き、記載内容をはっきりと撮影すること。
- 5 斜光の時は、掘削溝の中が黒くならないようにすること。
- 6 特殊押輪、異種管継手、伸縮継手、ライナ、G・P-Link、管端補修状況は全数撮影すること。
- 7 道路横断面図（例）を次に示す。



第5節 工程管理（現場必携 P3-1）

9-5-1 一般事項

- 1 工程管理として、工程管理表及び工事記録を作成する。
- 2 完成時には、実施工程表（実績）は、工事記録に添付する。

9-5-2 作成要領（工程管理表）

- 1 施工計画時に作成した工程管理表の計画に基づき、工事の進捗管理を行う。進捗率、凡例を記入し、計画と実績が容易に対比できるよう作成すること。（例：青・・・予定、赤・・・実績、緑・・・変更予定）
- 2 前月までの履行状況を、毎月5日までに、実施工程表（実績）により監督員に提出しなければならない。なお、提出は工事着手の月分の報告から工事完成月の前月末分までとし、1-1-52 現場責任者については、履行報告の適用除外とする。（第1章 1-1-29）
- 3 施工計画書提出後でも現場を進めていく中で、工期の1/3以降で-20%以上の差異が生じた場合は、変更実施工程表を提出する。工期、工種の変更・追加時にも工程表の見直しを行うこと。

9-5-3 作成要領（工事記録） ※令和5年4月1日以降契約の工事からは提示

- 1 当日の作業内容を日報等の型式で記録する。（様式は任意）
- 2 週休2日制工事の場合は、週休日等の確認資料としてカレンダー形式の工事記録を作成する。カレンダー形式の工事記録の記載要領は、「豊田市上下水道局週休2日制工事実施要領」を参照する。

第6節 出来形管理（現場必携 P3-2）

9-6-1 一般事項

- 1 出来形管理として必要となる書類は、出来形成果総括表、出来形管理表（継手管理表を含む）、出来形図の他、出来形管理基準により定められた項目についての書類作成等を行う。
- 2 出来形管理は、愛知県建設局「土木工事施工管理基準」及び本仕様書と整合させ、管理項目に不足が無いようにする。
- 3 施工箇所が点在する工事については、監督員との協議により測定（試験）基準を設定する。
- 4 愛知県建設局「土木工事施工管理基準」及び本仕様書に定めのない場合は、監督員との協議により規格値を設定する。

9-6-2 作成要領

- 1 出来形成果総括表は、具体的な工種及び数値を記入し、**規格値のあるものは必ず規格値を記入**すること（仮設管、撤去管、撤去構造物等、設計図書において〇〇工一式となっている場合でも、必ず具体的な数値で記載すること）。
- 2 出来形成果総括表の数量が他の出来形管理資料等から容易に確認ができない場合は、**数量計算書等の資料を添付**すること。（管延長の集計表、舗装面積計算書など）
- 3 出来形管理表は、出来形管理基準に基づき施工計画書に記載した項目について管理するものである。
- 4 継手管理は、第7節のとおりとする。
- 5 出来形図は、第8節のとおりとする。

9-6-3 数値基準

- 1 **設計図における布設延長は、平面図は小数第1位、配管詳細図は小数第2位表示**とする。ただし、切管寸法は5cm単位（小数第2位を二捨三入）とする。
- 2 **設計書における布設延長は、小数第1位表示**とする。
- 3 出来形管理は、設計数値と出来形数値（実測数値）との比較を表すものである。配管延長の場合、出来形数値には接続部分のすきまが含まれる。
- 4 材料、布設及び出来形管理の数値基準並びに数量計算過程の数値基準を次表に示す。

数値基準（設計書（本工事費内訳書）に表示する単位）

工 種	種 別	細 別	設計書 表示単位	数値	備 考
一 般	工事延長	設計書	m	0.1	
	管布設延長	設計書、配管平面図	m	0.1	
	配管詳細延長	配管詳細図	m	0.01	
土 工	掘削	管路掘削・積込（土砂）	m3	100	ただし、1000m3未満は10m3、 100m3未満は1m3
		管路掘削・積込（岩）	m3	10	ただし、100m3未満は1m3
	残土処理工	残土運搬	m3	10	ただし、100m3未満は1m3
		発生土受入	m3	10	
		残土等処分（自由処分）	m3	10	
		整地	m3	100	ただし、1000m3未満は10m3、 100m3未満は1m3
	埋戻し材	管保護用（砂）	m3	100	ただし、1000m3未満は10m3、 100m3未満は1m3
		路体・路床（良質土・改良土）			
	埋戻し	管路埋戻し（良質土・改良土）	m3	100	ただし、1000m3未満は10m3、 100m3未満は1m3
		管路埋戻し（RC）			
	路盤工	下層路盤工	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		上層路盤工			
	仮舗装工	AS舗装仮復旧	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
舗装工	舗装準備工	不陸整正工	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
	舗装工	下層路盤（車道・路肩部）	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		下層路盤（歩道部）			
		上層路盤（車道・路肩部）	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		上層路盤（歩道部）			
		路盤	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		フィルター層	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		基層（車道・路肩部）	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		基層（歩道部）			
		中間層（車道・路肩部）	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		中間層（歩道部）			
		表層（車道・路肩部）	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		表層（歩道部）			
		排水性舗装・表層（車道・路肩部）	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		透水性舗装（歩道部）	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		コンクリート舗装	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		薄層カラー舗装	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		インターロッキングブロック舗装	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
		特殊ブロック舗装	m2	10	ただし、1000m2未満は1m2
	区画線工	区画線設置	m	10	ただし、100m未満は1m
		区画線消去	m	1	ただし、1m未満は0.1m
		ミストグリップ（みどり）	m	1	ただし、1m未満は0.1m
		ミストグリップ（ベンガラ）	m2	1	ただし、1m2未満は0.1m2
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	m3	1	ただし、1m3未満は0.1m3
		舗装版切断（AS・CO）	m	10	ただし、100m未満は1m
		舗装版破砕（AS・CO）	m2	10	ただし、100m2未満は1m2
		コンクリートはつり	m3	10	ただし、100m3未満は1m3
		覆工板設置・撤去	m2	10	ただし、100m2未満は1m2
	構造物撤去工	殻運搬（AS・CO）	m3	1	ただし、1 m3未満は0.1m3
		殻処分（AS・CO）	m3	1	ただし、1 m3未満は0.1m3
		現場発生品運搬	回	1	
		カッター排水運搬（AS・CO）	回	1	
		カッター排水処分（AS・CO）	t	0.1	ただし、0.1 t 未満は0.01 t
		スクラップ運搬 （鋼材、撤去管、残管）	回	1	
		スクラップ処分 （鋼材、撤去管、残管）	t	0.1	ただし、0.1 t 未満は0.01 t

数値基準（設計書（本工事費内訳書）に表示する単位）

工 種	種 別	細 別	設計書 表示単位	数値	備 考
構造物撤去工	構造物撤去工	廃ブラ運搬	回	1	
		廃ブラ処分	t	0.1	ただし、0.1 t 未満は0.01 t
		その他産廃運搬	回	1	
		その他産廃処分	t	0.1	ただし、0.1 t 未満は0.01 t
土留工	矢板たて込み・引き抜き	アルミ矢板たて込み	m	0.1	
		アルミ矢板引き抜き	m	0.1	
	支保工設置・撤去	軽量金属支保工設置	m	0.1	
		軽量金属支保工撤去	m	0.1	
	矢板賃料	アルミ矢板 基本料	枚	1	
		アルミ矢板 賃料	枚・日	1	
		腹起し材 基本料	枚	1	
		腹起し材 賃料	枚・日	1	
		切梁 基本料	枚	1	
		切梁 賃料	枚・日	1	
		水圧ポンプ 基本料	枚	1	
		水圧ポンプ 賃料	枚・日	1	
コンクリート 構造物	基礎材		m ²	10	ただし、100m ² 未満は1m ²
	均しコンクリート		m ²	10	ただし、100m ² 未満は1m ²
	コンクリート		m ³	1	
	型枠		m ²	10	ただし、100m ² 未満は1m ²
	鉄筋		t	0.01	
	足場		掛m ²	10	ただし、100m ² 未満は1m ²
鋳鉄管布設工	吊込み据付		m	0.1	メカニカル継手他
	継手接合		口	1	
	伸縮可とう管設置		基	1	
	継手挿入加工		口	1	N S形他
	水圧試験		口	1	
	ポリエチレンスリーブ被覆		m	0.1	
	不断水連絡		箇所	1	
	管明示テープ・シート		m	0.1	
鋼管布設工	小口径管据付		m	0.1	
	小口径管切断・ねじ切り ・ねじ込み接合		口	1	
	吊込み据付（機械力・人力）		m	1	
	電気溶接		箇所	1	
	外面塗装		箇所	1	ターミナル、ジョイント
	内面塗装（管円周部）		口	1	
	内面塗装（管軸方向部）		m ²	1	
	X線検査		枚	1	
	超音波検査		箇所	1	
	防凍工		m	0.1	
硬質塩化ビニル管 布設工	硬質塩化ビニル管布設据付工		m	0.1	
	硬質塩化ビニル管布設継手工		口	1	T S継手、R R継手
	硬質塩化ビニル管用 鋳鉄異形管被覆		箇所	1	
	管明示テープ		m	0.1	
ポリ塩化ビニル管 布設工	ポリ塩化ビニル管布設据付工		m	0.1	ポリ塩化ビニル管（融着接合）含む
	ポリ塩化ビニル管布設継手工		口	1	メカニカル継手含む
	ポリ塩化ビニル管布設（融着接合） 継手工		箇所	1	
	管明示テープ		m	0.1	
遠心力鉄筋 コンクリート管布設工	吊込み据付		m	0.1	
	カラー継手・ソケット継手		口	1	
管切断工	鋳鉄管切断		口	1	
	鋳鉄管切断・溝切り加工		口	1	

数値基準（設計書（本工事費内訳書）に表示する単位）

工 種	種 別	細 別	設計書 表示単位	数値	備 考
管切断工	鋼管切断		□	1	
	ステンレス鋼管切断		□	1	
	硬質塩化ビニル管切断		□	1	
	ポリethylene管切断		□	1	
弁類及び 消火栓設置工	仕切弁・バクワイザ設置		基	1	合成樹脂製弁含む
	空気弁及び空気弁座設置		基	1	
	消火栓設置		箇所	1	
	緊急遮断弁設置		基	1	
	仕切弁・空気弁バクワイザ設置		個	1	
既設管撤去工	既設管撤去切断		□	1	铸铁管、鋼管、硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管の切断歩掛を補正
	铸铁管継手取外し		□	1	各铸铁管継手歩掛を補正
	石棉管継手取外し		□	1	
	撤去管吊上げ積込み		m	0.1	铸铁管、鋼管、硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管の吊込み据付歩掛を補正
	石棉管吊上げ積込み		m	0.1	
鋼製貯水槽 設置工	本体設置		m	0.1	
	固定材設置		基	1	
	貯水槽溶接		箇所	1	
	X線検査		枚	1	
	付帯設備		式	1	
ダクタイル铸铁製 貯水槽設置工	本体設置		m	0.1	
	付帯設備		式	1	
シールド工	トレンチ整備並びに配管準備		m	0.1	トレンチ（A方式）二次覆工
	トレンチ内配管（铸铁管・鋼管）		m	0.1	トレンチ（A方式）二次覆工
	立坑内配管（铸铁管・鋼管）		m	0.1	トレンチ（A方式）二次覆工
	コンクリート充填工		m	0.1	トレンチ（A方式）二次覆工
通水試験工	通水試験		日	0.01	1日当たり試験距離で補正
さく井工	パーカッション工		式	1	
	ロータリー工		式	1	
既設管内配管工	既設管内清掃		m	0.1	
	ダクタイル铸铁管据付		m	0.1	
	ダクタイル铸铁管接合		箇所	1	PⅡ形、PN形
	ダクタイル铸铁管挿入		m	0.1	
	ダクタイル铸铁管挿入設備設置撤去		箇所	1	
	鋼管引込		m	0.1	
	巻込鋼管拡管		m	0.1	
	鋼管据付		m	0.1	
	鋼管溶接工		箇所	1	電気溶接歩掛表（裏当溶接）参照
	鋼管内面塗装工（円周部）		□	1	内外面塗装歩掛表 参照
	鋼管内面塗装工（管軸方向）		m2	1	内外面塗装歩掛表 参照
	鋼管引込設備		箇所	1	
	換気設備設置撤去		設備	1	
	間隙充填工		m3	1	但し10m未満は0.1m
	ダクタイル铸铁管水圧試験		□	1	水圧試験歩掛表 参照
	鋼管超音波探傷検査		箇所	1	超音波検査歩掛表 参照
	既設管内調査		m	0.1	テレビカメラ調査・模擬管調査、管内測量調査
附帯工	交通誘導工		人	1	1.0未満でも1.0人とする。
共通仮設費	仮設材運搬		t	0.1	

数量計算過程の数値（数量計算書・図面表示単位）

工種	種 別	細 別	表示 単位	数値	計算過程の数値（四捨五入）	備考
数量 計算書	管布設延長	設計書概要	m	0.1	配管平面図の路線ごとの延長を集計	
		配管平面図	m	0.1	小数点以下1位止め（路線ごと）	
	配管詳細延長	配管詳細図	m	0.01	小数点以下第3位を2捨3入し、2位止め（5cm単位）	
	土量計算	幅	m	0.01	小数点以下2位止め	
		高さ	m	0.01	小数点以下2位止め	
		断面積	m ²	0.1	小数点以下1位止め	
		平均断面積	m ²	0.01	小数点以下2位止め	
		距離	m	0.1	小数点以下1位止め	
	搬出土量集計（残土）	伝票集計	t	0.01	伝票kg表示の場合、t換算して小数点以下2位止め	
		換算値	m ³	0.1	単位体積重量（1.68 t/m ³ ）で除して、小数点以下1位止め	
	搬入土量集計（改良土）	伝票集計	t	0.01	伝票kg表示の場合、t換算して小数点以下2位止め	
		換算値	m ³	0.1	単位体積重量（1.55 t/m ³ ）で除して、小数点1位止め	
	仮舗装面積計算書	幅	m	0.01	小数点以下2位止め	
		距離	m	0.1	小数点以下1位止め	
		面積	m ²	0.1	小数点以下1位止め	
	本舗装面積計算書	幅	m	0.1	小数点以下1位止め	
		距離	m	0.1	小数点以下1位止め	
		面積	m ²	0.1	小数点以下1位止め	
	産業廃棄物処理	A Sガラ 伝票集計	t	0.01	伝票kg表示の場合、t換算して小数点以下2位止め	
		A Sガラ 換算値	m ³	0.1	単位体積重量（2.35 t/m ³ ）で除して、小数点以下1位止め	
		C Oガラ 伝票集計	t	0.01	伝票kg表示の場合、t換算して小数点以下2位止め	
		C Oガラ 換算値	m ³	0.1	単位体積重量（2.35～2.40 t/m ³ ）で除して、小数点以下1位止め	
		廃ブラ 伝票集計	t	0.01	伝票kg表示の場合、t換算して小数点以下2位止め	
		廃ブラ 換算値	m ³	0.1	単位体積重量（0.35 t/m ³ ）で除して、小数点以下1位止め	
		その他 伝票集計	t	0.01	伝票kg表示の場合、t換算して小数点以下2位止め	
		その他 換算値	m ³	0.1	単位体積重量（○、○○ t/m ³ ）で除して、小数点以下1位止め	
	コンクリート体積	幅	m	0.01	小数点以下2位止め	
		高さ	m	0.01	小数点以下2位止め	
		長さ	m	0.01	小数点以下2位止め	
		体積	m ³	0.1	小数点以下1位止め	
	型枠	幅	m	0.01	小数点以下2位止め	
		高さ	m	0.01	小数点以下2位止め	
		長さ	m	0.01	小数点以下2位止め	
		面積	m ²	0.1	小数点以下1位止め	
	鋼材（鉄筋含む） 重量計算	幅	m	0.001	小数点以下3位止め	
		高さ	m	0.001	小数点以下3位止め	
		長さ	m	0.001	小数点以下3位止め	
		径	mm	1	整数位止め	
		単位重量	kg/m	0.01	小数点以下2位止め	

数量計算過程の数値（数量計算書・図面表示単位）

工種	種 別	細 別	表示 単位	数値	計算過程の数値（四捨五入）	備考
図面	配管平面図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	縦断図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	横断図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	掘削標準図		mm	1	整数位止め	
	配管詳細図		m	0.01	小数点以下2位止め	
	仮配管平面図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	仮舗装展開図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	本舗装展開図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	側面図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	構造図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	オフセット図	構造物までの距離	m	0.1	小数点以下1位止め	
	給水切替平面図		m	0.1	小数点以下1位止め	
	給水切替台帳	管及び水栓の口径	mm	1	整数位止め	
		管の延長、道路幅員等	m	0.1	小数点以下1位止め	

（水道事業実務必携等より）

9-6-4 出来形管理基準

出来形管理基準

	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所
管 路 土 工	管路掘削	掘削深度 H	± 3 0	施工延長 5 0 m に つき 1 か所、路線延 長 5 0 m 未満は任 意の点 1 か所	本管、仮設、撤去など
	(※施-P108 下水道 管路掘削準用)	幅 W	- 5 0		
	管路埋戻 ・管上 1 0 cm ・路床 (※施-P108 下水道 管路埋戻準用)	深度 H	± 3 0	施工延長 5 0 m に つき 1 か所、路線延 長 5 0 m 未満は任 意の点 1 か所	本管、仮設、撤去など
		厚さ t	- 3 0		
一 般 舗 装 工	下層路盤工 (※施-P22)	基 準 高 ▽ 小規模以下	± 5 0	施工延長 5 0 m に つき 1 か所、路線延 長 5 0 m 未満は任 意の点 1 か所	中規模とは、1 層あたりの 施工面積 2, 000m ² 以上。 小規模とは、表層及び基層 の加熱アスファルト混合物の総 使用量が 500 t 未満あるい は施工面積が 2, 000m ² 未 満。
		基 準 高 ▽ 中規模以上	± 4 0		
		厚 さ	- 4 5		
		// X10	- 1 5		
		幅	- 5 0		
基 礎 工	砕石基礎工 (※施-P16)	幅 W	設計値以上	施工延長 5 0 m に つき 1 か所、路線延 長 5 0 m 未満は任 意の点 1 か所	
		厚さ t	- 3 0		
		延長 L	- 5 0		
弁 栓 類 据 付 工	仕切弁設置工 排水設備工 消火栓設置工 空気弁設置工 (※日水協仕 P144、 施-P114 組立マンホール 基礎工準用)	蓋 高 ▽	段 差 が な い こと	1 か所毎	不断水仕切弁も管理する
		砕石基礎幅 W 1、W 2	- 5 0		
		砕石基礎厚 t	- 3 0		
防 護 工	コンクリート 防護工	幅 W	- 3 0	1 か所毎	
		厚さ t	- 3 0		
		延長 L	- 5 0		
構 造 物 工	構造物工 (人孔弁室等) (※施-P40 集水枡工準用)	基 準 高 ▽	± 3 0	1 か所毎	
		厚さ t	- 2 0		
		幅 W	- 3 0		
		高さ H	- 3 0		
施 設 工	配水池、 沈殿池、 調整池 スラジピット	基 準 高 ▽	± 2 0	漏水テスト 満水にして 2 4 時 間静置後検査	
		厚さ t	± 1 0		
		幅 (内法) L	+ 3 0 - 2 0		
		高さ h	+ 3 0 - 2 0		
		長さ L	+ 3 0 - 2 0		
		漏水 テスト	無 蓋		
			有 蓋		

※ 施 P〇〇 … 愛知県建設局 土木工事施工管理基準 P〇〇

出 来 形 管 理 基 準

	工 種	測定項目		規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所
施 設 工	ポンプ井、 急速濾過池、 シクナー等	基 準 高 ∇		± 20		
		厚 さ t		± 10		
		幅（内法） a		± 20		
		高 さ h		± 20		
		長 さ L		± 20		
管 布 設 工	管布設工	延長 L		-200	施工延長50mにつ き1か所、路線延長5 0m未満は任意の点 1か所	
	（※施-P108 圧送管準用）	布設深度 H （土被り）		± 30		
	鋼管接合	管 扁 平	内モルタル	$\pm 3\%$	管扁平は $\phi 700$ 以上 全数測定	
			内エポ	$\pm 5\%$		
	塗装厚	塗 装	内エポ	設計値以上	塗装は接合箇所全数 工場塗装抜取	
			外エポ			
			外アスビニ			
	塗装絶縁	塗 装	内エポ 0.3	1,500V	規格電圧で放電しな いこと	
			外エポ 0.5	2,500V		
			外アスビニ5外 ジョイントコート	10,000V ～ 12,000V		
		塗 装	塗膜抵抗値外面 プラスチック	10,000 Ω ・m ² 以上	沈下測定は $\phi 700$ 以上全数測定	
			塗膜付着（エポ）	196N/cm ²		
			伸縮管沈下（一般）	20% $\geq$		
			伸縮管沈下（軟弱）	30% $\geq$		
	鋳鉄管接合		締付トルク	J D P A 接合 要領書による	接合箇所全数	
			標線受口間隔			
			押輪受口間隔			
			ゴム輪の状態			
	ゴム輪形接合 （RR）		標線受口間隔	標線内	接合箇所全数	
			ゴム輪の位置	良好		
	水管橋	板 厚	主要鋼管	$-5\% \leq$	J I S G 3 1 9 3 による 端部は $\pm D/200$	
			補鋼部材	JIS		
		主部材長		± 10		
		外口径		$\pm D/100$		
		外 周 長	～500	± 5		
			600 ～900	± 6		
			1,000～1,500	± 7		
			1,600～	± 8		

※ 施 P〇〇 … 愛知県建設局 土木工事施工管理基準 P〇〇

出来形管理基準

※ 施 P〇〇 … 愛知県建設局 土木工事標準仕様書 施工管理基準 P〇〇

この出来形管理基準にない項目については、愛知県建設局 土木工事施工管理基準を参照のこと。

第7節 出来形管理（水道管継手管理表）

9-7-1 一般事項

- 1 工事名、測定者名等を記入する。
- 2 受口面のゴム輪間隔、標線受口間隔等を確認する。
- 3 ゴム輪及びリングの状態、締付けトルクを確認する。

9-7-2 作成要領

- 1 水道管継手管理表は、第10章の様式を使用し、配管詳細図（寸法線は不要）に継手番号を記載したものを添付する。
- 2 接合毎に記録すること。
- 3 監督員が指示した時、及び随時要請があった場合に備えて日頃から整理しておくこと。

第8節 出来形管理（出来形成果表及び出来形図）（現場必携 P3-2）

9-8-1 一般事項

- 1 出来形図は、設計図面に設計値と対比し出来形を朱書きすることを原則とする。
- 2 必ず総括表を作成すること。
- 3 出来形図に設計値と実測値との差及び規格値を明記し管理された測定項目については、測定結果一覧表の作成を省略することができる。

9-8-2 作成要領

- 1 変更設計図により作成することを基本とするが、出来形の確認がしやすい図面とすること。
- 2 実測値は、起終点部を除き地上構造物間（仕切弁、消火栓等）を計測し、詳細図に赤書きする。
- 3 地上構造物間が50m以上の場合は、往復計測しその平均値を表示する。
- 4 工事写真、出来形管理、品質管理の位置関係を明確にするため、設定した測点を出来形図（平面図、配管詳細図など）に記載すること。

9-8-3 出来形管理測定結果一覧表

- 1 出来形管理基準に基づき、各工種における出来形管理測定結果一覧表を作成する。
- 2 特に定めのない工種の出来形管理については、監督員と協議の上、決定すること。

第9節 品質管理（現場必携 P3-4）

9-9-1 一般事項

- 1 品質管理は、品質管理基準に基づき施工計画書に記載した項目について管理するものである。
- 2 提出書類（品質管理）は、目次（インデックス）等をつけてわかりやすく整理すること。

9-9-2 作成要領

- 1 品質管理基準に定める項目のうち、材料に関する項目については、材料資料提出時に必要な書類を添付すること。
- 2 品質管理基準に定める項目のうち、施工時の管理項目については、試験頻度等を確認の上施工計画書に記載し、実施すること。

9-9-3 品質管理基準

愛知県建設局監修の「土木工事施工管理基準」を準拠すること。

第10節 監督員確認及び立会等
9-10-1 段階確認一覧表（仕P1-16）

段階確認一覧表

一般：一般監督

重点：重点監督

種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の程度
土工 （掘削工）		土（岩）質の変化した時	土（岩）質、 変化位置	一般：1回/土（岩）質の変化時 重点：1回/土（岩）質の変化時
開削工	管布設工	完了時	施工状況の適否	一般：1回/布設口径 重点：1回/布設延長100m
舗装工	路盤、基層、 表層	各層毎の完了時	基準高さ、幅、厚さ 支持力	一般：1回/1工事 重点：1回/3,000㎡
鉄筋工	構造用鉄筋	鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書 との対比、スパーサ ーの個数	一般：20%程度/1構造物 重点：50%程度/1構造物
コンクリート工	構造用普通 コンクリート	施工時	塩化物量、スランプ、 空気量、圧縮試験	一般：1回/1日又は 1回/150m ³ （種別ごと） 重点：1回/1日又は 1回/150m ³ （種別ごと）
防水工		完了時	厚さ、接着引張試験、 漏水	一般：1回/1工事 重点：2回/1工事
外壁改修工 （床・屋根 スラブを含 む）	アンカーピン ニング及びエ ポキシ樹脂注 入工法	施工時、完了時	アンカーピン本数、エ ポキシ樹脂の注入 量、出来形管理図と の照合	一般：1回/1工事（施工時） 重点：2回/1工事（施工時） 全箇所（完了時）
	ひび割れ補修	施工時、完了時	補修範囲、出来形管 理図との照合	一般：1回/1工事（施工時） 重点：2回/1工事（施工時） 全箇所（完了時）
塗装工	現場塗装	ケレン完了後、 各層各塗り後	施工状況の適否、塗 膜厚、使用材料及び 使用量	一般：1回/1工事 重点：1回/1ロット
電気通信 設備工	電気通信設備 機器製作工	工場製作完了時	品質、外観、構造、計 上寸法、機能試験	一般：1回/1工事 重点：1回/1工事
		現場据付完了時	外観、据付状況、機 能試験	一般：1回/1箇所 重点：1回/1箇所
機械設備工	施設機械 製作工 大口徑ポンプ 製作工	工場製作完了時	品質、外観、構造、計 上寸法、機能試験	一般：1回/1工事 重点：1回/1工事
		現場据付完了時	外観、据付状況、機 能試験	一般：1回/1箇所 重点：1回/1箇所
路面切削工		完了時	施工状況の適否、 幅、厚さ	一般：1回/1工事 重点：1回/3,000m ²
推進工		完了時	施工状況の適否	一般：1回/スパンごと 重点：一般に同じ

- 1 表中の「確認の程度」は、確認頻度の目標であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況を勘案の上設定することとし、重点監督は、1回/週以上の頻度で実施すること。

一般監督：重点監督以外の工事

重点監督：低入札工事又は主たる工種に「NETIS」等の新技術・工法等を採用した工事

- 2 ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は、施工単位（目地）毎とする。
- 3 表中に該当しない種別は、施工計画書及び標準仕様書（愛知県建設局）等を参考に、項目を設定する。
- 4 工事段階確認を実施した場合には、監督員記録及び工事記録への記載を行って下さい。

9-10-2 施工状況把握一覧表（仕 P1-20）

施工状況把握一覧表 一般：一般監督 重点：重点監督

種 別	細 別	施工時期	把握項目	把握の程度
開削工		施工時	使用材料 敷均し・締固め状況	一般：1 回/布設口径 重点：1 回/布設延長 100m
鉄蓋設置工	消火栓 ・空気弁	施工時	調整駒設置状況 無収縮モルタル注入状況	一般：1 回/1 工事 重点：1 回/1 工事
舗装工	路盤、基層、 表層	舗設時	使用材料、 敷均し・締固め状況 天候、気温、舗設温度	一般：1 工事 重点：1 回/3,000 m ²
コンクリート工	構造用普通 コンクリート	打設時	品質規格、運搬時間 打設順序、天候、気温	一般：1 回/1 構造物 重点：1 回/1 ロット
防水工		施工時	使用材料、施工計画 との照合	一般：1 回/1 工事 重点：2 回/1 工事
外壁改修工 （床・屋根ス ラブを含む）	アンカーピン ニング及びエ ポキシ樹脂注 入工法	施工時	施工計画との照合	一般：1 回/1 工事（施工時） 重点：2 回/1 工事（施工時）
	ひび割れ補修	施工時	施工計画との照合	一般：1 回/1 工事（施工時） 重点：2 回/1 工事（施工時）
塗装工	現場塗装	清掃 ・錆落とし施工時	清掃・錆落とし状況	一般：1 回/1 工事 重点：1 回/1 工事
		塗装施工時	使用材料、天候、気温	一般：1 回/1 工事 重点：1 回/1 工事
推進工		施工時	施工状況、推進力	一般：1 回/100m ごと又は 1 スパン 2 回 重点：1 回/50m ごと又は 1 スパン 3 回
		裏込注入時	施工状況、 薬剤使用量	一般：1 回/スパン 重点：2 回/スパン

- 1 表中の「把握の程度」は、把握頻度の目標であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況を勘案の上設定することとし、重点監督は、1 回/週以上の頻度で実施すること。

一般監督：重点監督以外の工事

重点監督：低入札工事、主たる工種に「NETIS」等の新技術・工法等を採用した工事

- 2 ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は、施工単位（目地）毎とする。
- 3 表中に該当しない種別は、施工計画書及び標準仕様書（愛知県建設局）等を参考に、項目を設定する。
- 4 施工状況把握を実施した場合には、監督員記録及び工事記録への記載を行って下さい。

第 1 0 章

様 式、資 料

現 場 代 理 人 ・ 主 任 （ 監 理 ） 技 術 者 届

年 月 日

豊田市事業管理者 様

契 約 者 住 所

商号又は
名 称
代表者名

工 事 名 （ 路 線 名 含 ）		
工 事 場 所		
契 約 締 結 日 年 月 日		
契 約 金 額 金 円		
現場代理人 (現場責任者)	住 所	氏 名
主任技術者 (監理技術者)	住 所	氏 名

(添付書類) 経歴書、経歴書には必要な資格を証する合格証明書等の写し及び健康保険証等、直接的かつ恒常的な雇用関係の確認できる書類の写しを添付

下請負の予定額が4000万円以上（建築工事の場合は6000万円以上）となる予定で監理技術者を必要とする工事、あるいは入札時の広告文で監理技術者を専任で配置するとされた工事（下請負の金額にかかわらず監理技術者を配置する必要あり）は、（監理）に代えて主任を二重線で削除する。

現場代理人・主任~~（監理）~~技術者届

令和〇年 〇月〇〇日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所 豊田市〇〇町〇丁目〇〇番地

商号又は 〇〇管工株式会社

名 称

代表者名 代表取締役 〇〇 〇〇

工事名（路線名含）		水道管整備工事
工 事 場 所		市道〇〇線ほか
契 約 締 結 日		令和 〇 年 〇 月 〇〇 日
金		5,500,000円
現場代理人 （現場責任者）	住 所	〇〇市〇〇町〇丁目〇番
主任技術者 （監理技術者）	住 所	〇〇市〇〇町〇丁目〇番地
	氏 名	〇〇 〇〇

当初契約金額が500万円未満の建設工事の場合、現場責任者を配置するため、（現場責任者）に代えて現場代理人を二重線で削除する。

工場制作のある工事で、工場制作時と現場施工時で現場代理人・主任技術者をそれぞれ選任する場合は、行を追加して記入する。

（添付書類）

届出名と同じで、監理技術者を配置する場合は、（監理）に代えて主任を二重線で削除する。

経理書等の写し及び健康保険書類の写しを添付

現場代理人・主任（監理）技術者変更届

年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所

商号又は
名 称
代表者名

先に提出した下記工事の現場代理人及び主任技術者を、次のとおり変更しましたので
関係書類を添えてお届けします。

工 事 名 (路線等の名称含)	
工 事 場 所	
変 更 事 項	☐ 現 場 代 理 人 ☐ 主 任 技 術 者 (監 理 技 術 者)
変 更 前	変 更 後
変 更 理 由	

(添付書類) 経歴書、経歴書には必要な資格を証する合格証明書等の写し及び健康保険
険証等、直接的かつ恒常的な雇用関係の確認できる書類の写しを添付
※ 変更理由によっては、医師の診断書等の提出を求める場合があります。

経 歴 書

氏 名 (※) 生年月日 昭和 平成 年 月 日

※資格・免許等の氏名が旧姓表記の場合は、旧姓も記載してください。

現 住 所

最 終 学 歴 年 月 卒 業

資 格 ・ 免 許 年 月 取 得

職 歴 (最終学歴卒業後)

年 月

年 月

年 月

年 月

工 事 経 歴 (過去3年の主な工事)

年 月

年 月

年 月

現 在 担 当 工 事 (現場代理人、主任技術者を明記)

工事名	契約金額	円
-----	------	---

工 期	年 月～	年 月	(現場代理人・主任技術者)
-----	------	-----	---------------

上記のとおり相違ありません。

年 月 日
氏 名

※ 全ての記載項目は、自筆でなくても構いません。

※ 委託の場合は、「工事」を「委託」と現場代理人、主任技術者を責任者、技術者と読み替える。

＜参考＞ 当初契約金額５００万円未満の建設工事の場合、現場代理人に替え、現場責任者を配置することになります。この場合、契約書には下記の特約条項が添付されます。
(1-1-52 関係)
注) 令和３年６月１日広告案件から当初設計金額を当初契約金額に変更しています。

現場代理人及び主任技術者に関する特約条項

(総則)

第１条 この特約は、この特約が添付される契約（以下「本契約」という。）と一体となす。

(適用)

第２条 当初契約金額が５百万円未満の建設工事。

(現場責任者及び主任技術者)

第３条 乙は、本契約約款第１０条に替わり、現場責任者及び主任技術者を定め、この契約締結後５日以内に、現場代理人・主任技術者・監理技術者・専門技術者届に準拠し、その氏名、その他必要な事項を甲に通知しなければならない。これらの者を変更したときも同様とする。

２ 現場責任者は、この契約の履行に関し、現場の運営、取締りを行うほか、請負代金額の変更、工期の変更、請負代金の請求及び受領、本契約約款第１２条第１項の請求の受理、同条第３項の決定及び通知並びにこの契約の解除に係る権限を除き、この契約に基づく乙の一切の権限を行使することができる。

３ 乙は、前項の規定にかかわらず、自己の有する権限のうち現場責任者に委任せず自ら行使しようとするものがあるときは、あらかじめ、当該権限の内容を甲に通知しなければならない。

４ 主任技術者は、現場責任者と兼ねることができる。

５ 現場責任者の経歴書には、直接的雇用関係を確認するための書類を添付しなくてはならない。

(履行報告の適用除外)

第４条 本契約約款第１１条に定める履行報告は適用しない。

現場代理人の兼務届（豊田市発注工事以外含む）

令和 年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所

商号又は
名 称
代表者名

下記既発注工事に係る現場代理人（現場責任者） を下記兼務する工事に係る現場責任者（現場代理人）と兼務したいので届けます。

別添のとおり施工連絡体制を整え、現場の安全管理及び工程管理を、適切に行います。

記

既 発 注 工 事	工 事 名 (路線名含む)	
	工 事 場 所	
	契 約 締 結 日	令和 年 月 日
	契 約 金 額	金 円
	工 期	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
兼 務 す る 工 事	工 事 名 (路線名含む)	
	工 事 場 所	
	契 約 締 結 日	令和 年 月 日
	契 約 金 額	金 円
	工 期	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

- ・この様式は、豊田市発注工事以外を含む兼務の場合に使用し、記載後は（上下水）総務課に提出し、（上下水）総務課の確認を受けてください。
- ・工程表については、現場代理人は作業時に現場常駐が必要なため、記載の各工事間で同一時期に作業が重複しないように工程表を作成し、監督員へ提出してください。監督員が工程表の確認を行います。
- ・施工連絡体制（現場代理人不在時の体制がわかるもの（様式任意））を施工計画書に記載又は添付してください（（上下水）総務課の確認時には不要）。

現場代理人の兼務届（豊田市発注工事用）

令和 年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所
商号又は
名 称
代表者名

現場代理人_____を下記の工事と兼務したいので届けます。
施工連絡体制を整え、現場の安全管理及び工程管理を、適切に行います。

①	工 事 名 (路線名を含む)	
	工 事 場 所	
	当 初 契 約 日	令和 年 月 日
	原 契 約 金 額	金 円
	原 工 期	令和 年 月 日 から 令和 年 月 日まで
	工 事 担 当 課 名	
②	工 事 名 (路線名を含む)	
	工 事 場 所	
	当 初 契 約 日	令和 年 月 日
	原 契 約 金 額	金 円
	原 工 期	令和 年 月 日 から 令和 年 月 日まで
	工 事 担 当 課 名	
③	工 事 名 (路線名を含む)	
	工 事 場 所	
	当 初 契 約 日	年 月 日
	原 契 約 金 額	金 円
	原 工 期	令和 年 月 日 から 令和 年 月 日まで
	工 事 担 当 課 名	

- ・この様式は、豊田市発注の建設工事を兼務する場合に使用し、記載後は（上下水）総務課に提出し、（上下水）総務課の確認を受けてください。記載する工事については、当初契約日が早い順に①から記載（契約日が同日の場合は、契約金額の高い方から記載）してください。
- ・工程表については、現場代理人は作業時に現場常駐が必要なため、記載の各工事間で同一時期に作業が重複しないように工程表を作成し、監督員へ提出してください。監督員が工程表の確認を行います。
- ・施工連絡体制（現場代理人不在時の体制がわかるもの（様式任意））を施工計画書に記載又は添付してください（（上下水）総務課の確認時には不要）。

施工連絡体制（現場代理人不在時の体制が分かるもの）（様式任意）（1-1-55関係）

現場組織表、緊急時の体制等を変更した変更施工計画書の提出 または、施工連絡体制（現場代理人不在時の体制が分かるもの）を施工計画書に添付してください。

現場代理人不在時の連絡体制（記載例）

現場代理人 豊田太郎

×××-××××× -×××××（携帯）

（株）××建設

（代）××××× -××× -×××××

- ・ 施工連絡体制は、任意様式。
- ・ 現場代理人不在時の体制が分かるものを添付

【現場代理人不在時の体制】

工事①（既契約工事） 豊田市〇〇〇舗装工事

現場の代表者 豊田次郎

現場の代表者の連絡先 ×××-××××× -×××××

工事②（既契約工事） 豊田市〇〇〇宅地造成工事

現場の代表者 豊田三郎

現場の代表者の連絡先 ×××-××××× -×××××

※ 現場作業員には、現場代理人の連絡先、付近の病院、電力会社、ガス会社の電話番号等を書いたメモを常に携帯させる。

主任技術者の兼務届

年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所

商号又は
名 称
代表者名

下記の既発注工事に係る主任技術者について、下記新たに契約する工事の主任技術者と兼務したいので届けます。

なお、下記工事について監理技術者を設置する必要がある場合には、兼務を解き双方の工事に必要な技術者を配置します。

記

主任技術者の氏名		
既 発 注 工 事	工 事 名 (路線名含む)	
	工 事 場 所	
	契 約 締 結 日	年 月 日
	契 約 金 額	金 円
	工 期	年 月 日から 年 月 日まで
	工期の内兼務期間	年 月 日から 年 月 日まで
新 た に 契 約 す る 工 事	発 注 機 関 名	
	工 事 名 (路線名含む)	
	工 事 場 所	
	契 約 金 額	金 円
	工 期	年 月 日から 年 月 日まで
	工 事 概 要	
	専任・非専任の別	専任 非専任
(添付書類) 各工事の施工場所を記入した地図 (1/10000 以上、工事現場間の距離を記したもの)		

- 注 1 専任を要しない技術者どうしの兼務については届出を要しない。
2 本兼務届は、原則として兼務期間の始期日より5日以内に提出するものとする。

監 理 技 術 者 の 兼 務 届

年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所
商号又は
名 称
代表者名

下記の既発注工事に係る監理技術者について、下記新たに契約する工事の監理技術者と兼務し、特例監理技術者として届けます。

なお、下記工事双方について特例監理技術者を補佐する監理技術者補佐を専任で配置いたします。

記

特 例 監 理 技 術 者 の 氏 名		
既 発 注 工 事	工 事 名 (路 線 名 含 む)	
	工 事 場 所	
	契 約 締 結 日	年 月 日
	契 約 金 額	金 円
	工 期	年 月 日から 年 月 日まで
	工 期 の 内 兼 務 期 間	年 月 日から 年 月 日まで
	監 理 技 術 者 補 佐 氏 名	
新 た に 契 約 す る 工 事	発 注 機 関 名	
	工 事 名 (路 線 名 含 む)	
	工 事 場 所	
	契 約 金 額	金 円
	工 期	年 月 日から 年 月 日まで
	工 事 概 要	
	監 理 技 術 者 補 佐 氏 名	
(添付書類) 各工事の施工場所を記入した地図 (1/10000 以上、工事現場間の距離を記したもの)		

- 注 1 専任を要しない技術者どうしの兼務については届出を要しない。
2 本兼務届は、原則として兼務期間の始期日より5日以内に提出するものとする。

【注】様式は（上下水）総務課のホームページからダウンロードできます。

契 約 金 額 内 訳 書

令和 年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所
氏 名
〔 名称及び
代表者氏名 〕

下記工事について、契約金額内訳書を別紙のとおり提出します。

記

1 工 事 名
（路線名含）

2 工 事 場 所

3 契 約 締 結 日

4 契 約 金 額

金 円

5 工 期

着 手 令和 年 月 日

完 成 令和 年 月 日

参考様式

(別紙)

工種・種別	数量	単位	金額 (単位：円)
工事価格計			
消費税相当額			
合計			

工事価格のうち、現場労働者に関する健康保険、厚生年金保険及び雇用保険の法定事業主負担額

円

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

記載例

3,590,616 円

10-13

工 程 表

年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所

商号又は
名 称
代表者名

下記の工事について、工程表を別紙のとおり提出します。

記

1 工 事 名

2 路線等の名称

3 工 事 場 所

4 契約締結年月日 年 月 日

5 契 約 金 額 金 円

6 契 約 期 間 自 年 月 日

至 年 月 日

(添付書類) 工程表 (別紙)

(別紙)

工 程 表

工 程 \ 日 程	年 月			年 月			年 月			年 月		
	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30

(別紙)

現場代理人等の兼務届に添付
する場合の工程表の記載例

工 程 表

日 程 工 程	令和○年○月			令和○年○月			令和○年○月			令和○年○月		
	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30
既発注工事												
準備工												
Φ○○布設工												
書類作成												
兼務工事												
準備工												
Φ○○布設工												

工事用使用材料一覽表

[illegible]

【注】施工体制台帳（A3 横）のエクセル版は（上下水）総務課のホームページからダウンロードできます。

令和 年 月 日

施 工 体 制 台 帳

〔会社名・事業者ID〕
 〔事業所名・現場ID〕

建設業の許可	許可種類	許可番号		許可（更新）年月日	
	大建設業 大建設業 大建設業	特定 一般 特定	第 号	令和 年 月 日	令和 年 月 日

二重名称及び 工事内容					
発注者名及び住所					
工 期	自 令和 年 月 日	至 令和 年 月 日	契約日	令和 年 月 日	

現場 名称	区分	名 称	住 所
	元請契約 下請契約		

健康保険等の 加入状況	保険加入の 有無 注4	健康保険		厚生年金保険		雇用保険	
		加入	未加入	加入	未加入	加入	未加入
		適用除外		適用除外		適用除外	
		区分	事業所の名称 注5	健康保険 注6	厚生年金保険 注7	雇用保険 注8	
		元請契約					
		下請契約					

発注者の 監理員名（※）		建設及び 意見申出方法	
監督員名（※）		承諾及び 意見申出方法	
現場代理人名（※）		代表及び 意見申出方法	
専任技術者名（※） 主任技術者名（※）	専任 非専任	資格内容	
監理技術者補佐名（※）		資格内容	
専門技術者名（※）		専門技術者名（※）	
資格内容（※）		資格内容（※）	
担当工事内容（※）		担当工事内容（※）	

一号特定技能外国人の 従事状況（有無）	有 無	外国人建設就労者の 従事状況（有無）	有 無	外国人技能実習生の 従事状況（有無）	有 無
------------------------	-----	-----------------------	-----	-----------------------	-----

※ 施工体制台帳の添付書類（建設業法施行規則第14条の2第2項）

- 発注者と作成業者間の請負契約に係る当該契約及び必要契約の契約書等の写し
- 作成業者と下請人の下請契約に係る当該契約及び必要契約の契約書等の写し
- 主任技術者又は監理技術者が主任技術者資格又は監理技術者資格を有する事を証する書面又はこれらの写し（公費工事においては監理技術者資格を証する書面）
- 主任技術者又は監理技術者が作成業者等に雇用関係を有することを証する書面又はこれらの写し
- 専門技術者名及び住所、その者が主任技術者資格を有する事を証する書面及びその者が作成業者等に雇用関係を有することを証する書面又はこれらの写し

《下請各人に送付する事項》

会社名・事業者ID	代表者名	
作 所	(TEL ー ー)	
二重名称及び 工事内容		
工 期	自 令和 年 月 日	至 令和 年 月 日

建設業の許可	施工に必要な許可事項	許可番号	許可（更新）年月日
	大建設業 大建設業 大建設業	特定 一般 特定	第 号
	大建設業 大建設業 大建設業	特定 一般 特定	第 号
	大建設業 大建設業 大建設業	特定 一般 特定	第 号

健康保険等の 加入状況	保険加入の 有無 注4	健康保険 加入 未加入	厚生年金保険 加入 未加入	雇用保険 加入 未加入
	事業所整理記号等	適用除外	適用除外	適用除外
		事業所の名称 注5	健康保険 注6	厚生年金保険 注7

現場代理人名（※）	安全衛生責任者名（※）
代表及び 意見申出方法	安全衛生推進者名（※）
主任技術者名（※） 主任技術者名（※）	所用管理責任者名（※）
資格内容	専門技術者名（※）
	資格内容
	担当工事内容（※）

一号特定技能外国人の 従事状況（有無）	有 無	外国人建設就労者の 従事状況（有無）	有 無	外国人技能実習生の 従事状況（有無）	有 無
------------------------	-----	-----------------------	-----	-----------------------	-----

注 意

1. 部分は建設業法で定められた記載事項です。
2. 項目等の記載の便に（※）記がある部分は書かない場合もあるので、その時は記載不要です。
3. 「建設及び意見の申出方法」欄は、建設業法では相手方に通知することになっていますので、その通知書や契約書に定められている場合は、その旨を記載した書面を添付してください。これにない場合は、具体的に記載してください。
4. 各保険の適用を受ける労働者について届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合（適用を受ける労働者が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む）は「未加入」、従業員総数等により各保険の適用が除外される場合は「適用除外」を〆で記入してください。
5. 建設業法に定める事業所の名称について記載してください。
6. 事業所整理記号および事業所番号（建設業法施行規則第14条の2第2項）に記載してください。一括適用の承認に係る事業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載してください。
7. 事業所整理記号および事業所番号を記載してください。一括適用の承認に係る事業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載してください。
8. 労働保険番号を記載してください。健康事業の一括の認可に係る事業所の場合は、本店の労働保険番号を記載してください。

【施工体制台帳の記載例】

施工体制台帳記載例
(参考)

施工体制台帳を作成
又は変更した日付

令和 3 年 4 月 13 日

施工体制台帳

会社名	〇〇工業株式会社	代表者名	〇〇 〇〇
住 所	〒 000-0000 〇〇県合合市△△町12-34		
工事名称 及 工事内容	〇〇ビル新築工事 / 構内暖気設備工事、照明設備工事		
工 期	自 令和 3 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 1 月 1 日	契約 日	令和 3 年 4 月 10 日

建設業の 許 可	施工に必要な許可条件	許 可 番 号		許可(更新)年月日
	電気 工事業	大抵 特 別 一 般	第 23456 号	令和 2 年 2 月 28 日
	工事業	大抵 特 別 一 般	第 号	年 月 日

健康保険等の 加入状況	保険加入の 有無 ^①	健康保険		厚生年金保険		雇用保険	
		加入	未加入	加入	未加入	加入	未加入
		適用除外		適用除外		適用除外	
事業所整理 記号等		営業所の名称 ^②	健康保険 ^③	厚生年金保険 ^④	雇用保険 ^⑤		
		〇〇営業所	12345678、12345	12345678、12345	12345678、12345	12345678、12345	

調査代理人名 権限及び 署名印方法 ※主任技術者 資格内容	△△ △△ 契約非記載のとおり 専任 会 長 技師 非常任 第一種電気工事士	安全衛生責任者名 堀川 四郎 安全衛生推進者名 堀川 四郎 雇用管理責任者名 尾島 五郎 技術主任者名	安全衛生責任者名 堀川 四郎 安全衛生推進者名 堀川 四郎 雇用管理責任者名 尾島 五郎 技術主任者名
---	---	---	---

下掲貸入部属の士主技術者の 氏名及び専任か非常生の種別を 示すに〇印。	当該奥人が居る代理人を 書いた場合その氏名 【※】	資格内容	担当工事内容
--	--	-------------	---------------

一 号特定技能外国人 の従事状況(有無)	有	無	外国人建設就労者の 従事状況(有無)	有	無	外国人技能実習生の 従事状況(有無)	有	無
-------------------------	---	---	-----------------------	---	---	-----------------------	---	---

主任技師者の資格を具備しに記入 例) 第一種電気工事士 実務経験 (指定学科 3 年・電気通信) 実務経験 (10 年・機械器具設置)	専門技師者の 例) 第一種電 気修験 実務経験
--	----------------------------------

当該建設工事に該当者が従事する場合は「有」に、従事する予定がない場合は「無」を○で囲む。

1.  部分は建設業法で定められた記載事項です。

2. 図面書きの欄に「※」印がある部分は置かない場合もあるので、その「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「」
「

6、事業所(健康保険組合)にあっては(組合名)

⑧、労働保険番号を記載してください。継続事業の一括の認可に係る営業

注意

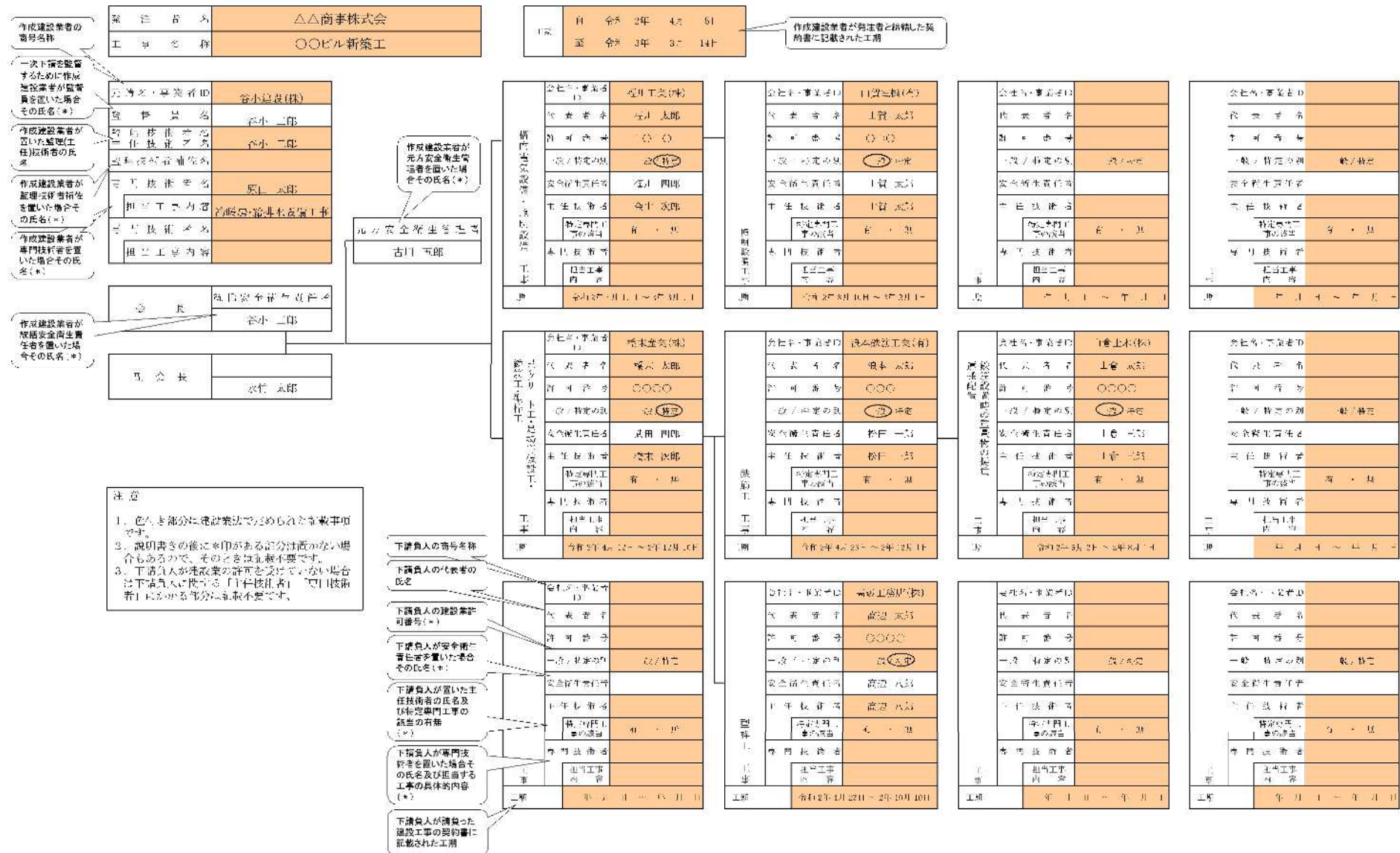
- ① 部分に建設法で定められた記載事項です。
- ② 商標等の使用については、該当する商標が既に商標として登録されている場合があるため、その内は記載不要です。
- ③ 「特許」の意図の申告を行う。既に「建設法」では特許については通知等にはなっていないので、その旨を記載し、特許が認められている場合は、その旨を記載したと書面を添付してください。これによりない場合は具状を記載してごください。
- ④ 各業種の適用を受ける業種について「届出を行っている場合には（加入）、行っていない場合（出向）を受ける業種が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む）に（未加入）、従業員基礎等によりその業種の適用が認められる場合は（適用除外）」をすべて記入してください。
- ⑤、請求内容に係る業種内の事業について記載してください。
- ⑥、事業内容の区分及び事業番号（健康保険組合等によって区分名）を記載してください。一軒建物の区分に係る区分及び事業番号は、区分の区分及び事業番号を記載してください。
- ⑦、区分の区分及び事業番号を記載してください。一軒建物の区分に係る区分及び事業番号を記載してください。
- ⑧、労働関係番号を記載してください。建設事業の一括の認可に係る業種の場合は、本店の労働関係番号を記載してください。

【注】施工体系図（A3 横）のエクセル版は（上下水）総務課のホームページからダウンロードできます。

工事作業所災害防止協議会兼施工体系図

[illegible]

【施工体系図の記載例】



【注】作業員名簿（A3 横）のエクセル版は（上下水）総務課のホームページからダウンロードできます。

作業員名簿
(年 月 日作成)

事業所の名称・現場ID
所長名

元請施設欄
提出日 年 月 日

一次会社名・事業者ID
(次) 会社名・事業者ID

※書き面に記載した内容は、作業員必須として安全衛生管理上の観点で発生時の迅速連絡・対応のために元請負業者にも送付することについて、記載者本人は同意しています。

番号	ふりがな 氏名 被験者ID	職種 ※	生年月日	健康保険 年金保険	建設業退職金 共済制度	教 育 ・ 資 格 ・ 免 許			入場年月日
			年齢	雇用保険	中小企業退職金 共済制度	雇入・職長 特別教育	技能講習	免 許	安全教育 実施年月日
			年 月 日						年 月 日
			歳						年 月 日
			年 月 日						年 月 日
			歳						年 月 日
			年 月 日						年 月 日
			歳						年 月 日
			年 月 日						年 月 日
			歳						年 月 日
			年 月 日						年 月 日
			歳						年 月 日
			年 月 日						年 月 日
			歳						年 月 日
			年 月 日						年 月 日
			歳						年 月 日
			年 月 日						年 月 日
			歳						年 月 日

（注）1. ※申請には次の記号を入れる。

- ①…派遣代理人 ②…作業主任者（（注）2.） ③…女生徒作業員 ④…建設現場の作業員
- ①…主任技師 ②…監 理 ③…安全衛生責任者 ④…能力向上教育 ⑤…危険有害業務・再発防止教育
- ⑥…外国人技能実習生 ⑦…外国人建設就労者 ⑧（1等）…1号待機技能外実入

（注）2. 作業主任者は作業を直接指揮する業務を負うので、同時に附）されている他の現場や、同一現場においても他の作業場所との作業主任者を兼任することは、法的に認められていないので、兼任の選任としなければならない。

- （注）3. 経験年数は現在担当している仕事の経験年数を記入する。
- （注）4. 各社別に作成するのが原則だが、リース様式等の運転者は一括でもよい。
- （注）5. 資格・免許等の写しを添付すること。
- （注）6. 健康保険欄には、左欄に健康保険の名称（健康保険組合、協会けんぽ、建設共保、国民健康保険）を記載。上記の保険に加入しておらず、後期高齢者である等により、国民健康保険の適用除外である場合には、左欄に「適用除外」と記載。
- （注）7. 年金保険欄には、左欄に年金保険の名称（厚生年金、国民年金）を記載。各年金の受給者である場合は、左欄に「受給者」と記載。
- （注）8. 雇用保険欄には右欄に被保険者番号の下4けたを記載。（国民労働者被保険者の場合には右欄に「雇用保険」と記載）専業主婦である等により雇用保険の適用除外である場合には左欄に「適用除外」と記載。
- （注）9. 建設業退職金共済制度及び中小企業退職金共済制度への加入の有無については、それぞれの欄に「有」又は「無」と記載。
- （注）10. 安全衛生に関する教育の内容（例：雇入時教育、職長教育、建設内リフトの運転の業務に係る特別教育）については「雇入・職長特別教育」欄に記載。
- （注）11. 建設工事に係る知識及び技術又は技能に関する資格（例：倉庫〇〇基礎技能者、〇〇〇〇地上管理技士）を有する場合は、「免許」欄に記載。
- （注）12. 記載事項の一部について、別紙を用いて記載しても差し支えない。

作 業 員 名 簿

作 業 員 名 簿

技术经济工业

10-25

【注】工事打合せ簿のエクセルデータは（上下水）総務課のホームページからダウンロードできます。

工 事 打 合 簿

発議者		☐ 発注者	☐ 請負者	発議年月日		令和年	月	日
発議事項		☐ 指示 ☐ 協議 ☐ 通知 ☐ 承諾 ☐ 報告 ☐ 提出 ☐ その他（ ）						
工事名		水道管〇〇工事						
請負業者： 〇〇建設工業株式会社								
(内容)								
添付図 葉、その他添付図書								
本打合せ事項については、設計変更対象と ☐ する。 ☐ しない。								
処理・回答	発注者	上記について ☐ 指示・ ☐ 承諾・ ☐ 協議・ ☐ 提出・ ☐ 受理 します。 ☐ その他（ ）						
	請負者	上記について ☐ 承諾・ ☐ 協議・ ☐ 提出・ ☐ 報告・ ☐ 受理 します。 ☐ その他（ ）						
		令和年 月 日						
		令和年 月 日						

総括 監督員	主任 監督員	専任 監督員

現 場 代理人	主任（監理） 技術者	監理技術者 補佐

＜工事打合せ簿の処理・回答手順＞

（１）打合せ簿提出及び処理の基本事項

- ① 提出は２部、請負者が電子メールを利用することができるのは報告、通知
（電子メールを利用する場合は、電子データ（打合せ簿、図面、資料はPDF・DocuWorksに変換、写真を添付する場合はJPEGで100万画素程度）を１ファイルにまとめて送信）
- ② 処理・回答後は、双方がそれぞれ１部を保管
（電子データの場合もそれぞれが完成時までデータを保管し、完成時CD-R/DVD-Rに格納し、電子で納品する。）
- ③ 発議者別に分け、一覧表を作成する。提出された日付順に整理番号を付番する。
（電子データを利用した打合せ簿も一覧表に記載する。）
- ④ 一覧表に記載された順に打合せ簿を綴りに閉じる。
このとき、整理番号をインデックス等で貼付し、検索しやすくすると良い。
- ⑤ 打合せ簿の綴りの頭に一覧表を添付する。

（２）請負者発議の工事打合せ簿

現場代理人等	① 発議者：受注者にチェック ② 発議事項にチェック（提出、報告、通知など） ③ 発議年月日、工事名、請負者名を記載 ④ 内容を記載 ⑤ 添付する図面・文書があれば図面名、文書名、部数を記載（希望回答日があれば記載） ⑥ 下段右の現場代理人、主任（監理）技術者欄に記名又は押印（電子メール利用の場合は不要） ⑦ 添付書類とともに２部提出 （電子メールの場合はファイルを送信し、監督員に電話で受信確認を行う。）	監督員
	① 処理・回答の発注者欄にチェック（受理、指示、承諾など） （電子データによる場合はチェック不要、ただし、指示事項がある場合は印刷し指示にチェック：⑥参照） ② 書類の不備等指示事項があれば、処理・回答欄に記載、書類の再提出の指示の場合は期限を記入（記載例を参照） ③ 設計変更対象欄にチェック（対象の場合は、後日変更協議） ④ 日付を記入し、下段左の監督員押印欄で内部処理（決裁行為） 電子メール利用の場合は、該当電子データにより主任・総括監督員が閲覧（保管したデータの印刷は不要） ⑤ 指示事項が無ければ、処理・回答の請負者欄を斜線削除し、請負者に１部を返却して処理終了（電子メール利用の場合は返却不要） ⑥ 指示事項がある場合は、請負者に２部返却 （電子メール利用の場合でも指示事項があれば、打合せ簿を印刷して指示・回答を記入（別紙添付も可）し、紙で決裁を受け、現場代理人に返却する。返却は電子化したデータをメールで送信することも認める。）	
	（以下、指示事項がある場合） ① 処理・回答の発注者欄の指示事項を確認 ② 処理・回答の請負者欄にチェック（承諾） ③ この際、指示事項に対する協議事項等があれば、別途打合せ簿で提出 ④ 日付を記載し、１部を発注者に返却して処理終了	

（３）発注者発議の工事打合せ簿

現場代理人等	① 発議者：発注者にチェック ② 発議事項にチェック（指示、通知など） ③ 発議年月日、工事名、請負者名を記載 ④ 内容を記載 ⑤ 設計変更対象欄にチェック（対象の場合は、後日変更協議） ⑥ 添付する図面・文書があれば図面名、文書名、部数を記載 ⑦ 下段左の監督員押印欄で内部処理（決裁行為） ⑧ 添付書類とともに２部提出	監督員
	① 処理・回答の請負者欄にチェック（受理、承諾、協議など） ② 協議事項等があれば、処理・回答欄に記載。 ③ 日付を記入し、２部を発注者に返却 ④ 協議事項等がなければ、処理・回答の発注者欄を斜線削除し、発注者に１部を返却し、処理終了	
	（以下、協議事項がある場合） ① 処理・回答の発注者欄の協議事項を確認 ② 処理・回答の請負者欄にチェック（受理、承諾など） ③ この際、再度の指示事項等があれば、別途打合せ簿作成 ④ 日付を記入し、受注者に１部返却し処理終了	

【工事打合せ簿記載例】

【記載例 1-1】 ※ 発注者からの指示がある場合

施工計画書提出の場合

作成根拠：水道管工事標準仕様書第1章第1節1-1-6

提出時期：工事着手前

提出部数：2部（処理・回答後、双方が各1部保管）

[illegible]

総括 監督員	主任 監督員	専任 監督員
印	印	印

押印または記名とする。
記名は氏または名のどちらかで可。
選任のない者の欄は斜線。

現 場 代理人	主任（監理） 技術者	監理技術者 補佐
印	印	

押印または記名とする。
記名は氏または名のどちらかで可。
選任のない者の欄は斜線。

※ 発注者からの指示がない場合

作成根拠：水道管工事標準仕様書第1章第1節1-1-6

提出部数： 2 部（処理・回答後、双方が各 1 部保管）

回答希望日がある場合は希望日を記載すること。

現場 代理人	主任（監理） 技術者	監理技術者 補佐
印	印	

施工計画書の修正後の再提出の場合

提出時期：工事着手前

提出部数：2部（処理・回答後、双方が各1部保管）

工 事 打 合 簿			
発議者	☒ 発注者 ☐ 請負者		発議年月日 令和○年○○月○○日
発議事項	☐ 指示 ☐ 協議 ☐ 通知 ☐ 承諾 ☐ 報告 ☒ 提出 ☐ その他（ ）		
工事名	水道管〇〇工事		
請負業者：	〇〇建設工業株式会社		
(内容)	令和２年４月１０日に指示のありました事項を記載した施工計画書を提出します。 指示があった日にちを記載すること。		
(希望回答日 令和○年○○月○○日)			
添付図	葉、その他添付図書 施工計画書		
本打合せ事項については、設計変更対象と ☒ する。 ☐ しなない。			
処理・回答	発注者	上記について ☐ 指示 ・ ☐ 承諾 ・ ☐ 協議 ・ ☐ 提出 ・ ☒ 受理 します。 ☐ その他 （ ） 令和○年○○月○○日	
	請負者	上記について ☐ 承諾 ・ ☐ 協議 ・ ☐ 提出 ・ ☐ 報告 ・ ☐ 受理 します。 ☐ その他 （ ） 令和　　年　　月　　日	

総括 監督員	主任 監督員	専任 監督員
印	印	印

現場 代理人	主任（監理） 技術者	監理技術者 補佐
印	印	

提出部数： 2 部（処理・回答後、双方が各 1 部保管）

現 場 代理人	主任（監理） 技術者	監理技術者 補佐
印	印	

提出部数：2部（処理・回答後、双方が各1部保管）

現場 代理人	主任（監理） 技術者	監理技術者 補佐
印	印	

工事材料の品質規格に関する資料（製品カタログ等）の追加提出

提出時期：工事材料の使用前

提出部数：2部（処理・回答後、双方が各1部保管）

総括 監督員	主任 監督員	専任 監督員
印	印	印

現場 代理人	主任（監理） 技術者	監理技術者 補佐
印	印	

【電子メールで提出が可能な打合せ簿の例】

【記載例5】

履行報告の提出

作成根拠：水道管工事標準仕様書第1章第1節1-1-29

提出時期： 毎月5日までに

提出部数：2部（処理・回答後、双方が各1部保管）、又は1ファイル

[illegible]

総括 監督員	主任 監督員	専任 監督員
印	印	印

電子メールでの提出の場合は各監督員の押印不要。（電子で確認を実施）

現場 代理人	主任（監理） 技術者	監理技術者 補佐
印	印	

電子メールでの提出の場合は現場代理人及び主任（監理）技術者の押印不要。

休日（又は夜間）作業届の通知

提出時期： 休日（又は夜間）作業の前日までに

提出部数：2部（処理・回答後、双方が各1部保管）、又は1ファイル

[illegible]

総括 監督員	主任 監督員	専任 監督員
印	印	印

電子メールでの提出の場合は各監督員の押印不要。（電子で確認を実施）

現場 代理人	主任(監理) 技術者	監理技術者 補佐
印	印	

電子メールでの提出の場合は現場代理人及び主任（監理）技術者の押印不要。

工事打合簿一覧表の記載例

工 事 打 合 簿 一 覧 表（参考）

整理番号		発議年月日	内 容
提出	1	〇〇年△月□日	施工計画書の提出
	2	〇〇年△月□日	施工計画書の再提出
	3	〇〇年△月□日	設計図書の照査結果の提出
	4	〇〇年△月□日	工事材料の製品カタログ資料等の提出
	5	〇〇年△月□日	休日作業届けの提出
	6	〇〇年△月□日	工期変更の協議書提出
報告	1	〇〇年△月□日	履行報告（〇月分）
通知	1	〇〇年△月□日	休日作業届けの提出
承諾	1	〇〇年△月□日	施工承諾 （PU2 型側溝に替えて PU3 型側溝で施工）
協議	1	〇〇年△月□日	工期変更の事前協議
	2	〇〇年△月□日	工期変更の事前協議及び工期変更の協議書提出
【発注者発議】			
通知	1	〇〇年△月□日	労働安全衛生法第 30 条第 2 項の規定に基づく指名

協 議 書

豊上下水〇発第〇〇〇号
令和〇〇年〇〇月〇〇日

(契約者) 〇〇〇〇〇〇 様

豊田市事業管理者 〇 〇 〇 〇 印

令和〇〇年〇〇月〇〇日付で契約締結をした工事について、下記のとおり協議します。
異議のない場合は、別紙承諾書を提出してください。

記

工 事 名	〇〇〇〇〇〇工事		
工 事 場 所	豊田市〇〇〇〇町地内		
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円	契 約 期 間	自 令和〇〇年〇〇月〇〇日 至 令和〇〇年〇〇月〇〇日
【協議事項】 上記工事のうち、下記指定部分に相応する契約金額及び今回支払額を協議します。 <指定部分> ・ 〇〇〇〇〇〇 ・ 〇〇〇〇〇〇 <指定部分に相応する契約金額> 金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円（消費税込み） <今回支払額> 指定部分に相応する契約金額×（１－前払金額／契約金額） －指定部分に相応する支払済部分払金 ＝〇〇〇〇円×（１－〇〇〇〇円／〇〇〇〇円）－〇〇〇〇円 ＝〇〇〇〇円（消費税込み、小数点以下切捨て）			

承 諾 書

令和〇〇年〇〇月〇〇日

豊田市事業管理者 様

契約者 住所
氏名
(名称及び
代表者氏名)



令和〇〇年〇〇月〇〇日付豊上下水〇発第〇〇〇号で協議のあった件について、下記のとおり承諾します。

記

工 事 名	〇〇〇〇〇〇工事		
工 事 場 所	豊田市〇〇〇〇町地内		
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円	契 約 期 間	自 令和〇〇年〇〇月〇〇日 至 令和〇〇年〇〇月〇〇日
【承諾事項】 上記工事のうち、下記指定部分に相応する契約金額及び今回支払額を承諾します。 <指定部分> ・ 〇〇〇〇〇〇 ・ 〇〇〇〇〇〇 <指定部分に相応する契約金額> 金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円（消費税込み） <今回支払額> 指定部分に相応する契約金額 × (1 - 前払金額 / 契約金額) － 指定部分に相応する支払済部分払金 = 〇〇〇〇〇円 × (1 - 〇〇〇〇〇円 / 〇〇〇〇〇円) - 〇〇〇〇〇円 = 〇〇〇〇〇円（消費税込み、小数点以下切捨て）			

令和〇〇年〇〇月〇〇日

工事指定部分完成届

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所

氏 名
(名称及び
代表者氏名)

下記のとおり指定部分が完成しました。
検査の結果、合格のときは合格日をもって指定部分に係る工事目的物を引き渡します。

記

工 事 名 (路線名等を含む)	〇〇〇〇〇〇工事
工 事 場 所	豊田市〇〇〇〇町地内
契 約 締 結 日	令和〇〇年〇〇月〇〇日
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日 ～ 令和〇〇年〇〇月〇〇日
指定部分に相応 する契約金額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円
指 定 部 分 完 成 期 限	令和〇〇年〇〇月〇〇日
指 定 部 分 完 成 年 月 日	令和〇〇年〇〇月〇〇日

通 知 書

豊上下水〇発第〇〇〇号
令和〇〇年〇〇月〇〇日

(契約者) 〇〇〇〇〇〇 様

豊田市事業管理者 〇 〇 〇 〇 印

令和〇〇年〇〇月〇〇日付で契約締結をした工事について、下記のとおり通知します。

記

工 事 名	〇〇〇〇〇〇工事		
工 事 場 所	豊田市〇〇〇〇町地内		
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円	契 約 期 間	自 令和〇〇年〇〇月〇〇日 至 令和〇〇年〇〇月〇〇日
【通知事項】 令和〇〇年〇〇月〇〇日付豊〇発第〇〇〇号で協議を行った件について、指定期間内に協議が整わなかったため、豊田市工事請負契約約款第39条第2項の規定により、上記工事の指定部分に相応する契約金額を定め、今回支払額を通知します。 ＜指定部分＞ ・ 〇〇〇〇〇〇 ・ 〇〇〇〇〇〇 ＜指定部分に相応する契約金額＞ 金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円（消費税込み） ＜今回支払額＞ 金〇〇〇〇〇円（消費税込み）			

協 議 書

豊上下水〇発第〇〇〇号
令和〇〇年〇〇月〇〇日

(契約者) 〇〇〇〇〇〇 様

豊田市事業管理者 〇 〇 〇 〇 印

令和〇〇年〇〇月〇〇日付で契約締結をした工事について、下記のとおり協議します。
異議のない場合は、別紙承諾書を提出してください。

記

工 事 名	〇〇〇〇〇〇工事		
工 事 場 所	〇〇〇〇		
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円	契 約 期 間	自 令和〇〇年〇〇月〇〇日 至 令和〇〇年〇〇月〇〇日
【協議事項】 上記工事のうち、出来形部分に相応する契約金額相当額及び今回支払額について協議します。 <既済部分検査願受付日> 令和〇〇年〇〇月〇〇日 <既済部分検査日及び結果通知日> 検査日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 結果通知日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 <出来形歩合及び出来形部分に相応する契約金額相当額> 出来形 〇〇. 〇〇% 出来形部分に相応する契約金額相当額 金〇〇〇〇〇〇〇〇円 <今回支払額> (出来形部分に相応する契約金額相当額－既に部分払の対象となった契約金額相当額) × (9 / 10 － 前払金額 / 契約金額) = (〇〇〇〇円－〇〇〇〇円) × (9 / 10 － 〇〇〇〇円 / 〇〇〇〇円) = 〇〇〇〇円 (消費税込み、万円未満切捨て)			

協 議 書

豊上下水〇発第〇〇〇号
令和〇〇年〇〇月〇〇日

(契約者) 〇〇〇〇〇〇 様

豊田市事業管理者 〇 〇 〇 〇 印

令和〇〇年〇〇月〇〇日付で契約締結をした工事について、下記のとおり協議します。
異議のない場合は、別紙承諾書を提出してください。

記

工 事 名	〇〇〇〇〇〇工事		
工 事 場 所	〇〇〇〇		
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円	契 約 期 間	自 令和〇〇年〇〇月〇〇日 至 令和〇〇年〇〇月〇〇日
【協議事項】 上記工事のうち、出来形部分に相応する契約金額相当額及び今回支払額について協議します。 <既済部分検査願受付日> 令和〇〇年〇〇月〇〇日 <既済部分検査日及び結果通知日> 検査日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 結果通知日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 <出来形歩合及び出来形部分に相応する契約金額相当額> 出来形 〇〇. 〇〇% 出来形部分に相応する契約金額相当額 金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円 <今回支払額> 金〇〇〇〇〇円（消費税込み）			

承 諾 書

令和〇〇年〇〇月〇〇日

豊田市事業管理者 様

契約者 住所
氏名
(名称及び
代表者氏名)



令和〇〇年〇〇月〇〇日付豊上下水〇発第〇〇〇号で協議のあった件について、下記のとおり承諾します。

記

工 事 名	〇〇〇〇〇〇工事		
工 事 場 所	〇〇〇〇		
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円	契 約 期 間	自 令和〇〇年〇〇月〇〇日 至 令和〇〇年〇〇月〇〇日
【承諾事項】 上記工事のうち、出来形部分に相応する契約金額相当額及び今回支払額を承諾します。 <既済部分検査願受付日> 令和〇〇年〇〇月〇〇日 <既済部分検査日及び結果通知日> 検査日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 結果通知日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 <出来形歩合及び出来形部分に相応する契約金額相当額> 出来形 〇〇. 〇〇% 出来形部分に相応する契約金額相当額 金〇〇〇〇〇〇〇〇円 <今回支払額> (出来形部分に相応する契約金額相当額－既に部分払の対象となった契約金額相当額) × (9 / 10 - 前払金額 / 契約金額) = (〇〇〇〇円 - 〇〇〇〇円) × (9 / 10 - 〇〇〇〇円 / 〇〇〇〇円) = 〇〇〇〇円 (消費税込み、万円未満切捨て)			

承 諾 書

令和〇〇年〇〇月〇〇日

豊田市事業管理者 様

契約者 住所
氏名
(名称及び
代表者氏名)



令和〇〇年〇〇月〇〇日付豊〇発第〇〇〇号で協議のあった件について、下記のとおり承諾します。

記

工 事 名	〇〇〇〇〇〇工事		
工 事 場 所	〇〇〇〇		
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円	契 約 期 間	自 令和〇〇年〇〇月〇〇日 至 令和〇〇年〇〇月〇〇日
【承諾事項】 上記工事のうち、出来形部分に相応する契約金額相当額及び今回支払額を承諾します。 <既済部分検査願受付日> 令和〇〇年〇〇月〇〇日 <既済部分検査日及び結果通知日> 検査日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 結果通知日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 <出来形歩合及び出来形部分に相応する契約金額相当額> 出来形 〇〇. 〇〇% 出来形部分に相応する契約金額相当額 金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円 <今回支払額> 金〇〇〇〇〇円（消費税込み）			

工 事 既 済 部 分 検 査 願

年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所

氏 名
(名称及び
代表者氏名)

年度第 回(合計 回)既済部分の確認を請求します。

記

工 事 名 (路線名等を含む)		
工 事 場 所		
契 約 締 結 日	年	月 日
契 約 金 額	金	円
工 期	年 月 日 ~	年 月 日

通 知 書

豊上下水〇発第〇〇〇号
令和〇〇年〇〇月〇〇日

(契約者) 〇〇〇〇 様

豊田市事業管理者 〇 〇 〇 〇 印

令和〇〇年〇〇月〇〇日付で契約締結をした工事について、下記のとおり通知します。

記

工 事 名	〇〇〇〇〇〇〇工事		
工 事 場 所	〇〇〇〇		
契 約 金 額	金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円	契 約 期 間	自 令和〇〇年〇〇月〇〇日 至 令和〇〇年〇〇月〇〇日
【通知事項】 令和〇〇年〇〇月〇〇日付豊〇発第〇〇〇号で協議を行った件について、指定期間内に協議が整わなかったため、豊田市工事請負契約約款第38条第6項の規定により、上記工事の出来形部分に相応する契約金額相当額を定め、今回支払額を通知します。 <出来形歩合及び出来形部分に相応する契約金額相当額> 出来形 〇〇. 〇〇% 出来形部分に相応する契約金額相当額 金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円（消費税込み） <今回支払額> 金〇〇〇〇〇円（消費税込み）			

〔 段階確認・施工状況把握 〕 報告書

工 事 名					
路線等の名称					
工 事 場 所					
請 負 者 名					
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日				
種 別	細 別	項 目	実施予定時期	確認方法 (臨場・机上)	実施年月日

備考)

- 1 段階確認・施工状況把握が良好の場合は、確認方法、実施年月日を記入する。
- 2 段階確認・施工状況把握において問題が生じた場合は、確認方法欄に手直し等の指示事項を記入すること。
- 3 確認方法欄は、監督員は「臨場」・「机上」と記入する。
- 4 「臨場」立会の立会状況写真は、工事完了写真としての提出のみとし、「段階確認・施工状況把握報告書」への添付は必要ない。
- 5 「机上」の場合は、写真等の資料を監督員に提示し確認を受けるものとし、添付は必要ない。なお、完成検査時に資料の確認を行う場合があります。
- 6 工事完成后、記載内容を確認のうえで、監督員は署名を行う。

上記について、実施しました。

監督員 _____

工 事 完 成 届

年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所

氏 名
(名称及び
代表者氏名)

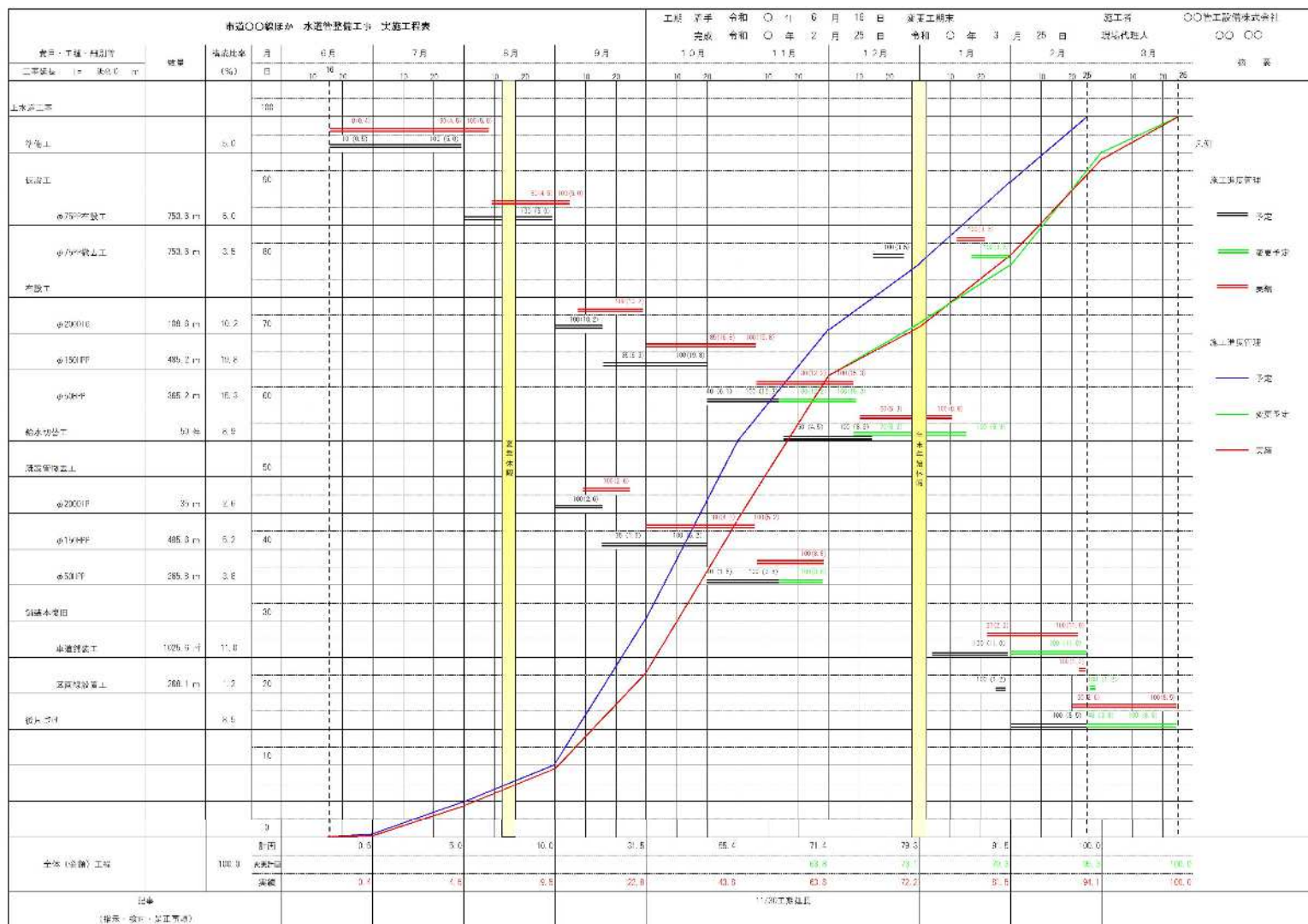
下記のとおり完成しました。

検査の結果、合格のときは合格日をもって工事目的物を引き渡します。

記

工 事 名 (路線名等を含む)		
工 事 場 所		
契 約 締 結 日	年	月 日
契 約 金 額	金	円
工 期	年 月 日 ~	年 月 日
完 成 年 月 日	年	月 日

実施工程表 作成例



※実施工程表の様式はこれに限定するものではありません。工程を管理しやすい様式で構いません。
 ※予定と実績が比較できる工程表とし、工程に遅れが生じた場合は改善策を検討すること。
 ※工期の1/3を経過して、マイナス20ポイント以上の遅れが生じた場合は、工程の見直しを行うこと。
 ※凡例は必ず記入すること。誰が見てもわかりやすい工程表の作成を心掛けてください。

工 事 記 録

[illegible]

備考 具体的な作業内容の他に、安全活動として日々行うものは除き、定期的（月１回など）に行うもの、及び工事への影響が大きな事項として、変更協議、契約などを記載する。

社内検査実施報告書

実 施 年 月 日	年 月 日 () 午前・午後 時 分～午前・午後 時 分
場 所	
立 会 者	
検 査 員	
実 施 項 目	
実施状況写真	

〇〇年〇〇月〇〇日

残土処理承諾書

(使用者)

〇〇〇〇〇〇管工(株) 様

(承諾者)

住 所 豊田市〇〇町〇〇番地

氏 名 〇 〇 〇 〇 印

残土処理地として下記のとおり処理することについて承諾いたします。

記

- 1 工 事 名
- 2 路線等の名称
- 3 工 事 場 所
- 4 処理地の地番
- 5 処理地の地目
- 6 残 土 の 種 類
- 7 その他（条件等）

※ 2部作成し、承諾者と使用者各1部保有し、担当者に1部写しを提出すること。

但し、土質改良プラントへ搬入する場合は不要。

※ 添付図 : 位置図

〇〇年〇〇月〇〇日

土地使用承諾書

（使用者）

〇〇〇〇〇〇管工株 様

（承諾者）

住 所 豊田市〇〇町〇〇番地

氏 名 〇 〇 〇 〇 印

下記のとおり使用することについて承諾します。

記

- 1 使用目的 資材置場（水道管布設材料）
- 2 使用箇所 豊田市〇〇町〇〇番地（別添位置図参照）
地 目 （名 称） 〇〇〇
- 3 使用期間 〇〇年〇〇月〇〇日～ 〇〇年〇〇月〇〇日
- 4 その他
（条件等）

※ 2部作成し、承諾者と使用者各1部保有する。

※ 添付図 : 位置図

※ 紙マニフェストを使用して運搬する場合には不要です。

産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）の運搬する際備え付ける書面

氏名又は名称 及び住所等	連絡先（ ）
-----------------	---------------

運搬する産業 廃棄物の種類	産業廃棄物		特別管理産業廃棄物		数量
	廃 油		引火性廃油		トン・kg・m ³ ・ リットル
	廃プラスチック類		腐食性廃酸		
	紙くず		腐食性廃アルカリ		
	木くず		感染性産業廃棄物		
	繊維くず		廃 PCB 等		
	ゴムくず		PCB 汚染物		
	金属くず		特定有害廃石綿等		
	ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず		他（ ）		
			他（ ）		
	がれき類		他（ ）		
	他（ ）		他（ ）		

運搬する産業廃棄物の積載日及び積載した事業場名称等	積載日	年 月 日
	事業場名	
	所在地及び連絡先	連絡先（ ）
運搬先の事業場の名称等	事業場名	
	所在地及び連絡先	連絡先（ ）

<建退共掛金収納書提出用台紙>

※ 独立行政法人勤労者退職金共済機構建設業退職金共済事業本部の様式を参考として掲載
(同本部のホームページから様式のダウンロードが可能)

様式第 033 号

発注者 殿	
工事番号および工事名	
建設キャリアアップシステム現場 ID	総工事費 円
受注者(元請)	
住 所	
名 称	
共済契約者番号	
建設キャリアアップシステム事業者 ID	
共済証紙購入金額 円	

掛金収納書提出用台紙

様式
(取扱店→契約者)

掛金収納書
(契約者が発注者へ)

建設業本部

この収納書は、建設業者が契約者記入欄に発注者名、工事番号、及び工事名を記入し、発注者(官公庁等)に提出するものです。
なお、提出の必要のない場合は、斜線を引いて下さい。

共 済 契 約 者 番 号

契 約 者 氏 名 (法人または事業主名) 殿

電 話 番 号

証紙枚数	1日券	1枚当たりの販売価格	円	金額
	10日券	1枚当たりの販売価格 <th>円</th> <th>金額</th>	円	金額
			合計金額	

独立行政法人勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業本部 印

☐ 公共
☐ 民間
☐ その他

契 約 者 記 入 欄
 発 注 者 名
 元請契約の工事番号および(工事名)

取扱金融機関名・日付印

※ 公共工事を請け負った場合には、発注官庁等から掛金収納書の提出を求められる場合がありますので、大切に管理・保管願います。

(掛金収納書は台紙に貼り付ける)

当該工事における共済証紙購入の考え方 (該当する□に✓をチェックして下さい)

- ☐ 1. 発注者の指示のとおり
- ☐ 2. 対象労働者数と当該労働者の就労日数を的確に把握している場合
- $$\frac{\text{就労予定延人数}}{\text{人日}} \times \frac{\text{販売価格}}{\text{円}} = \text{円}$$
- ☐ 3. 対象労働者数と当該労働者の就労日数の把握が困難な場合
- $$\frac{\text{総工事費}}{\text{円}} \times \frac{\text{購入率}}{1,000} \times \frac{\text{※加入率}}{70\%} = \text{円}$$

※対象工事における労働者の建退共制度加入率
- ☐ 4. その他
- 購入額の根拠を記入

(参考)

建設キャリアアップシステム登録情報

共済契約者である元請負人の建設キャリアアップシステム事業者登録の有無 (有・無)

本工事について、現場・契約情報の建設キャリアアップシステムへの登録の有無 (有・無)

本工事について、カードリーダーの設置等、就業履歴が蓄積可能な環境の有無 (有・無)

<掛金収納書（電子申請方式）>

※ 独立行政法人勤労者退職金共済機構建設業退職金共済事業本部の電子申請専用サイトから出力が可能)

掛金収納書(電子申請方式)

(共済契約者が発注者へ)

共済契約者番号	
共済契約者名 (法人または事業主氏名)	
JVの場合は 共同企業体名	

掛金収納書番号 (お問い合わせの際は、この番号と共済契約者名をお知らせください。)	

収納年月日	
-------	----------------------

退職金ポイント購入額		
単価	購入日数	購入額
310円 (中小企業用)	日	円
310円 (大手企業用)	日	円
合計	日	円

工事情報 <table border="1"> <tr> <td>工事の区分</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>公共</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td> </td> </tr> </table>	工事の区分		公共		民間		その他		<table border="1"> <tr> <td align="center" colspan="2">発注者名</td> </tr> <tr> <td align="center" colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td align="center" colspan="2">元請契約の工事番号および工事名</td> </tr> <tr> <td align="center" colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td>総工事費</td> <td align="right">円</td> </tr> <tr> <td align="center" colspan="2">当該工事の退職金ポイント購入の考え方</td> </tr> <tr> <td align="center" colspan="2"> </td> </tr> </table>	発注者名				元請契約の工事番号および工事名				総工事費	円	当該工事の退職金ポイント購入の考え方			
工事の区分																							
公共																							
民間																							
その他																							
発注者名																							
元請契約の工事番号および工事名																							
総工事費	円																						
当該工事の退職金ポイント購入の考え方																							

この掛金収納書は、電子申請方式の退職金ポイントの購入を証する書です。
税務処理には使用できません。
 また、公共工事を請け負った場合には、発注官庁等からこの掛金収納書の提出を求められる場合がありますので、大切に管理・保管願います。

独立行政法人勤労者退職金共済機構
 建設業退職金共済事業本部 **電子印鑑**

(参考)

建設キャリアアップシステム登録情報

本工事を施工する下請負人を含めた
 建設キャリアアップシステムへの登録の有無 (有) (無)

元請負人の建設キャリアアップシステム事業者ID	
-------------------------	----------------------

本工事について、下請負人を含めた施工体制登録の有無 (有) (無)

本現場の建設キャリアアップシステム現場ID	
-----------------------	----------------------

本工事について、カードリーダーの設置等、就業履歴が蓄積可能な環境の有無 (有) (無)

年 月 日

豊田市事業管理者 様

契約者 住 所

商号又は
名 称
代表者名

下記文章は、下請業者から提出された「建設業退職金共済制度加入労働者数報告書」の内容により随時変更する

建退共の共済証紙について（報告）

本工事を請負契約しました（株）〇〇は、中小企業退職金共済に加入しています。また、下請負事業者も中退共など他の退職金制度に加入して（自ら退職金制度を設けて）おり、建設業退職金共済制度の共済証紙を購入しません（でした）ので報告いたします。

工 事 名	
路 線 名	
工 事 場 所	
現 場 代 理 人	
下 請 負 業 者 名	

契約当初に提出するときは「購入しませんので」とし、完了時に提出するときは「購入しませんでしたので」に変更する

年 月 日

(元請事業者)

様

下請事業者

建設業退職金共済制度加入労働者数報告書

〔工事番号および工事名： 〕

いずれか該当する□にレ点をつけてください。

- ☐ 1. 建退共制度に加入している
- ☐ 2. 建退共制度に加入していない（就労予定労働者数 人）

以下のとおり、建退共制度の対象労働者数等を報告します。

※「☐ 2. 建退共制度に加入していない」に該当した場合は、「共済契約者番号」は「－」、「うち、被共済者数②」は「0人」とし、これ以外の項目は記載してください。

共済契約者番号	事業所名	(単位:人)		
		就労予定労働者数①	うち、被共済者数②	被共済者以外(①-②)

(被共済者以外(①ー②)の内訳)

企業の役員	中退共、商工会など他の退職金制度に加入	自社の退職金制度のみを適用	その他(具体的に)

- 注1) 自社の退職金制度と建退共制度を両方適用している場合は、被共済者に該当しますので、「うち、被共済者数②」にその人数を記載してください。
- 注2) 「中退共、商工会など他の退職金制度」に加入」の場合は、加入証明書や契約書の写しなど、加入していることが分かる資料をつけてください。
- 注3) 「自社の退職金制度のみを適用」の場合は、就業規則、退職金規程の写しなど、適用していることが分かる資料をつけてください。
- 注4) 工事種別、工法等により「就労予定労働者数①」が著しく少ない場合は、その理由の分かる資料をつけてください。

＜建設業退職金共済制度加入労働者数報告書＞

※ 独立行政法人勤労者退職金共済機構建設業退職金共済事業本部の様式を参考として掲載（同本部のホームページから様式のダウンロードが可能）

建設業退職金共済証紙貼付状況報告書

報告日 年 月 日

元請名	共済契約者(下請)名
工事番号および名	共済契約者番号
工事コード	建設キャリアアップシステム事業者ID
建設キャリアアップシステム現場ID	工期
被共済者数 人	延べ就労日数 日

< 月分> もしくは < 工事終了日 年 月 日 >

受入		貼付		払出		証紙残枚数
受入年月日	受入枚数	貼付年月日	被共済者数	共済手帳への証紙貼付枚数	払出年月日	
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
年 月 日	枚	年 月 日	人	枚	年 月 日	枚
合計	枚	合計	人	枚	合計	枚

以上のとおり報告致します。

<建設業退職金共済証紙貼付状況報告書>

※ 独立行政法人勤労者退職金共済機構建設業退職金共済事業本部の様式を参考として掲載
(同本部のホームページから様式のダウンロードが可能)

＜共済証紙受払簿＞

※ 独立行政法人勤労者退職金共済機構建設業退職金共済事業本部の様式を参考として掲載
(同本部のホームページから様式のダウンロードが可能)

(様式第030号)

共 済 証 紙 受 払 簿 (320円)

No. 1

共済契約者名 受入・払出 年 月 日	受 入		入		②共済契約者番号		③決算日及び決算期間(年 月 日)		備 考
	購 入	元請から受入	貼 付	出 下請へ交付	残 高				
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分	前決算期(前頁)繰越	日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
	金銭債権名	日分	元請名	日分	下請名	日分		日分	
				日分		日分		日分	
決算期間内 の合計		⑥ 0 日分 累計 0 円	⑦ 0 日分 累計 0 円	0 日分 累計 0 円	0 日分 累計 0 円	0 日分 累計 0 円	0 日分 累計 0 円	0 日分 累計 0 円	次頁へ (次年度へ) 転記

<建設業退職金共済制度掛金充当実績総括表>

※ 独立行政法人勤労者退職金共済機構建設業退職金共済事業本部の様式を参考として掲載
(同本部のホームページから様式のダウンロードが可能)

様式第 031 号

建設業退職金共済制度掛金充当実績総括表

年 月 日

発注者

_____ 殿

受注者

住所

名称

共済契約者番号

建設キャリアアップシステム事業者 ID

工事番号および工事名

建設キャリアアップシステム現場 ID

工事期間

年 月 日 ~ 年 月 日

上記工事に係る建設業退職金共済制度の掛金充当実績について、以下のとおり報告します。

(1) 工事全体

労働者延べ就労日数 _____ 人日

本工事に従事した事業者数(元請を含む) _____ 者

本工事に従事した労働者数 _____ 人

(2) 建退共対象労働者

建退共対象労働者延べ就労日数(掛金充当日数) _____ 人日

採用した方式

☐ 電子申請方式

☐ 証紙貼付方式

・事業者数(元請を含む) _____ 者

・対象労働者数 _____ 人

(参考: 工事全体の数を記入すること)

・建設キャリアアップシステムによる就業履歴数 _____ 人日

・建設キャリアアップシステムの施工体制に登録した事業者数 _____ 者

・建設キャリアアップシステムの作業員登録を行った労働者数 _____ 人

※ 独立行政法人勤労者退職金共済機構建設業退職金共済事業本部の様式を参考として掲載
(同本部のホームページから様式のダウンロードが可能)

10-63

■チェックシートは委託契約書と一緒に5年間保存してください。■

廃棄物処理委託先チェックシート（収集運搬）

収集運搬業者名		積替え・保管の有無	有
---------	--	-----------	---

確認事項		契約前の事前確認	契約後の現地確認		
		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
1	確認者役職・氏名（記載例：現場代理人〇〇）				
2	委託を出した産業廃棄物の種類（「廃プラ」、「金属くず」など）が最新の許可証に全て記載されているか。				
3	受託者の収集運搬能力は委託内容に比べて十分か。				
4	運搬車又は運搬容器は、処理委託した産業廃棄物を適切に運搬できるか。（※1）				
5	車両に不要なものが積まれていないか。又は過積載はないか。				
6	車両の両側面に表示があるか。 （産業廃棄物収集運搬車、会社名、許可番号）				
7	車両中に許可証及び電子マネーベスト加入証の写しがあるか。				
8	知識技能を有する者の氏名（※2）				
9	対応者（受託者側）氏名				
○積替え・保管が「有」の場合は以下の確認も行ってください。（※3）					
10	施設内に産業廃棄物が過剰に保管されていないか。区分されて保管されているか。				
11	掲示板、囲いが設置されているか。（※4）				
12	排水が適切に処理されているか。 （地下浸透防止措置、油水分離槽の管理状況）				
13	飛散・流出や悪臭など環境への影響はないか。				
○1～13の項目について、実地に調査をしている者から聴取した場合に記入してください。（※5）					
14	聴取した年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
15	聴取を受けた者				
16	聴取を行った者				
備 考					

【注意事項】

- ※1 土砂等運搬禁止車両ではがれき類、鉱さいは運べません。感染性廃棄物は温度調整機能のついたバンタイプの車両を使用してください。車両へのシート掛けや廃棄物によっては専用容器を使用するなど適切な措置をとってください。ただし、タンク車等、車両が運搬容器を兼ねている場合はこの限りではありません。
- ※2 知識技能を有する者は都道府県知事（政令市の場合は市長）が指定する機関の講習会を修了した者で、直前の許可申請時に修了証を添付した者、又は直前の許可申請後に修了した者を確認してください。
- ※3 受託業者が積替え保管を含む許可を有し、かつ当該契約において積替え・保管施設を使用する場合に限ります。
- ※4 掲示板（縦横60cm以上）は、以下の5つの事項を記載する必要があります。
 ①積替・保管の場所である旨 ②設置者の氏名又は名称（会社名等） ③許可等の区分 ④保管する産業廃棄物の種類
 ⑤管理者の氏名又は名称及び連絡先
 ※囲いは、1.8m以上の高さが必要です。
- ※5 排出事業者自らが実地に調査に行くことが困難な場合には、自らの責任において、実地に調査をしているものから聴取することも可能です。その際は、聴取年月日、聴取を受けた者、聴取を行った者を記録してください。

1年以上の長期契約の場合に関しても、年に1回以上の現地確認が必要です。

■チェックシートは委託契約書と一緒に5年間保存してください。■

廃棄物処理委託先チェックシート（処分）

処分業者名	
委託する品目	

確認事項		契約前の事前確認	契約後の現地確認		
		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
1	確認者役職・氏名（記載例：現場代理人〇〇）				
2	①委託した処分方法（「焼却」、「選別」など）の記載欄に、②委託する産業廃棄物の種類（「廃プラ」、「金属くず」など）が最新の許可証に全て記載されているか。				
3	施設の処理能力は委託内容に比べて十分か。				
4	施設内に処理前の産業廃棄物が過剰に保管されていないか。区分されて保管されているか。				
5	施設内に処理後の産業廃棄物が過剰に保管されていないか。区分されて保管されているか。				
6	施設内の清掃は行き届いているか。				
7	マニフェストの記載内容と実態が合っているか。（※1）				
8	掲示板、囲いが設置されているか。（※2）				
9	排水が適切に処理されているか。 （地下浸透防止措置、油水分離槽の管理状況）				
10	飛散・流出や悪臭など環境への影響はないか。				
11	付近住民から苦情は出ていないか。				
12	知識技能を有する者の氏名（※3）				
13	対応者（受託者側）氏名				
〇1～13の項目について、実地に調査をしている者から聴取した場合に記入してください。（※4）					
14	聴取した年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
15	聴取を受けた者				
16	聴取を行った者				
備 考					

【注意事項】

- ※1 各所属が交付したマニフェストに記載されている品目、数量、処分方法で、実際の現場の処理が行われていることを確認してください。
- ※2 掲示板（縦横60cm以上）は、以下の5つの事項を記載する必要があります。
①処分の場所である旨 ②設置者の氏名又は名称（会社名等） ③許可等の区分 ④処理する産業廃棄物の種類
⑤管理者の氏名又は名称及び連絡先
囲いは、1.8m以上の高さが必要です。
- ※3 知識技能を有する者は都道府県知事（政令市の場合は市長）が指定する機関の講習会を修了した者で、直前の許可申請時に修了証を添付した者、又は直前の許可申請後に修了した者を確認してください。
- ※4 排出事業者自らが実地に調査に行くことが困難な場合には、自らの責任において、実地に調査をしているものから聴取することも可能です。その際は、聴取年月日、聴取を受けた者、聴取を行った者を記録してください。

1年以上の長期契約の場合に関しても、年に1回以上の現地確認が必要です。

【注】 マニフェスト管理台帳のエクセルデータは技術管理課のホームページからダウンロードできます。

東京理科大学

工事名(路線名等含む):

*産業廃棄物種類欄は当該工事で発生しない部分を抹消した書式とすることができる。

単位:m3又はtを明記

整理 番号	マニフェスト交付番号	収集運搬業者	処分会社	安定型・管理型産業廃棄物									特別管理廃棄物				備 考	
				コンク リート塊	アスファ ルト塊	建設発生 木材	紙くず	繊維くず	建設泥土 (汚泥)	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・陶 磁器くず	建設混合 廃棄物 (安定型・ 管理型)	その他産業廃棄物				アスベス ト
														揮発油・ 灯油・軽 油	廃酸 (pH 2以下)	廃アルカ リ (pH12.5 以上)		
No. 1																		
No. 2																		
No. 3																		
No. 4																		
No. 5																		
No. 6																		
No. 7																		
No. 8																		
No. 9																		
No. 10																		
No. 11																		
No. 12																		
No. 13																		
No. 14																		
No. 15																		
No. 16																		
No. 17																		
No. 18																		
No. 19																		
No. 20																		
No. 21																		
No. 22																		
No. 23																		
No. 24																		
No. 25																		
No. 26																		
No. 27																		
No. 28																		
No. 29																		
No. 30																		
	マニフェスト枚数																	
合計		—	—															
	枚	—	—															

設計図書に記載の設計処理量

整理番号

塗 装 管 理 記 録

構 造 物 名		所 在 地	
塗 装 面 積	m ²	塗 装 年 月	年 月
塗装面の状態	(劣化度)	完 成 後 塗 膜	μ
塗 装 業 者 名			
塗料メーカー名			
塗 装 仕 様	ケレン種別		
	第 1 層	(塗料系)	g / m ²
	第 2 層	(塗料系)	g / m ²
	第 3 層	(塗料系)	g / m ²
	第 4 層	(塗料系)	g / m ²
	第 5 層	(塗料系)	g / m ²
	第 6 層	(塗料系)	g / m ²
塗 料 名	第 1 層		
	第 2 層		
	第 3 層		
	第 4 層		
	第 5 層		
	第 6 層		
備 考 欄			

添 架 台 帳			
河 川 名		河 川 管 理 者	
所 在 地		橋 梁 名	
添架台帳番号		占用台帳番号	
竣工図番号		1 / 500 番号	
添 架 ・ 配 管 情 報		塗 装 情 報	
管 種		塗 装 面 積	m ²
口 径 ・ 管 長	φ m	前回塗装(西暦)	年
継 ぎ 手 形 式		足 場 数 量	
架 設 年 (西 暦)	年	塗 装 の 仕 様	
添 架 位 置	単独 上流 桁中 下流	管 の 腐 食 状 況	
空 気 弁 形 式	なし 単口 双口 不凍	防 寒 ・ 防 露 工	
〃 (補修弁)	有り 無し		
伸縮継ぎ手(地上)		河 川 情 報	
伸縮可撓管(地中)		川 幅	
防護コンクリート	有筋 無筋	河 川 の 水 深	
防 渡 柵 の 有 無	有り 無し	流 速 ・ 水 質	
他 の 占 用 物	N T T ガス 農水	水面からの高さ	
		護 岸 状 況	
コ メ ン ト (そ の 他 の 情 報)			
位 置 図			
配 水 情 報			
導・送・配水管種別	・ 導 ・ 送 ・ 配	配 水 系 統	配水系
平 均 水 圧	M P a	平 均 流 量	m ³ / s e c

全 景 写 真	
左 岸 側 写 真	右 岸 側 写 真
空 気 弁 写 真	伸 縮 継 ぎ 手 写 真

【注】出来形成果総括表（A4 縦）のエクセル版は（上下水）総務課のホームページからダウンロードできます。

出来形成果総括表

記入例

工 事 名 配水管新設工事
 路線等の名称 市道〇〇線
 工 事 場 所 豊田市 〇〇町

仮設管、撤去管など設計書で一式計上となっている場合でも、できる限り具体的な数値を記入すること。
 （9-6-2 出来形管理 作成要領）

工 種	種 別	細 別	単 位	設計値 (水平延長)	実測値	差	規格値 (mm)	適 要
布設工	D I N	φ 2 0 0	m	49. 9	50. 2	+ 0. 3	- 200	
	D I N	φ 1 0 0	m	302. 4	302. 3	- 0. 1	- 200	
	D I N	φ 7 5	m	135. 3	135. 8	+ 0. 5	- 200	
	H P P	φ 5 0	m	178. 9	180. 0	+ 1. 1	- 200	
	仕切弁	φ 2 0 0	基	2	2	0	設計値以上	
	〃	φ 1 0 0	基	4	4	0	設計値以上	
	〃	φ 7 5	基	2	2	0	設計値以上	
	〃	φ 5 0	基	2	2	0	設計値以上	
	消火栓		基	2	2	0	設計値以上	
	排水設備		基	4	4	0	設計値以上	
	給水切替		件	5	5	0	設計値以上	
	仮設工	φ 50PEP	m	350	350	0	設計値以上	
舗装工	仮復旧工	t = 5 cm	m ²	123. 0	125. 0	+ 2. 0	設計値以上	
	本復旧工	機械（表層） t = 5 cm	m ²	145. 0	146. 4	+ 1. 4	設計値以上	
		機械（基層） t = 5 cm	m ²	76. 5	77. 2	+ 0. 7	設計値以上	
付帯工	既 設 管 撤 去 工	φ 100VP	m	320. 0	320. 0	0	設計値以上	

測定結果一覧表

工種

種別

測定者 豊田 水道 印

測定項目	掘削深度 H1			布設深度 H2			深度 H3			深度 H4			深度 H5			略図
規格値	±30			±30												
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
A路縁 (H/P φ75mm)																
No.0	890	890	±0	800	790	-10	700	690	-10	300	300	±0	150	150	±0	
No.0+25	890	900	+10	800	800	±0	700	700	±0	300	300	±0	150	150	±0	
No.0+50	890	890	±0	800	800	±0	700	700	±0	300	300	±0	150	140	-10	
B路縁 (DIN φ75mm)																
No.0	900	930	+30	800	800	±0	700	700	±0	300	300	±0	150	150	±0	
No.0+25	900	900	±0	800	800	±0	700	700	±0	300	300	±0	150	140	-10	
No.0+50	900	920	+20	800	820	+20	700	720	+20	300	310	+10	150	150	±0	
測定項目	深度 H6(仮寸下がり)			幅 W			埋戻厚 T1			下層路盤厚 T2			表層厚 T3			
規格値				-50			-30			-45			-7			
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
A路縁 (H/P φ75mm)																
No.1	100	100	±0	500	500	±0	400	390	-10	250	250	±0	50	50	±0	
No.1+25	100	95	-5	500	500	±0	400	400	±0	250	250	±0	50	55	+5	
No.1+50	100	100	±0	500	550	+50	400	400	±0	250	260	+10	50	40	-10	
B路縁 (DIN φ75mm)																
No.1	100	100	±0	600	600	±0	400	400	±0	250	250	±0	50	50	±0	
No.1+25	100	95	-5	600	700	+100	400	400	±0	250	260	+10	50	45	-5	
No.1+50	100	95	-5	600	600	±0	400	410	+10	250	260	+10	50	55	+5	

測定結果一覧表

工種 弁栓類据付工

種別 消火栓設置工 砕石基礎・深度

No.1

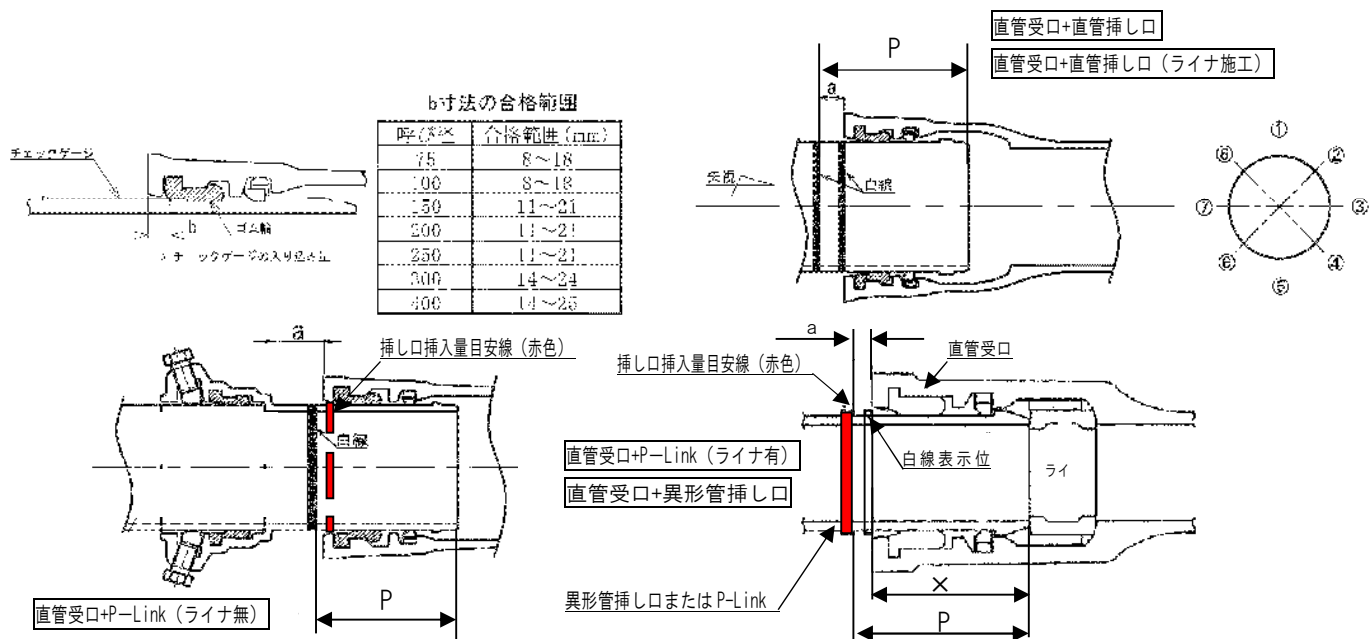
測定者 豊田 水道 印

測定項目	基礎砕石厚み T			基礎砕石幅 W1			基礎砕石幅 W2						略図	
規格値	-30			-50			-50							
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差					
A路縁														
No.1+10	100	100	±0.000	500	500	±0.000	500	500	±0.000					
B路縁														
No.5+50	100	100	±0.000	500	500	±0.000	500	500	±0.000					
測定項目													略図	
規格値														
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差		

水道管継手管理表

GX形直管受口継手部 (φ75～400mm)

工 事 名			路線等の名称		
工事場所	豊田市	地内	工期	年 月 日 ～	年 月 日
請 負 者		測 定 者		継手管理路線名	



P-Link が許容曲げ角度内で接合されているか確認するため、a 寸法を4か所計測し、計測値の最大差 (X a) が基準値内であることを確認・管理する。

a 寸法は10mm以下で管理する。
接合後、赤線で管理した証拠として白線を明示する。

判定基準

- ※1 ライナが受口奥部に当たっていればOK、当たっていなければ奥まで挿入、OKになれば○を記入。
- ※2 受口溝、ロックリング、ロックリングホルダを確認したら○を記入。
- ※3 ライナ付直管受口の場合、のみ込み量の実測値 (X) を白線 (色鉛筆) で表示したら○を記入。
- ※4 白線が全周にわたり受口端面位置にあれば○を記入、
异形管挿し口の場合は、挿し口外周に受口端面位置の白線を明示したら○を記入
- ※5 bの寸法を記入し、寸法が上記の表に示す合格範囲内であること。
- ※6 aの寸法を記入し、异形管挿し口、P-Link (ライナ有) の場合は寸法が10mm以下であること。
また、すべてにおいて4か所の最大差 (X a) が基準値 (3-2-7の表のX寸法) 内であること。
- ※7 全ての項目がOKであれば○を記入する。○とならなければ解体して再接合する。
- 注1 突部があれば有と記入、無ければP-Link、又は挿し口リングを使用する。

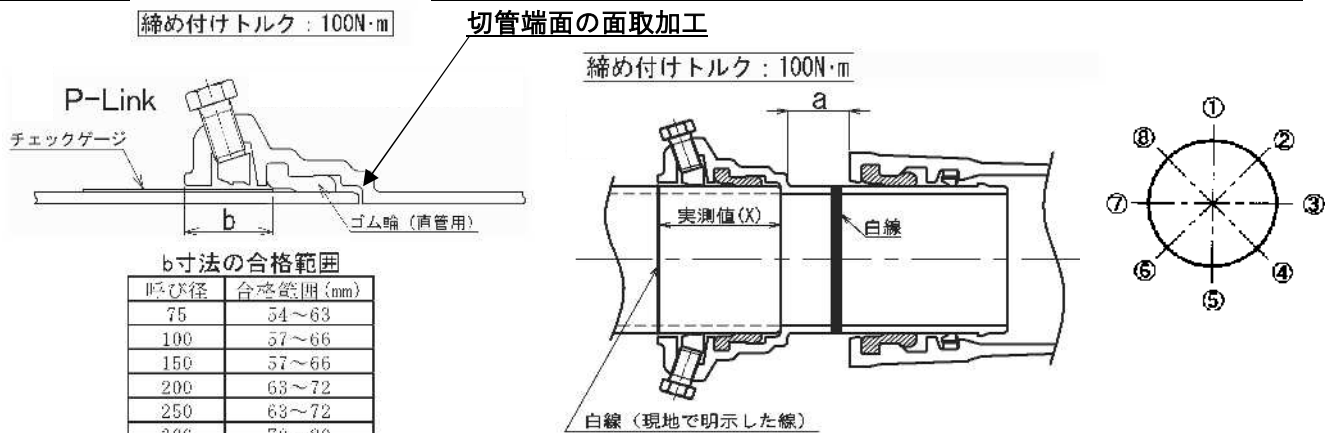
口 径		φ		※φ75のみゴム輪間隔b計測は①③⑤⑦とできるが、その場合は、②④⑥⑧について異常がないか確認し○を記入すること。																	
継手番号	挿し口突部の有無 注1	清掃及び面取	ライナの位置確認 ※1	受口溝 の確認 ※2	挿し口の挿入量の明示 ※3	滑剤	白線位置の確認及び明示 ※4	標線寸法 P (mm)	受口面 ゴム輪間隔 b (mm) ※5								標線受口間隔 a (mm) ※6				判定 ※7
									①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	③	⑤	⑦	

G X形直管継手部 (φ 75 ~ 400 mm)

[illegible]

切管端面と P-Link 接続部 (φ75~300mm)

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日		
請 負 者		測定者		継手管理路線名		



切管端部に P-Link を接続する場合は、現地で P-Link にゴム輪をセットする前に P-Link 端面から奥部までののみ込み量の実測値 (X) を計測し、挿し口外周全面に白線で明示し、そこまで確実に挿入されているか確認し、b 寸法を計測する。

判定基準

- ※1 切管端面に3.0×3.0mmのテーパ加工を全周にわたり行い、バリをしっかりと取り除き、塗料で補修したら○を記入。
- ※2 のみ込み量の実測値(×)を白線(色鉛筆)で表示したら○を記入。
- ※3 爪、押ボルトを確認したら○を記入。
- ※4 白線が全周にわたり受口端面位置にあれば○を記入、
- ※5 締め付けた押しボルトの本数を記入。
- ※6 押ボルトを規定のトルク(100N・m)で締め付けていれば○を記入。
- ※7 bの寸法を記入し、寸法が上記の表に示す合格範囲内であること。
- ※8 全ての項目がOKであれば○を記入する。○とならなければ解体して再接合する。

[illegible]

G X形継手部 切管端面とP-Link 接続部 (φ75~300mm)

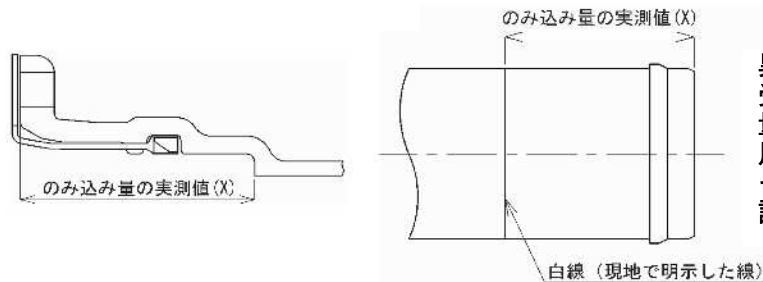
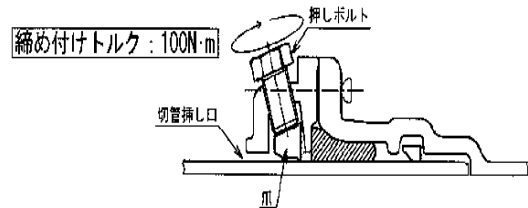
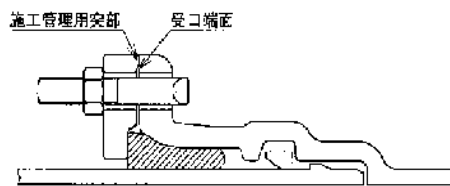
※φ75のみゴム輪間隔bの計測は①③⑤⑦とできるが、その場合は、②④⑥⑧について異常がないか確認し○を記入すること。

[illegible]

G X形異形管継手部 (φ 75~400mm)

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日		
請 負 者		測 定 者			継手管理路線名	

G-Link 使用時



異形管受口に挿入する前に、現地で受口端面から奥部までの、のみ込み量の実測値 (X) を計測し、挿し口外周全面に白線 (色鉛筆) で明示し、そこまで確実に挿入されているか確認する。

判定基準

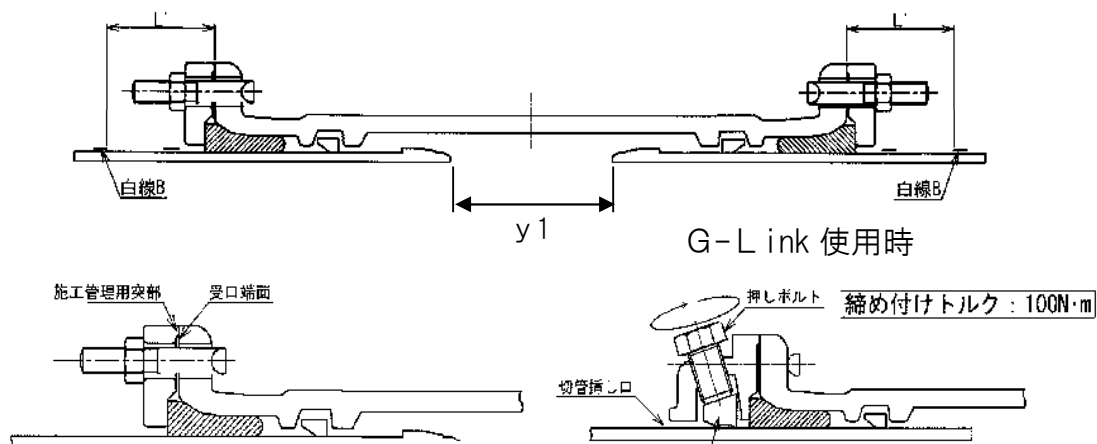
- ※1 G-Link を使用する場合、爪、押しボルトを確認したら○を記入。
- ※2 ゴム輪、押輪、G-Link を所定の向きで挿し口に設置したら○を記入。
- ※3 管を上下左右前後に振り、継手が抜出さないことを確認。(G-Link 使用時は除く)
- ※4 押輪の施工管理用突部と受口端面がメタルタッチしていること(厚さ 0.5 mm の隙間ゲージが入らないこと)
- ※5 締め付けた押しボルトの本数を記入。
- ※6 ボルト・ナットにゆるみがないこと。仕様書 3-2-9 に定めるトルクで締付されていること。
- ※7 全ての項目が○K であれば○を記入する。○とならなければ解体して再接合する。
- 注) 挿し口突部のない挿し口を異形管挿し口と接合する場合は、G-Link を使用する。

G X形異形管継手部 (φ 75 ~ 400 mm)

10-77

G X形繼輪繼手部 (φ 75~400mm)

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年	月	日
請 負 者		測 定 者		継手管理路線名		



判定基準

- ※1 白線2本を明示したら○を記入。
 ※2 ゴム輪、押輪、G-Link を所定の向きで挿し口に設置したら○を記入。
 ※3 押輪の施工管理用突部と受口端面がメタルタッチしていること（厚さ0.5mmの隙間ゲージが入らないこと）。
 ※4 ボルト・ナットにゆるみがないこと。仕様書3-2-9に定めるトルクで締付されていること。
 ※5 寸法を計測し、記入する。3-2-11に定める寸法であること。
 ※6 寸法を計測し、記入する。3-2-11に定める寸法であること。
 ※7 全ての項目が○Kであれば○を記入する。○とならなければ解体して再接合する。
 注1 挿し口突部のない挿し口を異形管挿し口と接合する場合は、G-Linkを使用する。
 注2 G-Linkの場合に爪、押しボルトを確認したら○を記入。それ以外は一を記入。

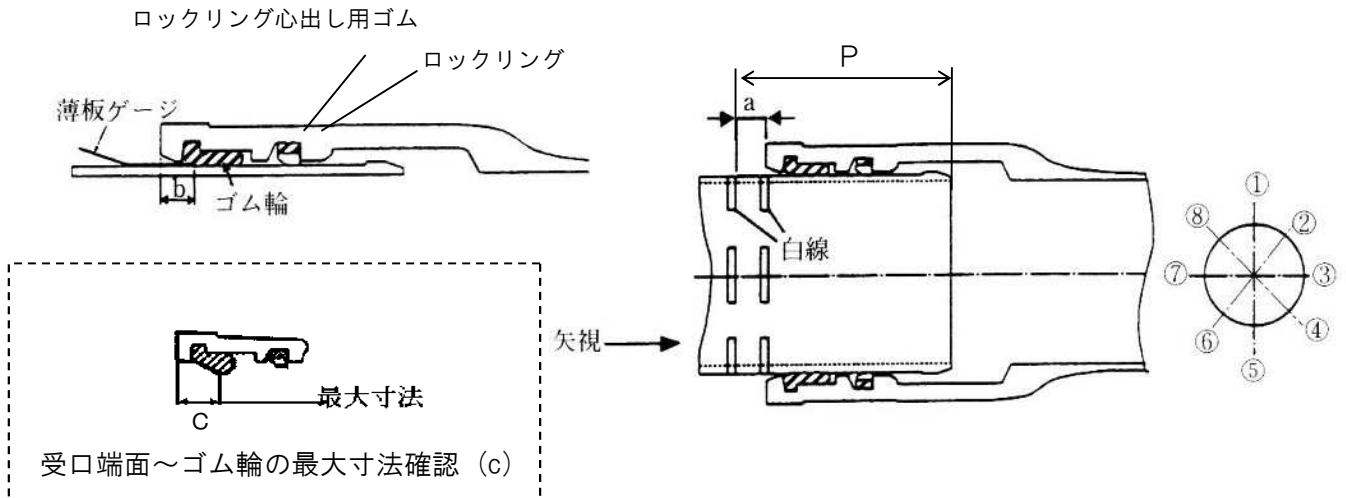
[illegible]

G X形繼輪繼手部 (φ 75~400mm)

— 1 注番無
号

NS形継手部 (φ75~450mm)

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年	月	日
請 負 者		測 定 者		継手管理路線名		

[illegible]

判定基準：受口端面～ゴム輪間隔(b)＜受口端面～ゴム輪の最大寸法(c)

NS形継手部 (φ 75 ~ 450 mm)

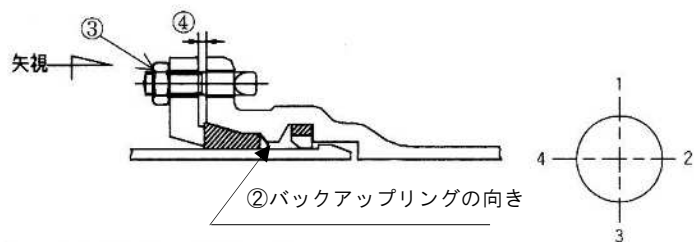
[illegible]

10-81

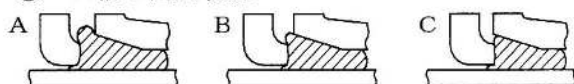
水道管継手管理表

NS形異形管継手部 (φ300～450mm)

工 事 名			路線等の名称				
工事場所	豊田市		工期	年 月 日		～ 年 月 日	
請 負 者			測定者			継手管理路線名	

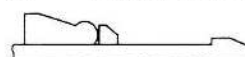


⑤ゴム輪の出入状態



②バックアップリングの向き

※テーパ部は挿し口端面側にあるか



判定基準

- ・ 管を上下左右前後に振り、継手が拔出さないことを確認。
- ・ ④押輪受口間隔(mm) : 最大値－最小値≤5mm(同一円周上)
- ・ ⑤ゴム輪の状態 : 同一円周上でA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

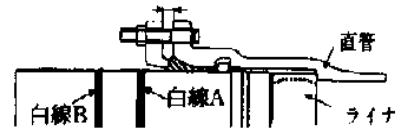
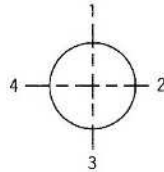
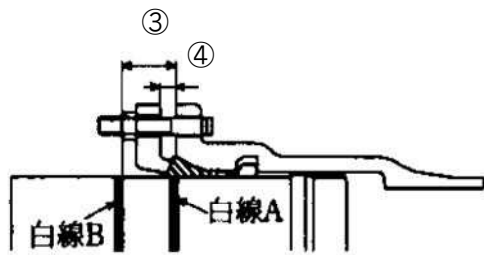
口 径		φ						標線受口間隔 (mm)				④ 押輪受口間隔 (mm)				⑤ ゴム輪の状態			
継手 番号	清掃	締付 トルク量 (N・m)	滑 剤	グ ン リ ク 受 口 溝 の 確 認	リ ン グ の 確 認	② バック アップ リング の 向 き	プ	上	右	下	左	上	右	下	左	上	右	下	左

NS形異形管継手部 (φ300~450mm)

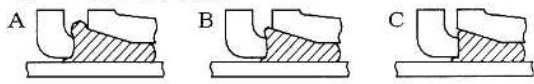
10-83

($\phi 500 \sim 1000$ mm)

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日		
請 負 者		測 定 者			継手管理路線名	



⑤ ゴム輪の出入状態



判定基準

- ・ 管を上下左右前後に振り、継手が拔出さないことを確認。
- ・ ④押輪受口間隔(mm) : 最大値－最小値 ≤ 5 mm(同一円周上)
- ・ ⑤ゴ ム 輪 の 状 態 : 同一円周上でA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

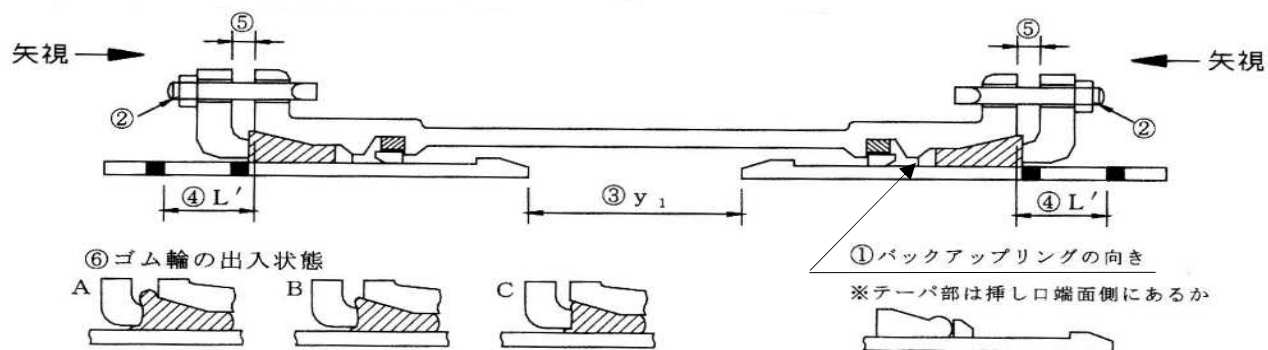
[illegible]

($\phi 500 \sim 1000$ mm)

10-85

NS形継輪継手部 (φ75~1000mm)

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日		
請 負 者		測 定 者		継手管理路線名		



判定基準

- ・ ⑤押輪受口間隔(mm) : 最大値－最小値 ≤ 5 mm(同一円周上)
- ・ ⑥ゴ ム 輪 の 状 態 : 同一円周上でA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

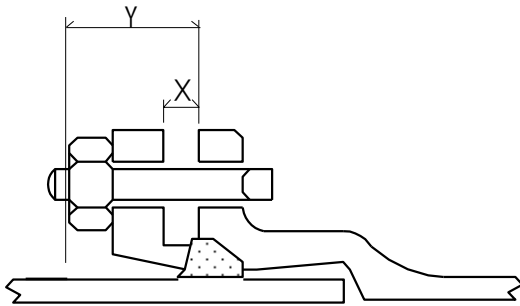
[illegible]

NS形継輪継手部 (φ75~1000mm)

10-87

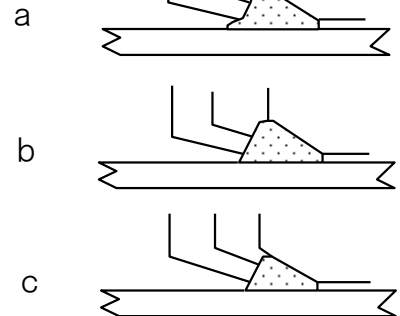
K形継手部 (φ75~1000mm)

工 事 名			路線等の名称		
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日	
請 負 者		測 定 者		継手管理路線名	



- ・ 継手種類は、普通押輪「普」、特殊押輪「特」と記入する。
- ・ 切管は、必ず標線を書く。
- ・ 継輪施工箇所の標線受口間隔 Y (mm) は記入しないで「上」の欄に「継」と記載する。
- ・ 押輪・特殊押輪は、ボルトおよび径を確認。(メーカー確認)

ゴム輪の状態



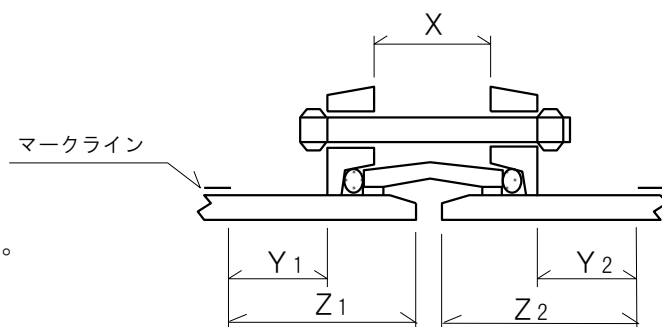
判定基準

- ・ 押輪受口間隔 X (mm) : 最大値－最小値 ≤ 5 mm (同一円周上)
- ・ 標線受口間隔 Y (mm) : $\phi 75 \sim 250 \text{ mm}$ $Y \leq 95 \text{ mm}$
 $\phi 300 \sim 600 \text{ mm}$ $Y \leq 107 \text{ mm}$
- ・ ゴム輪の状態 : 同一円周上で A, C または A, B, C が同時に存在しないこと。

K形継手部 (φ 75~1000mm)

10-89

ドレッサー継手部



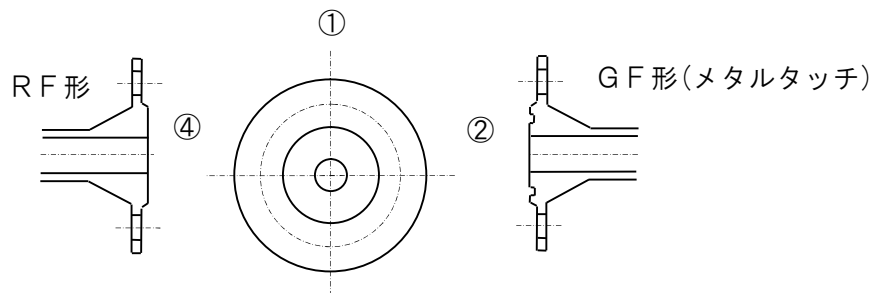
- すべて1つの継手として取り扱う。

ドレッサー継手部

10-91

フランジ継手部

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日		
請 負 者		測 定 者			継手管理路線名	



RF形及びGF形

- ・ ボルトのゆるみチェック
ゆるみ無し「○」、ゆるみ有り「×」を記入する。

GF形

- ・ 溝内清掃……清掃済は「○」、未清掃は「×」を記入する。
- ・ すきまゲージ (0.9 mm厚) によるチェック
ゲージが入らない場合は「○」を記入する。
ゲージが入る場合は「×」を記入する。

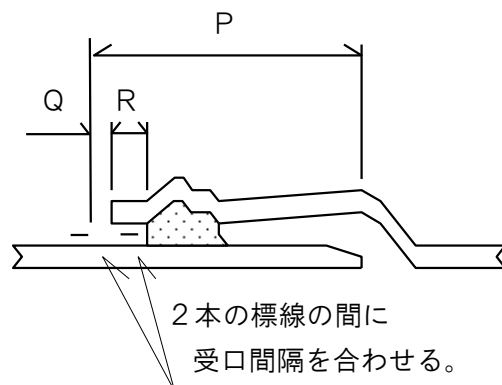
フランジ継手部

[illegible]

ゴム輪形（RR）工法継手部

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年	月	日
請 負 者		測 定 者		継手管理路線名		

- ・ ゴム輪の位置Rは、チェックゲージで全周を確認する。状態がよければ、「○」を記入する。
- ・ 2本の標線の間を受口間隔を合わせる。

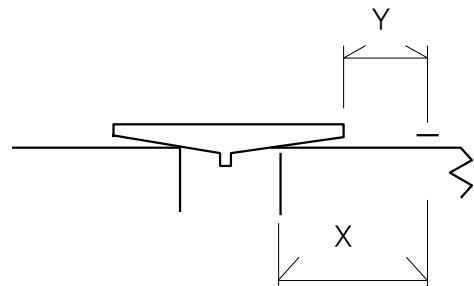
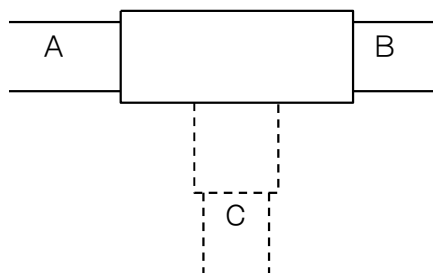


ゴム輪形（RR）工法継手部

10-95

TS工法継手部

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日		
請 負 者		測 定 者			継手管理路線名	



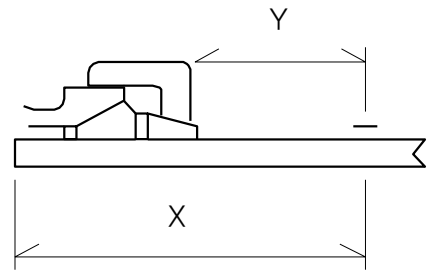
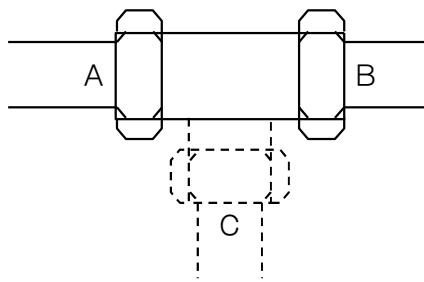
- ・ 異形管は、すべて1つの継手として取り扱う。
- ・ チーズは、3方向とも記入する。

TS工法継手部

10-97

鋼管 ネジなし継手部 (H I-L A 接合部)

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日		
請 負 者		測 定 者			継手管理路線名	



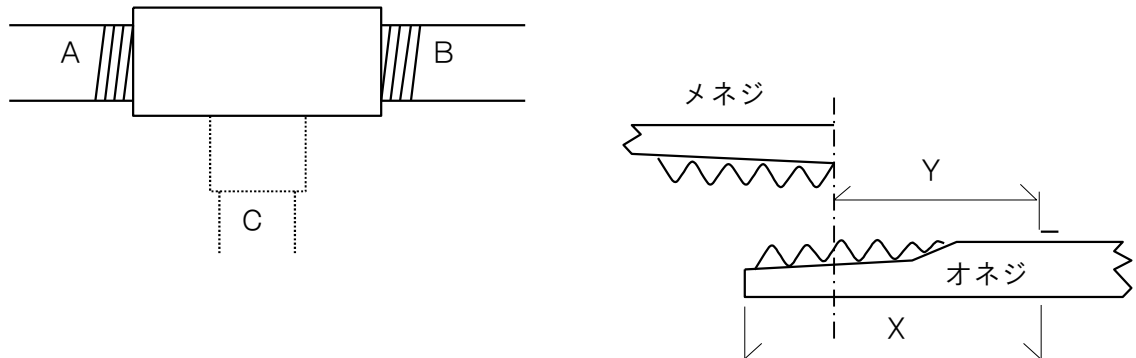
- ・ 異形管は、すべて1つの継手として取り扱い、チーズは3方向とも記入する。

鋼管 ネジなし継手部 (H I-L A接合部)

10-99

鋼管 ネジ込み継手部

工 事 名			路線等の名称			
工事場所	豊田市		工期	年 月 日 ～ 年 月 日		
請 負 者		測 定 者			継手管理路線名	



- ・ ネジ山のは、完全に加工された数を記入する。
- ・ 異形管は、すべて1つに継手として取り扱い、チーズは3方向とも記入する。

鋼管 ネジ込み継手部

10-101

水道管継手管理表

水道配水用ポリエチレン管（HPP）継手部

工 事 名		工 事 場 所	豊田市
請 負 者		継 手 管 理 路 線 名	
現場代理人		測 定 者	

・ HPP製フランジ（GF形）締付トルク

φ50－30N・m φ75－40N・m φ100－45N・m φ150－60N・m

・ 鋳鉄製フランジ（GF形）締付トルク及びメカ締付トルク

φ50～150－60N・m

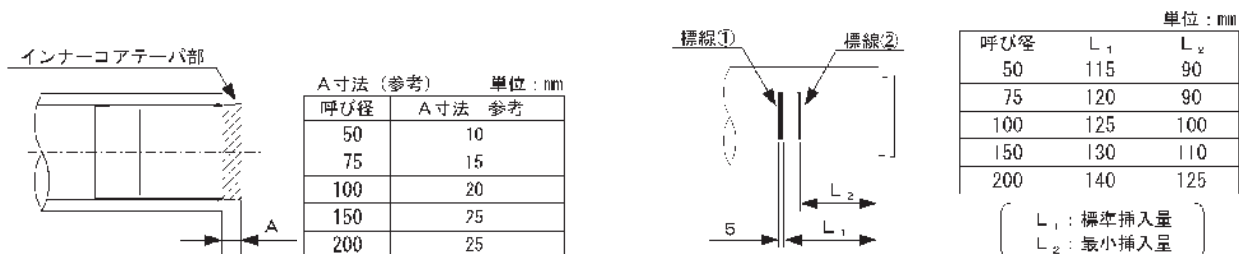
継手番号	口 径	記入 切削 線の	清掃 管の 切削	記入 標線 の	固定 クラン プ	気温 ℃	時刻 融着 開始	時刻 融着 終了	時刻 冷却 終了	冷却 時間 分	締め 付け トルク	標線 受口 間隔
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			
							:	:	:			

水道管継手管理表 水道配水用ポリエチレン管（HPP）メカニカル継手部

工 事 名		工 事 場 所	豊田市
請 負 者		継 手 管 理 路 線 名	
現場代理人		測 定 者	

<インナーコア取付け>

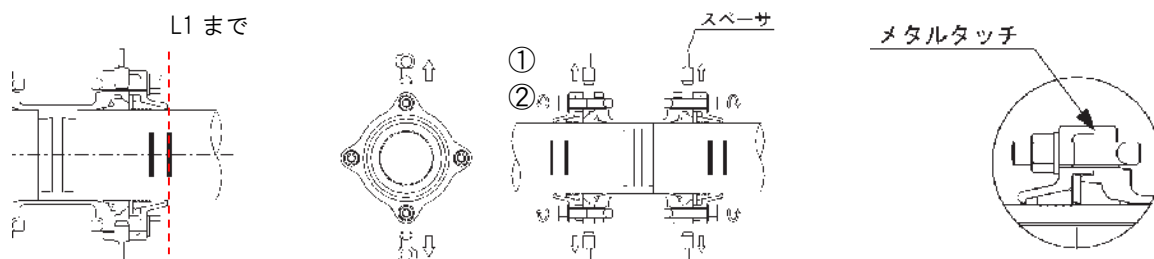
<標線寸法>



<管挿入>

<スペーサ取外し>

<押輪と本体のメタルタッチ>



- ・管切断は、管軸に対し直角になるよう行い、切断線を全周記入して、所定の器具で切断する。
- ・管の清掃は、管端のバリを除去し、管端から 20 cm 以上の内外面を全周にわたり実施。（砂、油除去）
- ・インナーコアが入りにくい場合は、直接ハンマ等でたたかず、角材を当て、プラスチックハンマで軽くたたいて挿入。
- ・滑剤は、継手受け口のゴム内面に塗布し、水道用を使用する。
- ・スペーサ取外しが困難な場合は、ナットを手又はスパナ等で少し緩める。
- ・T 頭ナット・ナットを押輪と継手本体がメタルタッチするまで締付ける。

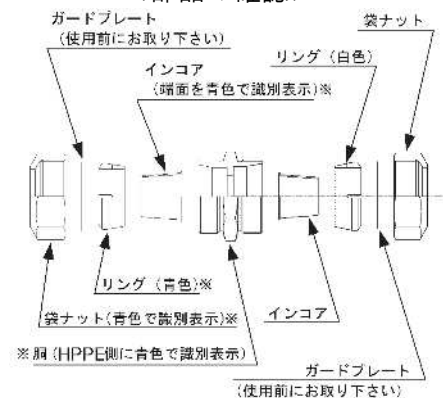
注) 1 つの材料で継手管理は、2 か所実施する。

継手番号	口径	切断線 記入	管の 切断・清掃	インナーコア 取付け	標線 記入	滑剤 塗布	管挿入 (L1 まで)	スペーサ取外し ・締付	メタルタッチ 押輪と本体

変換ソケット (HPP×PEP) 継手部

工 事 名		工 事 場 所	豊田市
請 負 者		継 手 管 理 路 線 名	
現場代理人		測 定 者	

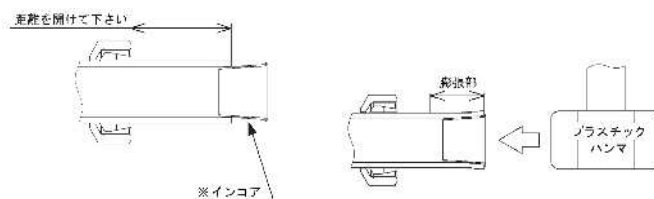
＜部品の確認＞



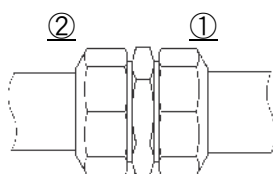
注)

- ・φ50mm のみH P P側の部品は青色、若しくは青色の塗装が施されている。ただし、インコアはP E P側と明確に形状で識別できるため、端面の青色塗装はない。
- ・ガードプレートは継手の接合に使用しないため、接続前に取外すこと。

＜インコア打ち込み＞



單位：N · m



呼び径	標準締付トルク
30～40	120
50	150

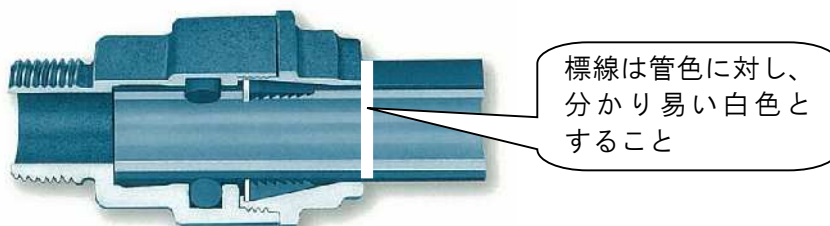
注) 1つの材料で継手管理は、2か所実施する。

[illegible]

水道管継手管理表 ポリエチレン管ワンタッチ継手部

工 事 名		工 事 場 所	豊田市
請 負 者		継 手 管 理 路 線 名	
現場代理人		測 定 者	

- ・工種の欄は、本管、排水設備、給水、仮設などを記載する。
- ・管端面は、できる限り直角となっているか、問題なければ○とし、問題があれば再切断する。
- ・標線位置は、メーカーごとに異なるが、継手の目安線を用いて全周記入する。



- ・インコアの有無は、メーカーにより異なるが、有る場合に管理し、無い場合は「—」と記入する。
- ・滑剤は、インコア挿入により不要となる場合があるので、その場合は「—」と記入する。

[illegible]

H P P 通水試験記録

試験日

年 月 日

工 事 名		測定場所	
請 負 者		管 径 試験延長	H P P ϕ mm L = m
現場代理人		測 定 者	

- 1 通水は最後のE F 接合終了後、最低1時間以上経過してから行う。
- 2 通水は消火栓などを開いて、管内の空気を除去しながら行う。満水になったら試験区間の弁を閉じ、消火栓などに取り付けた水圧計により圧力低下の有無を確認する。
- 3 水圧試験は、管内空気や管膨張の影響により漏水がない場合でも初期水圧値が低下するため、最大500m以内で実施する。

試 験 内 容	実 測 値		備 考
1. 管路の水圧を 0.75MPa に上昇させる。	時 間	:	
2. 5分間放置し、水圧を測定する。	水 圧	MPa	
3. 水圧を 0.75MPa まで再加圧する。	時 間	:	
4. 再加圧後、すぐに0.5MPa まで減圧する。(そのまま1時間放置)	時 間	:	
5. 放置してから、1時間後の水圧を測定する。 0.4MPa 以上の場合は合格	時 間	:	判定 合 ・ 否
	水 圧	MPa	
6. 水圧が0.4MPa 未満の場合は、放置してから、24時間後の水圧を測定する。 0.3MPa 以上の場合は合格	測定日	月 日	判定 合 ・ 否
	時 間	:	
	水 圧	MPa	

不合格の場合は原因を調査し、修繕後に再試験を実施する。

原 因	
修繕内容	

鑄鉄管腐食度調査票

豊田市事業管理者 様

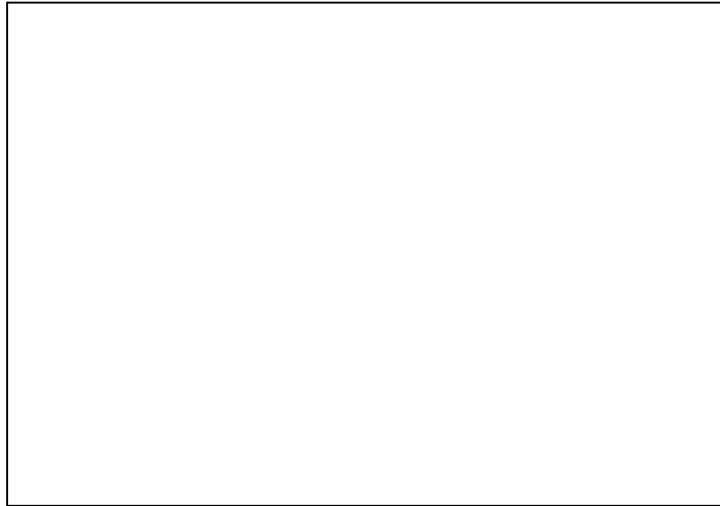
工事名			路線名称		
調査場所	豊田市 町		調査年月日	年 月 日	
請負者			測定者		
管の履歴	・ 口径 mm		・ 布設年度 年〔布設後 年経過〕		
調 査 項 目		判 定 値	判 定 区 分		
埋設状況	土 質		1、入替土（山砂、改良土） 2、在来土 3、粘性土、有機質土、腐植土		
	土 の 状 態		1、比較的乾燥 2、湿っている 3、地下水、湧水がある		
外面の腐食	管 頂		mm	1、ほとんど無し 2、腐食が始まりかけている 3、腐食が進行している（対策を要す） ※3の場合のみ腐植深度を測定	
	管 底		mm		
	管北〔東〕		mm		
	管南〔西〕		mm		
内面の状態	管 頂		1、ほぼ良好 2、一部にサビこぶの発生有り 3、サビこぶによる断面阻害が大		
	管 底				
	管北〔東〕				
	管南〔西〕				
ボルト・ナット	管 頂		1、ほぼ正常 2、腐食が始まっているが、所定の形状 3、腐食が激しく、肉厚が減少している		
	管 底				
	管北〔東〕				
	管南〔西〕				

位 置 図

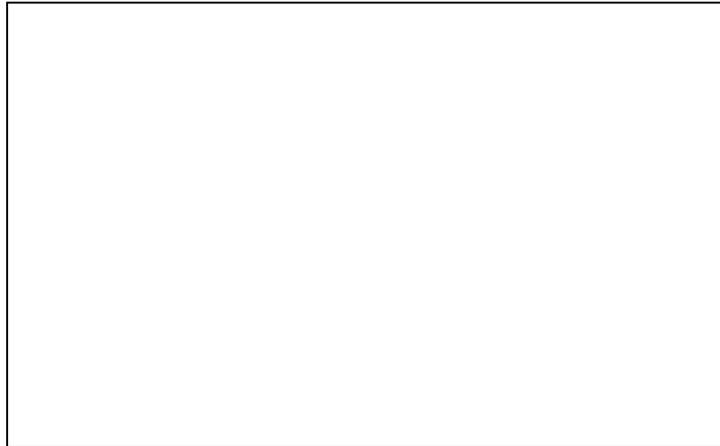
--

状 況 写 真

1 外面の腐食



2 内面の腐食



3 ボルト・ナットの腐食



出来形管理様式例（様式1－3 測定結果一覧表）

その他の様式を使用する場合は、愛知県建設局の土木工事現場必携を参照のこと。

様式1－3(出来高管理) 測定結果一覧表

工種		測定者												印	
種別		基準高▽ -30～+30 mm			幅W -30～ mm									略 図	
測定項目 規格値 測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差			
No.0															
No.0+25															
No.1															
No.1+25															
測定項目 規格値 測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差

品質管理様式例（様式 33-2 合材の敷均し温度測定）

その他の様式を使用する場合は、愛知県建設局の土木工事現場必携を参照のこと。

様式 33-2

アスファルト混合物の敷均し時の温度測定

工 事 名

請負者名

工 種 名

測定者

[illegible]

豊上下水総第1898号

平成24年 1月19日

東邦ガス株式会社 東部センター
所 長 服 部 守 雄 様

豊田市事業管理者

横 地 清 明



高中圧ガス管のサンドブラスト対策について（回答）

平成24年 1月16日付き、東ガ（導）東第11-155号の依頼について回答いたします。

水道管にゴムシートを巻くことについては以下の条件をつけて了承します。

1 施工対象

ゴムシートを巻く水道管はφ50mm以上とし、水道管がガス管を上越し交差する場合とします。施工範囲は交差するガス管を中心とした1.0mとします。又、水道工事が原因でガス管にゴムシートを巻く範囲は水道管埋設工事の掘削幅とします。水道管と高中圧ガス管が平行して近接する場合は、別途協議するものとします。

2 施工方法

上下水道局職員及び水道管施工業者の立会のもと、貴社により施工を行って下さい。

3 施工費用

材料費・取付け施工費は貴社の費用とします。

4 その他

給水管の取出し、漏水等によりゴムシートが支障となった場合は豊田市上下水道局の判断により取外します。ゴムシートの復旧については貴社と協議します。

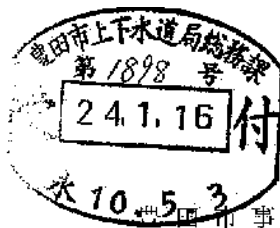
5 実施時期

平成24年4月1日からとします。

以上

連絡先 豊田市上下水道局 上下水総務課 技術担当 澤田 真

TEL 0565-34-



事業管理者
横地 清明 殿

東ガ(導)東 第11-155号
平成 24年 1月 16日

東邦ガス株式会社 東部センター
所 長 服 部 守 雄



高中圧ガス導管のサンドブラスト対策について（依頼）

平素はガス事業に格別のご理解、ご高配を賜りまして厚くお礼申し上げます。

標記につきまして、高中圧ガス導管は、地域の安定供給を担う重要なネットワークであり、昨今では工業用需要の増加に伴い、その重要性が益々高まっております。

この重要なガス導管の機能を保全し、安全性を維持していくために、サンドブラスト現象によるガス導管の損傷を予防したいと考えております。

したがいまして、高中圧ガス導管と水道管が近接する部分のサンドブラスト対策について、ご協力をお願いするものです。

1. お願い事項

高中圧ガス導管と水道管との離隔が、50 cmを確保できない近接部箇所に、ゴムシートを巻くものです。

(1) 施行方法

- ① 水道管がガス管を上越し交差する場合は、水道管にゴムシート巻きをお願いします。
- ② 水道管がガス管を下越し交差する場合は、掘削して露出するガス管にゴムシート巻きをお願いします。
- ③ 水道管とガス管が平行して近接する場合は、別途、事前協議で対策を決定するものとします。

(2) 施行確認・費用

上記施行は、保安協定第8条（防護工事の施行区分等）のうち吊り防護、受け防護などの区分と同等の防護工事とし、原則工事施工者が施行するものとします。

防護に関する材料（ゴムシート、固定するためのバンド）は、弊社で用意します。

2. 実施時期

貴市の回答をもって、施行開始といたします。

3. 担当者

東部センター 岡崎導管課

TEL (0564) 21-2610

〔水道配水用ポリエチレン管用EFコントローラ・専用工具 日常点検チェックシート〕

点検日時 年 月 日 時 点検者名

確認項目	確認内容	確認結果		
EF コントローラ	外観確認	コントローラ本体に破損・損傷がないか確認して下さい	☐ 良好	☐ 異常
		電源・出力ケーブルに破損・損傷がないか確認して下さい	☐ 良好	☐ 異常
	付属品	付属品は揃っていますか	マルチアダプター2個1組 ☐ 4.0mm用 ☐ 4.7mm用 ☐ バーコードリーダー ☐ 電源変換アダプターケーブル (JWEF200N/200N-2)	
		機能確認	出力コネクタとマルチアダプターの差込具合は良好ですか	☐ 良好
	マルチアダプターに異物が混入していませんか		☐ 良好	☐ 異常
	マルチアダプターの電極端子が変形していませんか		☐ 良好	☐ 異常
	マルチアダプターの電極端子の保持力は充分ですか		☐ 良好	☐ 異常
	電動ファンは作動していますか		☐ 良好	☐ 異常
	バーコードリーダーは発光していますか		☐ 良好	☐ 異常
	液晶画面は正常に表示されていますか			
	※日時・時刻は正しく表示されていますか		☐ 良好	☐ 異常
	※外気温は表示されていますか		☐ 良好	☐ 異常
	※入力電圧が表示されていますか		☐ 良好	☐ 異常
		漏電ブレーカの動作確認をして下さい	☐ 良好	☐ 異常
	専用 工具類	工具	確認内容	確認結果
クランプ		各部に破損や汚れはありませんか	☐ 良好	☐ 異常
		各部（可動部、締付け部）の作動具合は良好ですか	☐ 良好	☐ 異常
スクレーパ		各部に破損や汚れはありませんか	☐ 良好	☐ 異常
		各部（可動部、締付け部）の作動具合は良好ですか 切削具合は良好ですか（刃部の調整または刃の交換の要否確認）	☐ 良好	☐ 異常
カッター		刃の破損や曲がりはありませんか	☐ 良好	☐ 異常
		切断具合は良好ですか（刃の交換の要否確認）	☐ 良好	☐ 異常
延長コード	破損や汚れはありませんか 通電チェックをして下さい	☐ 良好	☐ 異常	

点検日時 年 月 日 時 点検者名

確認項目	確認内容	確認結果		
EF コントローラ	外観確認	コントローラ本体に破損・損傷がないか確認して下さい	☐ 良好	☐ 異常
		電源・出力ケーブルに破損・損傷がないか確認して下さい	☐ 良好	☐ 異常
	付属品	付属品は揃っていますか	マルチアダプター2個1組 ☐ 4.0mm用 ☐ 4.7mm用 ☐ バーコードリーダー ☐ 電源変換アダプターケーブル (JWEF200N/200N-2)	
		機能確認	出力コネクタとマルチアダプターの差込具合は良好ですか	☐ 良好
	マルチアダプターに異物が混入していませんか		☐ 良好	☐ 異常
	マルチアダプターの電極端子が変形していませんか		☐ 良好	☐ 異常
	マルチアダプターの電極端子の保持力は充分ですか		☐ 良好	☐ 異常
	電動ファンは作動していますか		☐ 良好	☐ 異常
	バーコードリーダーは発光していますか		☐ 良好	☐ 異常
	液晶画面は正常に表示されていますか			
	※日時・時刻は正しく表示されていますか		☐ 良好	☐ 異常
	※外気温は表示されていますか		☐ 良好	☐ 異常
	※入力電圧が表示されていますか		☐ 良好	☐ 異常
		漏電ブレーカの動作確認をして下さい	☐ 良好	☐ 異常
	専用 工具類	工具	確認内容	確認結果
クランプ		各部に破損や汚れはありませんか	☐ 良好	☐ 異常
		各部（可動部、締付け部）の作動具合は良好ですか	☐ 良好	☐ 異常
スクレーパ		各部に破損や汚れはありませんか	☐ 良好	☐ 異常
		各部（可動部、締付け部）の作動具合は良好ですか 切削具合は良好ですか（刃部の調整または刃の交換の要否確認）	☐ 良好	☐ 異常
カッター		刃の破損や曲がりはありませんか	☐ 良好	☐ 異常
		切断具合は良好ですか（刃の交換の要否確認）	☐ 良好	☐ 異常
延長コード	破損や汚れはありませんか 通電チェックをして下さい	☐ 良好	☐ 異常	

